

緑と水の森林ファンド都道府県事業報告集

Vol. 12



森林ボランティア養成講座（茨城県）

はじめに

昭和 63 年に 3 月に「緑と水の森林基金」が創設されてから、36 年余の歳月が経過しました。平成 23 年 7 月には、機構の組織が社団法人から公益社団法人に変更となったことに伴い「緑と水の森林基金」は「緑の水の森林ファンド」に名称を変更し、ファンドの運用収入を活用して森林資源の整備や水源かん養等の課題を中心に、「国民参加の森林づくり運動」推進のため幅広い事業を展開してまいりました。

2015 年（平成 27 年）9 月の国連サミットで採択された持続可能な開発目標（SDGs）の達成や、人生 100 年時代におけるライフステージに応じた健康・教育・観光等への森林空間利用の促進を念頭に、森林の重要性に対する理解の推進を図るとともに、森のようちえんなど新たな森林の利用や森林環境教育の推進を具体的に図っていくことが重要となっています。さらに、東日本大震災では海岸林が多大な被害を受け、今なお森林復興への支援が引き続き求められています。

このような中で、当事業は、「国民参加の森林づくり」の一層の推進のための普及啓発、森林ボランティア活動への支援、森林環境教育を通じた次世代の育成などの課題を重点に、実施主体により中央事業、都道府県事業、公募事業の 3 つに区分し実施してまいりました。

本報告書は、このうち都道府県事業（令和 4 年度）（令和 3 年度・事業期間延長分）の成果を報告集として取りまとめたもので、事業内容は多種多様な課題にわたっております。ご高覧いただき皆様の活動の一助としてご活用いただければ幸いです。

終わりに、本冊子のとりまとめに当たりまして、ご協力いただきました皆様方に心から御礼申しあげます。

令和 6 年 3 月

公益社団法人 国土緑化推進機構

緑と水の森林基金・ファンド 刊行物一覧

「緑と水の森林基金」事業事例集	21世紀へ引き継ぐ森林づくり	平成2年版	(1992.4)
「緑と水の森林基金」事業事例集	21世紀へ引き継ぐ森林づくり	平成3・4年版	(1994.8)
「緑と水の森林基金」事業事例集	21世紀へ引き継ぐ森林づくり	平成5・6年版	(1996.3)

緑と水の森林基金	公募事業	調査研究成果選集	VOL1	緑と水のサイエンス	(1996.8)
緑と水の森林基金	公募事業	調査研究成果選集	VOL2	緑と水のサイエンス	(2001.7)
緑と水の森林基金	公募事業	調査研究成果選集	VOL3	緑と水のサイエンス	(2004.6)
緑と水の森林基金	公募事業	調査研究成果選集	VOL4	緑と水のサイエンス	(2007.8)
緑と水の森林基金	公募事業	調査研究成果選集	VOL5	緑と水のサイエンス	(2009.5)
緑と水の森林基金	公募事業	調査研究成果選集	VOL6	緑と水のサイエンス	(2010.4)

緑と水の森林基金	緑と水の森林基金公募事業報告集	VOL1	(2011.3)
緑と水の森林基金	緑と水の森林基金公募事業報告集	VOL2	(2012.3)
緑と水の森林ファンド	緑と水の森林ファンド公募事業報告集	VOL3	(2012.12)
緑と水の森林ファンド	緑と水の森林ファンド公募事業報告集	VOL4	(2013.12)
緑と水の森林ファンド	緑と水の森林ファンド公募事業報告集	VOL5	(2015.3)
緑と水の森林ファンド	緑と水の森林ファンド公募事業報告集	VOL6	(2016.2)
緑と水の森林ファンド	緑と水の森林ファンド公募事業報告集	VOL7	(2017.2)
緑と水の森林ファンド	緑と水の森林ファンド公募事業報告集	VOL8	(2018.2)
緑と水の森林ファンド	緑と水の森林ファンド公募事業報告集	VOL9	(2019.2)
緑と水の森林ファンド	緑と水の森林ファンド公募事業報告集	VOL10	(2020.2)
緑と水の森林ファンド	緑と水の森林ファンド公募事業報告集	VOL11	(2021.2)
緑と水の森林ファンド	緑と水の森林ファンド公募事業報告集	VOL12	(2022.3)
緑と水の森林ファンド	緑と水の森林ファンド公募事業報告集	VOL13	(2023.6)
緑と水の森林ファンド	緑と水の森林ファンド公募事業報告集	VOL14	(2024.3)

緑と水の森林ファンド	緑と水の森林ファンド都道府県事業報告集	VOL1	(2013.3)
緑と水の森林ファンド	緑と水の森林ファンド都道府県事業報告集	VOL2	(2013.12)
緑と水の森林ファンド	緑と水の森林ファンド都道府県事業報告集	VOL3	(2014.12)
緑と水の森林ファンド	緑と水の森林ファンド都道府県事業報告集	VOL4	(2016.2)
緑と水の森林ファンド	緑と水の森林ファンド都道府県事業報告集	VOL5	(2017.2)
緑と水の森林ファンド	緑と水の森林ファンド都道府県事業報告集	VOL6	(2018.2)
緑と水の森林ファンド	緑と水の森林ファンド都道府県事業報告集	VOL7	(2019.2)
緑と水の森林ファンド	緑と水の森林ファンド都道府県事業報告集	VOL8	(2020.2)
緑と水の森林ファンド	緑と水の森林ファンド都道府県事業報告集	VOL9	(2021.2)
緑と水の森林ファンド	緑と水の森林ファンド都道府県事業報告集	VOL10	(2022.3)
緑と水の森林ファンド	緑と水の森林ファンド都道府県事業報告集	VOL11	(2023.6)
緑と水の森林ファンド	緑と水の森林ファンド都道府県事業報告集	VOL12	(2024.3)

目次

北海道森と緑の会

「美遊の森」体験学習事業 (A-1)	9
青少年育成事業 (A-2)	9
イベント家族きこ観察会 (A-3)	10
森林ボランティア活動推進事業 (A-4)	10
札幌市定山溪自然の村 定山溪遊々の森を活用したプログラム (A-5)	11
お魚殖やす植樹運動推進事業 (A-6)	12
野幌自然休養林再生事業を中心とした普及啓発事業 (A-7)	12
北海道指導林家社会貢献緑化推進事業 (A-8)	13
次世代に引き継ぐ森林づくり事業 (A-9)	14
野幌森林公園観察会 (A-10)	15
旭山希少種調査・保護 生物多様性保全事業 (A-11)	15
緑と水の森林ファンド事業 (A-12)	16
木になるフェスティバル (A-14)	16
「森林の市」 (A-15)	17
森と人をつなぐ事業 (A-16)	17
「望の森」森林浴の集い (A-17)	18
枝幸町民植樹祭 (A-18)	18
森林及び木製遊具体験事業 (A-19)	19
生物多様性の保全を目指したオホーツクの森づくり事業 (A-20)	19
緑の少年団なかしべつ冒険クラブ事業 (A-21)	20
森林環境教育推進事業 (A-22)	21
木育ひろば in チ・カ・ホ (A-23)	21
北海道木育フェスタ推進事業 (A-24)	22
馬追自然の森整備事業 (C-1)	22
温暖化防止等森林の役割を引き出す保全事業 (C-2)	23
コンサ百年の森づくり事業 (C-3)	25
野幌の森再生事業と親子による植樹祭 (C-4)	25
恵庭かわまちづくり植栽事業 (C-5)	26
令和4年度里見緑地内植樹・環境整備事業 (C-6)	27
未来に向かって日高の森林づくりの実施 (C-8)	28
新ひだか町営林友の会森林づくり事業 (C-9)	28
五稜郭保安林清掃事業 (C-10)	29
「おさかなの森づくり運動」事業 (C-11)	29
ユネスコの森づくり (C-13)	30
地球にやさしいちいさな森 (C-14)	30
赤岩青巖峡環境整備事業 (C-15)	31
「帯広の森」づくり事業 (C-16)	31
野付湾の流域河川の河畔林づくり事業 (C-17)	32

青森県緑化推進委員会

青森県森林づくり推進体験学習活動事業 (A-25)	33
木と人とのふれあい事業 (A-26)	33

岩手県緑化推進委員会

令和5年度遠野市緑化祭『里山フェスタ2023』 (A-27)	34
一関地方育樹祭 (A-28)	34
緑の少年団育成事業 (A-29)	35
ふるさとの巨樹・名木観察会 (A-30)	35

県民の森ボランティア活動 (A-31)	36
第 53 回岩手県緑の少年団大会 (A-32)	36
宮城県緑化推進委員会	
宮城県みどりの少年団大会開催事業 (C-19)	37
秋田県緑化推進委員会	
緑と水のキャンペーン事業 (A-33)	38
市民グループ森林づくり事業 (A-34)	38
緑の少年団育成事業 (C-19)	39
森林活動指導者支援事業 (C-20)	39
やまがた森林と緑の推進機構	
山形県緑の少年団連盟交流研修支援事業 (A-35)	40
山形県林業まつり開催事業 (A-36)	40
庄内森とみどりのフェスティバル開催事業 (A-37)	41
森を育む子ども達養成事業 (A-38)	41
福島県森林・林業・緑化協会	
緑化普及啓発事業 (第 31 回緑の提言・作文コンクール) (A-39)	42
普及啓発事業 (第 47 回福島県林業祭) (A-40)	43
ファミリー緑の教室の開催事業 (A-41)	43
ふくしま緑の醸成事業 (A-42)	44
都市と農村の交流事業 (第 35 回ふくしま緑の百景歩こう会) (C-21)	44
茨城県森林・林業協会	
グリーンフェスティバル開催事業 (A-45)	45
森林ボランティア育成事業 (C-22)	45
山村地域づくり活動助成事業 (C-23)	46
緑化樹木等苗木無償配布事業 (C-24)	46
とちぎ環境・みどり推進機構	
森林・緑・水に対する国民の認識を深めるための普及啓発事業 (A-46)	47
青少年の教育の場としての森林の活用促進事業 (C-25)	47
群馬県緑化推進委員会	
「木育」活動促進事業 (A-48)	48
巨樹・古木巡りツアー事業 (A-49)	48
緑の少年団活動活性化事業 (A-50)	49
埼玉県緑化推進委員会	
さいたま森林フォトコンテスト事業 (A-51)	50
緑化普及啓発事業 (A-53)	50
千葉県緑化推進委員会	
「森林分野×SDGs」パートナーシップの構築、普及啓発事業 (A-54)	51
一宮町東浪見・海岸保安林再生植樹事業 (A-54-1)	51
東京都農林水産振興財団	
ふるさとの杜活力調査事業 (B-01)	52
にいがた緑の百年物語緑化推進委員会	
卒寿の森づくり事業 (A-55)	53
「にいがた緑の百年物語」普及啓発事業 (秋期) (A-56)	53
「にいがた緑の百年物語」普及啓発事業 (春期) (A-57)	54
スガ池周辺整備設計・植生調査委託事業 (A-58)	54
とやま緑化推進機構	
森林・木材等普及啓発事業 (A-59)	55
花とみどりの少年団活動支援事業 (A-59-1)	55

石川県緑化推進委員会

緑化思想の普及啓発事業 (A-60)	56
県内産緑化苗木無償配布事業 (C-27)	56
森づくりボランティア・キャンペーン事業 (C-28)	57

福井県緑化推進委員会

もりとふれあい推進事業 (普及啓発事業) (A-61)	58
ふくい森林づくり推進事業 (活動基盤の整備) (C-29)	58

山梨県緑化推進機構

教職員森林・林業研修 (A-62)	59
緑の少年隊活動発表会大会開催事業 (A-63)	59
緑化ポスターコンクール等開催 (A-64)	60
子ども樹木博士認定事業 (A-65)	60
親子緑の集い (A-66)	61
親子森林・林業体験教室開催事業 (A-67)	61
森林環境教育プログラム発刊事業 (A-68)	62

長野県緑の基金

緑・森林の感謝祭等開催事業及び児童啓発事業 (A-69)	63
------------------------------------	----

岐阜県緑化推進委員会

緑化推進キャンペーンと資材供給事業 (A-70)	64
恵みの森づくり事業 (C-30)	64

静岡県グリーンバンク

森づくり県民大作戦支援事業 (A-71)	65
森林ESD推進事業 (C-31)	65

愛知県緑化推進委員会

みどりに親しむ集い事業 (A-72)	66
みどりフェスティバル 22 秋・23 春 事業 (A-73)	66
苗木の育成と配布事業 (愛知県植樹祭) (A-74)	67
ふるさと樹木診断事業 (B-2)	67
森林ボランティア養成事業 (C-32)	68

三重県緑化推進協会

みどりの少年隊活動推進 (A-75)	69
森林教室開催 (A-76)	69
森林ボランティア活動促進 (A-77)	70
県民参加の森林づくり運動推進 (巨樹・古木見学会、クマノザクラ観察会) (A-78)	70
海・山連携植樹活動実施 (A-79)	71
森林ウォーキング (A-79-1)	71

滋賀県緑化推進会

緑の少年団育成強化事業 (C-33)	72
--------------------------	----

大阪みどりのトラスト協会

自然環境保全団体ネットワーク事業 (A-81)	73
府民参加の森林づくり (A-82)	73

兵庫県緑化推進協会

地域緑化イベント開催事業 (A-83、84)	74
森林整備・緑化活動支援事業 (C-34)	74

奈良県緑化推進協会

森の文化活動事業 (A-85)	75
ボランティア緑化活動事業 (C-35)	75

和歌山県緑化推進会	
普及啓発事業 (A-86)	76
活動基盤の整備 (C-36)	76
鳥取県緑化推進委員会	
「樹名板設置事業」(A-87)	77
「木工工作キット配布事業」(A-88)	77
「森林空間活用推進事業」(C-37)	78
「青少年・民間活動グループ育成事業」(C-38)	78
島根県緑化推進委員会	
「森の誕生日」2023 事業 (A-89)	79
緑の少年団育成強化事業 (C-39)	80
森林を考える岡山県民のつどい実行委員会	
第 21 回森林を考える岡山県民のつどい (A-90)	81
岡山県木材組合連合会	
県産木材フェア開催事業 (A-91)	81
くらしき都市緑化フェア実行委員会	
第 38 回くらしき都市緑化フェア (A-92)	82
岡山県緑化推進協会	
緑化普及推進事業 (C-40)	82
広島県みどり推進機構	
令和 4 年度「緑と水の森林ファンド」事業 (A-93)	83
広島県木材組合連合会	
ひろもくデザインアワード開催事業 (A-94)	83
広島県みどり推進機構	
緑の少年団交流集会開催事業 (C-41)	84
やまぐち農林振興公社	
都市と山村ふれあい交流促進事業 (C-42)	85
森林体験学習支援事業 (A-95)	85
記念の森造成事業 (C-43)	86
徳島森林づくり推進機構	
企業の森づくり普及啓発イベント (C-44)	87
かがわ水と緑の財団	
緑化普及活動事業 (A-96)	88
愛媛の森林基金	
木工作品製作キット配布事業 (A-97)	89
愛媛の森林友の会育成及び現地研修会開催事業 (A-98)	89
高知県森と緑の会	
土佐の名所の樹木活性化事業 (A-99)	90
森のようちえん推進事業 (A-100)	90
高知県森林インストラクター養成講座 (A-102)	91
地域の森林整備事業 (C-45)	91
福岡県立四王寺県民の森協議会	
森林ふれあい交流 (A-103)	92
福岡県水源の森基金	
グリーンフェスティバル 2023 (A-104)	93
第 31 回世界子ども愛樹祭コンクール (A-105)	93
第 10 回もりもり広がる森林づくり (A-106)	94
花立山の里山保全事業 (A-107)	94
里まちサイクルプロジェクト (A-108)	95

森を五感で感じよう（森は友だち）（A-109）	96
さが緑の基金	
よかウッドフェスタ（A-110）	97
緑の探検学習会（C-47）	97
長崎県緑化推進協会	
森林のつどい事業（A-111）	98
緑の少年団活動活性化事業（C-48）	98
森のめぐみいきいき活用促進事業（C-49）	99
熊本県緑化推進委員会	
くまもと森づくり普及・啓発事業（A-112）	100
緑の少年団活動育成事業（C-50）	100
シンボル森林の活用促進事業（C-51）	101
森林ネットおおいた	
ふれあい森林教室（A-113）	102
大分県農林水産祭林業部門（木と暮らしのフェア）（A-114）	102
名木保全事業（B-3）	103
森林ボランティアリーダー養成研修（C-52）	103
宮崎県緑化推進機構	
緑と花のふれあい推進事業（A-116）	104
森林浴癒しの集い事業（A-117）	104
かごしまみどりの基金	
かごしまの緑・元気な森林体験事業（A-118）	105
かごしまの名木古木樹勢診断事業（B-4）	105
活力のある緑の少年団活動促進事業（C-53）	106
森林ボランティア活動促進事業（C-54）	106
沖縄県緑化推進委員会	
令和4年度 緑の育樹祭開催事業（A-119）	107
令和3年度・事業期間延長分	
宮城県緑化推進委員会	
宮城県みどりの少年団大会開催事業（C-21）	110

「美遊の森」体験学習事業（A-1）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

美唄市の国有防風林内において、子供達に木や森との関わりについて学習する体験学習会を実施した。体験学習会の内容は、防風林の機能と役割についての講義と、林内の植物を散策しながら森と接する木育学習を行い、自然に触れる体験を通して、森林の大切さや自然への理解を深めてもらい、子供達の豊かな心を育むことを目的とした活動。

2. 活動の成果

今回の学習会では、子供達が木育マイスターの講義を熱心に聞き入り、フィールドワークを通して木や森の役割を学ぶ機会を提供することができた。

3. 参加者の声

- ・防風林が田んぼを守っていると知って驚いた。
- ・森の中には見たことがない植物がたくさんあって楽しかった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	10月14日	合計
事業量	森林内体験学習	
参加者数	51名	51名
実施場所	美唄市開発町南（国有防風林内）	

青少年育成事業（A-2）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

（学校緑化）

地域の核ともいえる市内小・中学校の環境緑化を実施し、児童生徒が花壇等を作成し世話をする中で、緑への理解と愛情を深めたもの。

（青空園芸教室）

市内小学生を対象に、北海道深川東高等学校において青空園芸教室を実施した。

園芸教室の内容は、高校生を講師として緑に関する知識を学び、自分で選んだ花苗と野菜苗で寄せ植えを作成、更には、木に関するクイズなどを実施し、緑への理解と愛情を深めたもの。

なお、計画していた道産材を活用した林学習及び木工作体験は、新型コロナウイルス感染症の拡大により中止となった。

2. 活動の成果

（学校緑化）

校内の花壇等を自ら植えて育てることによって、身近な緑を慈しむ心と自然の恵みに感謝する心を育て、これからの街づくりを担う子供たちへの緑化思想の普及となり、花と緑あふれる美しい環境づくりを推進できた。

（青空園芸教室）

今回の園芸教室を通して、花や野菜、木についての知識を身につけ、自ら植えて育てることによって、身近な緑を慈しむ心と自然の恵みに感謝する心を育て、これからの街づくりを担う子供たちへの緑化思想の普及となり、花と緑あふれる美しい環境づくりの推進に貢献した。

3. 参加者の声

（学校緑化）

参加者は、緑の大切さを学び、緑への関心を高めたようであった。育てる喜びを知り、緑の街づくりへの意欲を感じられた。

（青空園芸教室）

参加者は、緑の大切さを学び、緑の知識をより多く得たいと思ってくれたようであった。高校生との交流の中で、緑を育てる喜びを知り、緑の街づくりへの意欲を感じられた。

実績報告とりまとめ表

実施時期	5月16日～	6月14日	6月21日	6月22日	合計
事業量	学校緑化	青空園芸教室	青空園芸教室	青空園芸教室	
参加者数	327人	41人	39人	19人	426人
実施場所	市内小中学校 （8校）	北海道深川東高等学校			

イベント家族きのご観察会（A-3）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

イベント家族きのご観察会、実施目的。

森林を大切にすることを心を持っていただきたく、ゴミ拾いをしながらのキノコ観察。

また、秋の実りであるキノコを安心、安全に食していただきたいので、毒キノコによる食中毒防止の目的もある。

9月25日に札幌市民を対象に旭山記念公園と旭山都市環境林においてきのご観察会を実施した。

一般参加者と当団体の家族会員も含めて親子50名ほどが森林に入り、発生きのこを手採り、楽しく学んだ。

林内での観察終了後は星野先生と小林先生、小川貴由樹先生によるきのこの生態説明に参加者皆さんが熱心に耳を傾けていました。

尚、今年もコロナが収束していないのできのこ汁無しで実施。

2. 活動の成果

きのご観察会を通して、キノコをとりまく自然環境とキノコの形態と食・毒の見分け方などを学んだので、きのこを食しての中毒防止となったと思われます。

また、森林を育て、守ることの大切さを知り、森づくりに参加していただくきっかけとなったと思われます。森づくりへの普及効果が考えられます。

3. 参加者の声

1. 都市中心の身近な林内でもきのこが発生していた。
2. 色々な食のきのこの説明が良かった。
3. ボルチーニ（ヤマドリタケ）が観察出来た。
4. 菌学会での説明があったが、キノコは奥深くてなかなか難しく、はっきりとしていないキノコがあることを知る。

実績報告とりまとめ表

実施時期	9月25日	合計
事業量	キノコ採集、31種類 持込53種類。 合計84種類の説明	
参加者数	50名	50名
実施場所	北海道札幌市旭山記念公園、旭山都市環境林	

森林ボランティア活動推進事業（A-4）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

令和4年度の活動は、春先においては過去2カ年に及ぶ新型コロナウイルス感染症の影響により、各種団体の森の観察会や植樹活動の参加数が減少した。気候にも恵まれた6月の後半からは一般参加者の来園が回復してきた。この中、指定管理者から要請のあった「山菜の日」、「親子でキャンプ」などの支援事業に感染防止を徹底して取り組んだ。

8月の後半からは札幌市及び石狩管内の小学校が宿泊研修に来園、森の観察会では森林ファンド事業の助成により作成した「森の観察ガイド」を配布し、北海道を代表する落葉広葉樹と針葉樹からなる天然林に生息する動植物の観察を通して、生存競争を生き抜く動植物の逞しさと共生する姿を体感してもらった。

2. 活動の成果

道民の森において「森の観察」及び小学校児童の森林環境学習時に森林の生い立ちとその大切さ、及び人と森との関わり合いについて解説し、理解を深めることができた。また、水源の森ではトドマツ、ミズナラ等の郷土樹種の植樹指導を実施し、森林整備の大切さを実感していただいた。

さらに、道民の森の各種催事に参加し、森と触れ合うことによるやすらぎと楽しさ、森が人に与えてくれる役割の大切さを感じてもらったための支援活動を実施した。

過去2カ年にわたる新型コロナウイルス感染拡大によって、道民の森が春の植樹適期に閉園となったことにより植樹活動の機会は減少して来園者減となったが、7月以降は森の観察会や催事への参加者、自然を求めての来園者が回復し、活動に手応えはあったものと判断している。

3. 参加者の声

森の観察会の参加者からは森林に立ち入ることにより、森の中での生物間の生き残るための闘い、弱肉強食と食物連鎖、子孫を残すための知恵比べ、共存共栄の様子を観察し、森林の懐の深さと大きさを再認識していただいた。樹木への愛情が育まれ、森林造成が地球温暖化の防止に役立つことを理解してもらったことができた。

実績報告とりまとめ表

実施時期	5月1日から10月31日まで	合計
事業量	260人	260人
参加者数	1,466人	1,466人
実施場所	北海道当別町、月形町	

札幌市定山溪自然の村 定山溪遊々の森を活用したプログラム（A-5）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

小学生親子向けの昆虫博士キャンプでは、俱知安風土館学芸員の小田桐亮氏、昆虫博士キャンプ中学生については北海道大学総合博物館教授の大原昌宏氏を招き、昆虫の種類や生態について学ぶ事業を実施した。

昆虫博士キャンプ中学生では、定山溪自然の村で採集をした昆虫を北海道大学で標本にするプログラムを実施した。北海道大学で講師に標本の作り方を教えていただいたことで、より専門的かつ将来的な目標を持つことのできる機会の提供を行った。

森のようちえんでは、様々なアクティビティを通して幼児期から自然に触れ、楽しさや大切さに気づききっかけ作りを目的としプログラムを実施した。

森の探検隊では、自然環境や野外活動について興味をもってもらう事を目的に実施をした。参加者一人ひとりが、自然の中から自ら気づき学ぶことができるプログラムを実施した。

2. 活動の成果

昆虫博士キャンプでは、昆虫の生態や暮らしについて学ぶ機会の提供を行った。季節ごとの特徴的な様子や採集方法について学びを深め、参加者自身での「発見」を促すことができた。各実施回で多数の応募があり、ニーズの高さを把握することができた。

昆虫博士キャンプ中学生では、2日程の実施とし、定山溪自然の村と北海道大学をフィールドに実施した。1日目の昆虫採集（定山溪自然の村）と2日目の標本作成（北海道大学）を通して、研究者が現場でどのような活動をしているのかを見て学ぶ機会となり、進路や将来についても考えるきっかけの提供をすることができた。

森のようちえんでは、参加者のペースに合わせて動物なりきりあそびや、かまくら作りなどを行うなど自然に触れるきっかけづくりを提供することができた。

森の探検隊では、木や葉っぱ、野鳥などの野生動物の痕跡を見ながら自ら気づき学ぶ体験を提供し、自然環境や野外活動に興味を持ち森林環境教育の一環とすることができた。

3. 参加者の声

・昆虫博士キャンプ

「昆虫の採集方法について学ぶことができた。」「こんなところに昆虫がいるのという驚きがあった。」「昆虫の生態についてくわしく学ぶ事ができてよかった。」

・昆虫博士キャンプ中学生

「昆虫好きの友達を作ることができた。」「実際に昆虫に関する仕事をしている現場を見る機会がないので、貴重な時間であった。」「中学生であることが原因でイベントに参加する機会が少ないため開催してくれるのがうれしい（保護者アンケートより抜粋）」

・森のようちえん

「子どもたちと楽しく遊ぶ事ができました。」

実績報告とりまとめ表

○昆虫博士キャンプ・昆虫博士キャンプ中学生

実施時期	7月9日	7月16日	12月4日	7月31日 8月7日	合計
事業量	昆虫博士キャンプ			昆虫博士キャンプ 中学生	
参加者数	28人	26人	18人	20人	92人
実施場所	定山溪自然の村 定山溪遊々の森			定山溪自然の村 定山溪遊々の森 北海道大学 総合博物館	

○森の探検隊

実施時期	5月22日	7月24日	2月23日	合計
事業量	森の探検隊			
参加者数	17人	13人	5人	35人
実施場所	定山溪自然の村 定山溪遊々の森			

○森のようちえん

実施時期	10月16日	11月6日～ 11月7日	1月22日～ 1月23日	2月12日	合計
事業量	森のようちえん (日帰り)			森のようちえん (日帰り)	
参加者数	25人	17人	17人	27人	86人
実施場所	北海道大学 構内	定山溪自然の村 定山溪遊々の森		北海道大学 構内	

お魚殖やす植樹運動推進事業（A-6）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

当別町「道民の森」において、北海道女性連をはじめ、全道各地より水産関係者や農業・林業関係者、消費者団体等66名が参加し、ミズナラ・ハルニレを計500本を植樹した。

2. 活動の成果

植樹を通じて、水産関係者だけでなく、農業・林業関係者や消費者団体等にも、植樹の大切さや森-川-海の繋がりについて理解を深めてもらえ、海洋環境の保護について様々な分野において認識を広められた。

人の集まる行事が敬遠されるコロナ禍において、水産関係者とこれ以外の業界団体との協力によって植樹事業の継続ができ、今後の森づくり活動に繋げられる実績を残すことができた。

3. 参加者の声

実際に苗木や土に触れ植樹することで、環境づくりに貢献している実感が持てた。

なかなか大人数を集めて実施するイベントが難しい中、異業種の方々と一緒に作業ができてうれしく思う。

実績報告とりまとめ表

実施時期	5月24日	5月30日	合計
事業量	地拵え	植樹	
参加者数		79名	79名
実施場所	道民の森神威尻地区「水源の森」	同左	

野幌自然休養林再生事業を中心とした普及啓発事業（A-7）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

モデルプロジェクトの森で育成調査を行いました。

社会貢献の森で植樹3年計画を立案して、1年目の植樹を行いました。

創成川公園（札幌水源の森づくり）でポット苗作りをしました。

道民の森での下草刈りと植樹をしました。苗木は各自宅での育成した1～2年の苗木を使用しました。

2. 活動の成果

- ・200万都市の近くに「野幌自然休養林」「道民の森」があり、市民の憩いの場となっている一部に当会の活動の場が有ることが、会員の誇りとなっています。
- ・平成17年（2005）から続けていた野幌自然休養林での体験を踏まえ、今年度から社会貢献の森で下草刈り、植樹（トド松40本、ヤチダモ40本、ヤマザクラ8本）を行いました。
- ・創成川公園（札幌水源の森づくり）で作ったポット苗が定山溪での植樹に貢献できました。

3. 参加者の声

- ・コロナ流行の中、仲間と一緒に作業できた事が嬉しかったです。
- ・この一年間、無事故でコロナに感染することなく活動が終えた事は、私達の誇りです。
- ・今年植えた樹木が、20～50年後に大きく育ち、未来の人々の役に立つと思うと、感無量です。
- ・今年植えた苗木の生育状況が楽しみです。

実績報告とりまとめ表

実施時期	7月1日、7月5日、 7月12日	8月27日	9月20日	10月4日、10月11日	合計
事業量	事前調整	札幌水源の森づくり	下草刈りと植樹	事前調査、下草刈りと植樹	
参加者数	16名	15名	17名	24名	72名
実施場所	野幌自然休養林、道民の森				

北海道指導林家社会貢献緑化推進事業（A－8）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

(南富良野町)

- ・南富良野町金山の「湖池屋の森」において、南富良野小学校3年生を対象に内田指導林家から健全な山づくりのために必要な間伐について説明したのち、カラマツ造林地で間伐体験を行った。
- ・また、ヤチダモやシラカンパで鉛筆台や鉛筆を作る木工教室を開催した。

(知内町)

- ・放課後子供教室の小学生を対象に北海道指導林家による森林に関する講話及び木工教室を開催した。
- ・指導林家の講話では、森林の公益的機能について紙芝居を用いて分かりやすく説明し、森林が私たちの生活に欠かすことのできないものであることや木材が森林から生産されることなどを説明した。
- ・木工教室では、地域のスギを材料としたペン立てを製作し、木のぬくもりについて体感した。

2. 活動の成果

(南富良野町)

- ・間伐は健全な山づくりに必要な作業であり、子供達にとっては大変な作業だったが、森林整備を体験してもらうことで森林に対する関心を大いに高めることができた。

(知内町)

- ・森林に関する講話では、未来を担う小学生が森林の大切さを理解することができた。
- ・木工教室では実際に木材に触れることにより木の良さを感じ、地域の木材に関心を持つきっかけとなった。

3. 参加者の声

(南富良野町)

- ・楽しかったが、木を切るのが大変だった。ボールペン台の作成も楽しかった。
- ・木が太くて大変だったけど楽しかった。腕が痛かった。
- ・親も林業をやっている。いつもより太い木を切れて楽しかった。

(知内町)

- ・森林の機能に関する講話を聞いて、森林整備の理解を深めることができた。
- ・木工教室のペン立てづくりで地元の道南スギの良さを感じる事ができた。

実績報告とりまとめ表

実施時期	10月26日	11月11日	11月16日	11月18日	計
事業量	森林整備（間伐）、木工教室	森林教室、木工教室	森林教室、木工教室	森林教室、木工教室	4回
参加者数	小学生14名、先生2名、関係者9名（合計25名）	小学生7名、教諭・支援員4名、北海道指導林家1名、町・道関係者4名（合計16名）	小学生20名、支援員2名、北海道指導林家1名、町・道関係者4名（合計27名）	小学生13名、支援員2名、北海道指導林家1名、町・道関係者4名（合計20名）	88人
実施場所	南富良野町金山「湖池屋の森」	知内町立湯ノ里小学校（放課後子供教室（湯ノ里小学校教室））	知内町中央公民館（放課後子供教室（知内小学校教室））	知内町立涌元小学校（放課後子供教室（涌元小学校教室））	

次世代に引き継ぐ森林づくり事業（A-9）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

- ・音更町において、地域住民（児童・生徒・親子）を対象に木工教室を開催し、森林・林業、木材利用に関する体験活動を実施した。
- ・浦河町において、日高管内林業グループ連絡協議会が、地域住民を対象に日高産広葉樹や地域木材について理解を深めてもらうことを目的に森林の価値・重要性についてPRを行った。
- ・足寄町において、森林をイメージしてもらうため、林地未利用材を活用したツリーイルミネーション、ウッドキャンドルで「小さな森」を演出するとともに、約1000個の手作りアイスキャンドルを灯し、幻想的な雰囲気を作り出した。また、会場展示ブースでは木炭、薪ストーブを使ったマシュマロ焼き、ペレットストーブの上で焼き芋、雪中サウナテントの展示・体験（薪燃料使用）を行った。

2. 活動の成果

- ・木工教室を通じて、地域の木材に触れ親しむことで、森林・林業、木材利用について、理解促進を図ることができた。
- ・地域材を使用した木工体験会実施により、地域住民（小学生等を含む）への地域材利用の普及・定着が図られた。また、日高振興局ロビー・森林室玄関に木製テーブル等（日高産木材使用）を常設展示することで、地域住民に日高産木材の魅力PR、地材地消・森林づくりの意識向上が図られた。
- ・ウッドキャンドルナイトを通じて、地域の基幹産業である林業や森林について理解してもらい、自然環境の重要性を身近に感じてもらうことができた。

3. 参加者の声

- ・木工教室では、大人から子供まで楽しんで「木ねじを回すのが難しかったけど楽しかった」、「素敵な椅子ができてよかった」などの意見が多く好評であった。
- ・夏休み木づかい教室：材料がいろいろあって、何を創るのか考えたけど、思いどおりの作品ができた。林業グループの先生に釘の打ち方や抜き方を教えてもらって初めて体験できた。時間を忘れるほど楽しかった。
- ・日高産木製品常設展示：日高の山にこんな素晴らしい木があると初めて知った。こんなに太いスギが日高にあると思わなかった。山に興味があった。
- ・ウッドキャンドルナイトでは、「木のぬくもりが感じられ、癒やされた。」「林地未利用材の有効利用について理解できた。」との意見を得ることができた。

実績報告とりまとめ表

実施時期	8月5日	8月7日	1月23日から 常設展示	1月28日	合計
事業量	木工教室	木工教室 薪割り・丸太切り体験	日高産広葉樹テーブル、スギ丸太椅子を作成し振興局に展示して木材利用をPR	林地未利用材を活用したツリーやウッドキャンドル等の見学。	
参加者数	児童・生徒等 15人	児童・生徒等 35人	地域住民等 13人	地域住民等 150人	213人
実施場所	浦河町 (浦河町文化会館)	音更町 (十勝エコロジーパーク)	浦河町 (日高振興局庁舎/ 森林室庁舎)	足寄町 (あしよる銀河ホール21)	

野幌森林公園観察会（A-10）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

札幌近郊の一般市民を対象に札幌市から送迎バスを用意し、野幌森林公園モミジコース周辺の森林の成立と散策路周辺に生育する植物の多様な生き方を観察し、森林の有する諸機能の大切さ、重要性について普及啓蒙活動を実施した。

活動の実施に当たっては、事前に下見を行い、野幌森林公園の歴史、植物のたくましく多様な生存戦略を調べ、わかりやすい説明資料を作成し、参加者に配布し、当会ガイドと参加者と間で意見を交わしながら実施した。また、林業を分かりやすい説明で記載された「北の森漫画」を配布した。

2. 活動の成果

事前に下見し、説明資料を作成、配布したことによって、参加者の理解が得られ、森林の有する諸機能の大切さ、重要性について普及啓蒙に資する活動となったものと自己評価している。

3. 参加者の声

- ・バスの車内の中で事前に配布資料の概略の説明があったため現地での理解が深められた。
- ・資料の内容が分かりやすくまとめられていた
- ・現地におけるガイドの説明は丁寧で分かりやすいものであった。
- ・森林の観察と併せて林業のことも学べたので有意義な観察会だった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	令和5年5月27日	合計
事業量	観察会	
参加者数	34人	34人
実施場所	野幌森林公園	

旭山希少種調査・保護 生物多様性保全事業（A-11）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

集水域の水辺の環境や里山的環境の保全を行い生物多様性や希少種の保護を行いました。

水辺の環境保全では、都市環境林の「ふしぎ池」にて池底改良を行い、エゾサンショウウオやエゾアカガエルが産卵に未永く池を使えるように池底を改良しました。

また里山的環境保全では、園内にある「巨木の谷」「学びの森」「みんなの小道」にて外来種の除去や雑草刈りを定期的実施。2017年から植樹している在来の樹林の管理を定期的に行いました。啓発看板やエコスタック（生き物のすみか）の保守点検作業、「学びの森」では散策路を整備しました。

7月から翌6月まで毎月1回体験型自然観察会を主催し、整備した場所で生き物の観察を継続的に実施。7月、翌6月には啓発活動として、近隣小学校の学習支援を実施。多くの児童が観察場所を訪れ、環境保全や生物多様性について各自調べ学習を行いました。

2. 活動の成果

- ・都市環境林の「ふしぎ池」の池底改良作業では児童がウエダーを着用し池に入りました。池の計測では池底のヘドロの感触や匂い、重さ、池の水温などを体感しました。また、雪解けで池にがれき類が流入していることや堆積物の種類から、今後の具体的な保全作業や生き物への影響について考察しました。・里山的環境を守る活動では2016年に植えたエゾエノキの樹にオオムラサキの卵が生みつけられ、園内ではじめて更新樹にて産卵が確認されました。（産卵に使用されていたのは樹齢100年の古木のみでした）希少種を守る活動が実を結んだ瞬間でした。・近隣の小学校への学習支援や一般参加者を募る体験型自然観察会は好評を頂き、体験型自然観察会は定員15名（児童）が毎回満員（計12回）となりました。・環境保全・調査活動、自然観察会、啓発活動を連動して行うことで入隊者・参加者の増加や活動内容の一層の充実、活動の計画性や持続性といった相乗効果を得ています。

3. 参加者の声

- ・身近にこんなに自然の残る場所があるとは知らなかった。参加者
 - ・同じ場所でも教えてもらおうとこんなに違うとは！私だけでは見つけることはできない！参加者
 - ・子供が生き物が大好きで、森のたんけん隊が心待ちです。色々つながって興奮です。参加者
 - ・珍しい生き物がこんなにいるなんて知りませんでした。学習支援
 - ・道具を使ったり、生き物を見つけたり、看板作ったり、色々できるのがいい。隊員
 - ・オオムラサキの卵や幼虫が、植えた木で見つけられて嬉しい。隊員
 - ・隊員数も安定し中学生になった特級隊の皆さんも来てくれるので活動が楽しいです。
- 今年は（学びの森に埋めた双子池で）日本アマガエルがみたいです。新隊長（3代目）

実績報告とりまとめ表

実施時期	7月～6月	7月～6月	7月～6月	7/5・ 翌6/1	6月21日	合計
事業量	生き物調査	保全（樹木管理 除草・雪囲い・ その他）	観察会（12回） 児童15名 講師スタッフ10名	総合学習 児童312名 講師6名	総合学習児童159名 ボランティア22名	
参加者数	235名	335名	300名	318名	181名	1,369名
実施場所	旭山記念公園 都市環境林	旭山記念公園 都市環境林	旭山記念公園 都市環境林	緑丘小学校	旭山記念公園	

緑と水の森林ファンド事業（A-12）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

今年のは新型コロナウイルス感染症の拡大により、行事の縮小を余儀なくされたが、普段の環境に関する事業や校庭にある木々の観察などの体験を踏まえ、校舎内に「森の学習コーナー」を設置するなど、児童の学習意欲に結びつけるとともに、今後の学習活動に更に活かすことを目指した。

2. 活動の成果

日々の森林に対する体験活動を帰校後の活動につなげるため、10月には児童会活動を中心とした学校敷地内の木々や草木を観察し、探し出す「フラワークエスト」の企画を実施した。また、学校司書を中心に「森の学習コーナー」を整備し、学校図書館では、コロナ禍以前に実施した林間学校での学習の振り返りや新たな学習の調査研究に取り組める環境整備を行った。あわせて学習を継続して深化できるよう、公益社団法人北海道森と緑の会による「北の森漫画」という冊子を全学級の学級文庫に置いている。また、オホーツク中央森林組合が管轄する市町村に「北の森漫画」を配布し、子供たちへの林業の良さを知ってもらう取り組みを行った。当該森林組合は、管轄している紋別市、興部町、西興部村が林業の担い手不足や過疎化対策の課題解決に向けて、子供たちに、身近に使う木や森との関わりを育むよう、木育を積極的に進めるため、保育所などに社会貢献活動の一環として木のおもちゃセットの寄贈を行うなどの活動をしている。このため、更に子供たちへ北の森漫画を配布したことにより、より一層の森林への理解が深まった。

3. 参加者の声

児童が自発的に、学校の日常活動の中で児童が自ら校地の木々を調べ、木に表示を取り付けたいなどの意欲的な発言が見られた。

実績報告とりまとめ表

実施時期	10月	11月	6月	合計
事業量	児童会行事 「フラワークエスト」	・「森の学習コーナー」整備 ・北の森漫画120部	北の森漫画の配布（210部）	
参加者数	93人	93人	・小学校10校 ・中学校5校	・93人 ・小学校校10校 ・中学校5校
実施場所	松恵小学校	松恵小学校	配布先の小中学校： 紋別市（小学校6、中学校3）、 興部町（小学校2、中学校1）、 西興部村（小学校2、中学校1）	

木になるフェスティバル（A-14）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

1) 活動の目的

北海道の森林・木材関連の展示施設情報を提供するとともに、道産材を用いた木工作を通じ、北海道の森林や樹木に対する親しみと理解を深める。

2) 活動の内容

道産木製品の展示施設である「木と暮らしの情報館」および広報誌で道内の展示施設情報を広く提供した。また、森林・木材に関心を持つインターンシップ高校生を対象に、関連情報を提供するとともに、道産材を使った木工作体験を実施した。

2. 活動の成果

道内17か所の森林・木材関連展示施設情報を整理し、広く公開（資料名「北海道にある森林・林業・木材・木製品の展示施設」）したことで、それら展示施設に関する情報を得る機会を提供でき、さらに今後継続的に広報することによってそれら施設への訪問者増への寄与が期待される。また、将来の就業に向けた情報収集・体験を希望する高校生に対して、6回にわたり森林・木材の魅力を知る機会を提供したことで、この分野に対する関心を高めることができたものと思われる。

3. 参加者の声

- ・北海道の森林資源の豊かさ、そこの木材の特徴（本州との違い）が印象的だった。
- ・旭川地域が木材関連産業の盛んな地であることを知った。
- ・樹種による性質（色彩、重さ）の違いを感じた。

実績報告とりまとめ表

実施時期	9月12日	9月20日	10月14日
事業量	木になるフェスティバル		
参加者数	9名	10名	10名
実施場所	木と暮らしの情報館		

実施時期	10月19日	11月1日	11月16日	合計
事業量	木になるフェスティバル			
参加者数	10名	9名	10名	58名
実施場所	木と暮らしの情報館			

「森林の市」(A-15)

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

私たちの生活と深い関わりを持ち、限りない恵みを与えてくれる森林から生産される木材の良さを広く市民に理解を深めたく、関係団体・木育マイスターと共に「木に触れ、木と遊びながら木の持つ優しさ・暖かさが実感できる参加型・体験型のイベント、道産材・間伐材の使用・紹介・パネル展示、木材・木製品等の展示・販売等」を通じて、森林や木の持つ素晴らしさ及び利用への理解を促し、併せて森林の持つ多面的機能及び地球温暖化対策の理解、さらに林業・林産業の振興をめざし開催した。

2. 活動の成果

現在・未来の世代のため、全てのタイプの森林の持続可能な森林経営、保全、開発を強化することについて、あらゆるレベルでの認識を高めるよう努力すべきとされている。

環境エネルギー資源の問題解決に木材が中核的な役割を果たすことを期待し暮らしに直結する身近な生活の中に木を取り入れてこそ癒されると、木材・木製品等の展示・販売、そして木工工作体験を通し関心を持たれた。

また、ポスターを各所へ掲示、チラシの配布、ホームページに掲載ネット配信、旭川市広報誌、タウン情報紙掲載等、広くPRに努めた結果、参加体験者が増えたことは森林・林業の重要性についての普及啓発の一翼を担ったと思う。さらに木育マイスターの普及宣伝にも効果があったと思われる。

今後も、森林・林業の普及啓発活動を展開していきたいと考えている。

3. 参加者の声

- ①認証材マグネット製作や、木製コースター作り、バッチ・ストラップ・キーホルダー作りなどを体験することで、木の温もりや香りを感じ、とても楽しむ事ができた。
- ②親子トンカチでは、小さな椅子を作った。紙すき体験では、ハガキを作った。
- ③「バードコールを作ろう」では鳥の鳴き声に似た音を出せる物が作れて、山や公園で鳴らしてみたいと思った。
- ④販売コーナーでは、木工品をはじめ薪・シイタケのほだ木・ハスカップの苗木・カブトムシに興味があった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	7月30日	合計
事業量	「森林の市」	
参加者数	約800人	約800人
実施場所	旭川市	

森と人をつなぐ事業 (A-16)

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

実技講座は6回開催。毎回10人前後の参加があった。初心者にはチェーンソーの持ち方から玉切り、中径木の伐倒までを山林内で実習。伐倒した木を柱はそのまま、屋根や壁は製材所に委託製材してもらい、山林内に小屋を建てた（本年度は柱と屋根まで）。チェーンソーによる製材や電動工具の使い方など、「森の暮らし」に必要な技術を学ぶきっかけとなった。休憩時間は焚き火を楽しんだ。開催日は6月5日、7月3日、8月10日、11月6日、12月4日、23年2月3日の計6回。

森の親子イベントはコロナ問題もあり、広告募集をやめて規模を縮小し、親子20人で開催した。開催日は9月12日で秋の落ち葉が美しい森を歩き、形や色が違う木の葉を集め、スラックラインなどの遊びも味わった。焚き火は発火棒を使う点火から始め、火起こしの大変さやぬくもりを感じた。持ち寄りの食材を火にかざし、普段はできない火の体験を味わった。

2. 活動の成果

実技講座では、山林を所有する市民や山主になりたい人が集まり、森を手入れするための基礎技術や考え方、選木や安全な伐倒、搬出に必要な機材などを実際に体験した。チェーンソーなどを購入し、所有山林で森づくり活動を始めた人や、山林を買った人もいる。おたがいの山林の見学会などにも発展した。

親子森イベントでは散策と焚き火を楽しんだが、これをきっかけに身近な森を歩くモチベーションが高まり、子供たちは樹木や草本の多様さ、季節の変化に気づくことになった。また、森に入る際の安全に関する知識も、ハチ、ダニ対策やクマに出会わないところなどが伝わった。

3. 参加者の声

一般的な講習では学べないチェーンソーなどの実践的訓練ができた
 北欧スタイルの伐倒が、わかりやすく納得できる技術だった
 安全のために何を気をつけるべきかが分かった
 自分が購入すべき道具が試したり選べてよかった
 親子で季節を楽しむことができた。自宅近くの森も歩いてみたい
 森に様々な葉や木々があることに気づかされた

実績報告とりまとめ表

実施時期	6月5日、7月3日、8月10日、 11月6日、12月4日、23年2月3日	9月12日	合計
事業量	森の実習講座6回開催	親子イベント1回	7回
参加者数	約60人	20人	約80人
実施場所	東鷹栖8線、14線	東鷹栖14選	

「望の森」森林浴の集い（A-17）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

上川北部森林室管理区内1林班「望の森」にて、コロナウイルスやヒグマ出没の影響を受けすべての行事予定を縮小し役員3名にて、エゾヤマザクラ大苗3本植樹さみしい限りでした。

2. 活動の成果

上川北部森林室管理区内1林班「望の森」にて、コロナウイルスの影響を受けすべての行事予定を縮小し役員4名にて、エゾヤマザクラ大苗3本植樹さみしい限りでした。

3. 参加者の声

【役員】今年度は、コロナやヒグマの出没により役員のみでの対応となり、参加を楽しみにしていた子供たちに申し訳ない気持ちです。

実績報告とりまとめ表

実施時期	6月26日	合計
事業量	植樹	
参加者数	3人	3人
実施場所	上川北部森林室管理区内1林班「望の森」	

枝幸町民植樹祭（A-18）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

主に枝幸町民を対象に枝幸町間牧地区町有林（北の魚つきの森）において町民植樹祭を実施した。

当日は、トドマツ及びケヤマハンノキ各300本、計600本を植栽した後、記念標柱を設置し、最後に参加者全員で記念撮影を行い全日程を終了した。

なお、植栽前に宗谷総合振興局森林室職員による植栽方法の指導、植栽樹種の解説等が行われ、参加者は熱心に耳を傾けていた。

2. 活動の成果

今回の枝幸町間牧地区町有林（北の魚つきの森）で行った町民植樹祭を通して、地域の森林、林業への理解の促進を図ることができ、魚つきの森の意義を多くの町民に知ってもらうことにより、これまで以上に活発な「森林を守り育てる取り組み」が行われるものと期待します。

今後も、さらに多くの町民に森林、林業への理解を深めてもらうための事業を展開していきたいと考えている。

3. 参加者の声

町民植樹祭は昨年まで、コロナ禍等のため中止となっており今回は4年ぶりの開催であったため、参加者からは植樹祭の開催を喜ぶ声が聴かれた。

また、町内で植樹活動を行っている漁業協同組合女性部の方の参加もあり、町民植樹祭と合せて引き続き森林保全活動に取り組んでいきたいとの話があった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	10月15日	合計
事業量	植樹 (トドマツ・ケヤマハンノキ計600本)	
参加者数	45名	45名
実施場所	枝幸町間牧地区 町有林 (北の魚つきの森)	

森林及び木製遊具体験事業（A-19）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

森林を散策することで、森林の役割・大切さを知ってもらい、参加者の木への関心を高めるとともに、木製遊具を外で遊ぶ体験をしてもらうことにより、木材の利用拡大を身近なところから推進していく。

- ・森林散策（森林のお話と森の端材集め）
- ・育樹活動
- ・木工体験事業
- ・木製競馬ゲーム
- ・山の水族館視察

2. 活動の成果

日時 令和4年9月25日（日）訓子府レクリエーション公園・訓子府町

参加人数 11名、森林散策、森林の説明、クイズ等を行い森の仕組みを理解することができた。また、専門家からの育樹体験を行い樹木の役割を理解することができた。地域材で製作した「木製競馬ゲーム」により木材の利用拡大を理解することができた。アニマルカー制作体験も行った。最後に山の水族館にて視察を行った。

3. 参加者の声

とても楽しく森の仕組みがわかることができた。
競馬ゲームが面白かった、山の水族館も楽しかった

実績報告とりまとめ表

実施時期	9月25日	合計
事業量		
参加者数	11人	11人
実施場所	訓子府	

生物多様性の保全を目指したオホーツクの森づくり事業（A-20）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

ボランティア活動による森林づくりを通じて、森林に対する理解を深め、その仲間の輪を広げることを目的として活動しています。

具体的には、森林管理署との「ふれあいの森」協定に基づく活動、遊歩道等の整備、森林散策会などを行っています。

また、常呂川森林ふれあい推進センター等が行っている針広混交林をめざす自然再生事業等への参加・森林教室等での協力活動を行っています。

2. 活動の成果

ボランティア活動を通じて、森林・林業、自然、環境等に関心が高まり、知識が深まるとともに積極的な一般市民への働きかけ（啓蒙・普及）が行われるようになっていきます。

また、コロナ禍ということもあり、イベント実施に際して積極的な呼びかけは自粛していますが、会員の口コミによる新たな参加者もありました。

3. 参加者の声

- ・コロナ禍で出歩く機会が減少する中、自然を感じる機会を与えていただいたことに感謝。（散策会）
- ・自然相手の仕事は難しいけど楽しい。（遊歩道整備）
- ・林業のイメージ（キツイ、汚い）が変わった。（大型機械による作業現場見学）
- ・新たな冬の楽しみ（スノーシュー）を知ることができた。（冬の自然観察会）

実績報告とりまとめ表

実施時期	5～10月	7・10・2月	7月	9月	10月	合計
事業量	森づくり活動9回	森林散策会3回	こども探検隊	パネル展	炭づくり体験	
参加者数	75名	80名	20名	150名（来場者）	22名	347名
実施場所	オホーツクの森	ワッカ原生花園 オンネトー 神の子池	オホーツクの森	北見市緑のセンター	オホーツクの森	

緑の少年団なかしべつ冒険クラブ事業 (A-21)

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

当団は豊かな自然環境を活用した自然体験活動を主として、自然を愛し、ふるさとを愛す心を育てるとともに、集団活動を通じて相互に協力し合い、友情を深め、心身ともに健全で豊かな人間性を培い、また緑の募金活動や植樹活動等の奉仕活動、地域の行事等にも積極的に参加し、地域社会の一員としての自覚を高めることを目的に年間を通じて様々な自然体験プログラムを実践しています。地元の講師に支えられながら実施した野鳥観察や乗馬体験など専門的な分野にも触れながら、今年も楽しく活動できたと感じています。そのフィールドがあるのは緑を守る活動があってこそということを知り、団員たちは理解しており、森林愛護の精神も活動の中で養うことができています。

2. 活動の成果

今年度は久々に緑の少年団の柱となる「緑の募金」や「植樹祭」等の活動を予定通りに行うことができ、たくさんの人たちに私たちの活動を知ってもらえることができました。多少、コロナ禍の影響もありましたので、感染対策を万全に、育成会や中学・高校生の力強いサポートにより、無事に年間活動を行うことができました。また、今年度は冒険的な要素を多く取り入れ、団員同士が話し合い、自ら計画をすることに重点をおいて活動してきたことで、団員の達成感が増し、より充実した活動になったと感じております。さらに、育成会との連携により、安全面でのサポート体制が充実したことも大きな成果であったと感じております。今後も団員にとって心に残る活動を父母や地域の力を借りながら、展開していきたいと考えております。

3. 参加者の声

団員の父母からは年々たくましく成長する子どもたちの姿にたくさんの感謝の言葉をいただきました。団員全員が次年度も継続して参加する予定になっております。今後も地域の子供たちとともに地域に根ざした事業展開をしてまいります。

実績報告とりまとめ表

2022活動実績

回	月 日	内容 (午前)	内容 (午後)	備 考	参加者数
1	4月8日(月)			父母参加	14
2	5月8日(日)	野鳥観察会(春)丸山公園 緑の募金(春)		指導:大河原先生 他団体主催	14
3	5月15日(日)	中標津町植樹祭		他団体主催	10
4	6月6日(月)		事前学習(登山)		12
5	7月4日(月)		事前学習(キャンプ)		14
特別	7月31日(日) ~8月1日(月)	緑の少年団交流大会(当別町)		他団体主催	3
6	8月21日(日)	湖キャンプ(デイキャンプ)		砂場	12
7	8月24日(水)		こうもり観察会	指導:藤岡先生ほか	7
8	9月25日(日)	野鳥観察会(秋) 緑の募金(秋)		指導:大河原先生 柏川先生 他団体主催	9
9	9月26日(月)		事前学習(サイクリング)		11
10	10月2日(日)	サイクリング		野付半島、標津町	11
11	10月15日(土)	林業体験		他団体主催	9
12	11月14日(月)		事前学習(乗馬・団員企画会議)		7
13	11月19日(土)	乗馬		乗馬:大西先生	7
14	11月23日(水)	魚類観察 in クテクンベツ川		指導:藤岡先生ほか	9
15	12月5日(月)		団員企画 お楽しみ工作づくり		14
16	12月11日(日)	魚釣り		尾岱沼漁港	14
17	1月16日(月)		事前学習(わかさぎ釣り)		11
18	1月22日(日)	わかさぎ釣り		野付湾	11
19	2月13日(月)		事前学習(冬の探検)		9
20	2月19日(日)	冬の探検		森林公園	7
21	3月6日(月)		1年のまとめ(準備)		13
22	3月12日(日)	一年間のまとめ+冬山登山(ポンポン山)		午後6時半~父母参加	13

森林環境教育推進事業（A-22）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

札幌市立幌南小学校、札幌市立藤の沢小学校、江別市立野幌小学校、江別市立上江別小学校、江別市立文京台小学校の5校から森林環境教育（総合学習）の要請を受け、総合学習の支援として実施するもの。
（5校中の藤の沢小学校・野幌小学校は緑の少年団活動に取り組んでいる。）

2. 活動の成果

各校共通して、生徒が自然（樹木・植物、小鳥、昆虫など）に、直接目で見て、手で触れて、香りを嗅ぐなど五感を通してその不思議さや多様性に感動し、体験することを目的とする。この目的の達成に向けて、活動日に散策するフィールドの樹木や動植物を事前に調査し、これらを踏まえてガイド用及び生徒用の配布資料を作成し、森林環境教育推進事業を実施した。江別市立上江別小学校には、林業を分かりやすく解説した「北の森漫画」を配布した。

3. 参加者の声

- ・木の皮は、種類によって違うことが分かった。
- ・木や植物の名前の由来を教えてもらったので、覚えやすいし忘れにくいと感じた。
- ・同じ木の葉っぱでも形が少しずつ違って、葉っぱだけで木の種類を見分けるのは難しい。

実績報告とりまとめ表

実施時期	令和4年9月22日、 令和5年5月9日・ 16日	令和4年8月25日、 令和4年10月25日	令和5年 6月12日	令和4年 10月28日	令和4年10月7日、 令和5年6月12日	合計
事業量	総合学習支援	総合学習支援	総合学習支援生徒に「北の森漫画」を配布	総合学習支援	総合学習支援	
参加者数	220人	110人	170人	115人	120人	735人
実施場所	野幌森林公園 (江別市立野幌小学校)	野幌森林公園 (江別市立文京台小学校)	野幌森林公園 (江別市立上江別小学校)	学校校庭及び教室 (札幌市立幌南小学校)	学校林(札幌市立藤の沢小学校)	

木育ひろばinチ・カ・ホ（A-23）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

冬季間の人通りが多い札幌駅前通りの地下歩行空間（通称：チ・カ・ホ）において、北海道発祥の「木育」の普及啓発を目的に、新型コロナウイルス感染症の対策を十分とった上で「木育ひろば」を開催した。会場内では、「緑の募金」はもちろんのこと、木工作体験、木育マイスターによるワークショップやゼロカーボンに関するパネル展示等によるイベントを開催し、「北海道の木や森を感じる」などの普及啓発を行った。

2. 活動の成果

普段は森や木にふれる事の少ない都市の子どもたちに、木とふれあう事の出来る機会を提供することにより、木の暖かみや柔らかさを実感していただくとともに、森の働きなどの理解を促進できた。
さらに、様々なワークショップを実施するため、道内各地で活動している木育マイスターが、講師として集まってきた事により、それぞれの地域や活動状況などの情報交換も進められ、今後の活動の糧となった。

3. 参加者の声

- ・木の暖かみを子供が体験できた事は、普段経験出来ないのが良かった。
- ・「緑の募金」のお金により、木が植えられていることを初めて知った。
- ・北海道旭川市に、林業を教える専門学校があることを初めて知った。
- ・木の暖かみを感じながら、子供が楽しそうに体験しているので良かったです。
- ・普段あまり知る機会のない林業や植樹について知る良い機会でした。親子向けのメニューもたくさんあって良いイベントだと思います。

実績報告とりまとめ表

実施時期	1月21日	1月22日	合計
事業量	「緑の募金」はもちろんのこと、木工作体験、木育マイスターによるワークショップやゼロカーボンに関するパネル展示等		
参加者数	372名	447名	819名
実施場所	札幌市内（地下歩行空間）		

北海道木育フェスタ推進事業（A-24）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

森林づくりを初めとする緑化活動を道民全体で支えていくという意識の醸成を図るため、普及啓発誌の作成・配布、キックオフイベントや北海道植樹祭の開催など普及啓発事業を総合的に展開する。

2. 活動の成果

○イベントの実施

- ・食べる・たいせつフェスティバル2022
- ・道民森づくりの集い
- ・緑の募金出発式
- ・北海道植樹祭

○普及啓発の取り組み

- ・さくらの普及冊子「北海道のサクラ最前線」～育て方と名所～
- ・北海道産トドマツの木製ストロー
- ・北海道森と緑の会広報誌「Gift」

3. 参加者の声

- ・森林の大切さを身をもって実感できた。
- ・胆振東部地震により崩壊した厚真町のこの地に森林再生のシンボルとして植えた木が大きくなるのが楽しみ。
- ・木製ストローが多くて普及すれば、海プラスチック汚染も防げると感じた。
- ・北海道のさくらのことが具体的に理解することができた。

実績報告とりまとめ表

実施時期	2022年8月27日	2022年10月2日	2023年5月13日	2023年5月28日	合計
事業量	「食べる・たいせつフェスティバル2022（木育体験者）」	道民森づくりの集い2022（参加者）	「北海道・木育フェスタ2023」開会式及び「緑の募金」出発式（参加者）	北海道・木育（もくいく）フェスタ2023第73回北海道植樹祭（木育体験者）	
参加者数	100人	1,248人	226人	50人	1,624人
実施場所	札幌市スポーツコミュニティードーム	サッポロさとらんど	道庁ロビーホール	厚真町字幌内	

馬追自然の森整備事業（C-1）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

長沼馬追山自然の森環境保護整備と自然愛護精神の高揚。

自然の森遊歩道の笹や草刈り作業、又、清掃作業と風倒木の処理及び登山口（6か所）の粗大ゴミ清掃処理、教育委員会主催「生涯学習」登山事業協力など、年数回実行して環境保護と整備に努めている。

2. 活動の成果

遊歩道の整備をする事で、山野草が増え季節ごとに可憐な花を咲かせてくれ、登山者を和やかな気持ちにさせて頂き喜んでおります。

毎年実施している登山口の清掃も、2か所が道々に接しているため、モラルの無い人が捨てる粗大ごみは無くなりません。しかし減少はしてきていますが油断成りません。

看板などで不法投棄を呼びかけるなど今後の課題です。

3. 参加者の声

「滞台」に設置してある登山記帳簿に、遊歩道整備への感謝の言葉や、安全に楽しく歩けたとか、綺麗な花が沢山咲いていた…などの感想を見て、皆、作業した甲斐があったと喜んでます。

実績報告とりまとめ表

実施時期	9月3日	4月22日	R5.05.13	6月10日	R5.06.17	合計
事業量	遊歩道草刈り	登山口清掃	清掃登山	遊歩道草刈り	遊歩道草刈り	
参加者数	12人	14人	18人	18人	12人	74人
実施場所	馬追山遊歩道	馬追山各登山口	馬追山遊歩道	馬追山遊歩道	馬追山遊歩道	

温暖化防止等森林の役割を引き出す保全事業（C－2）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

例年通り、札幌市、当別町、小樽市、千歳市、恵庭市、苫小牧市など、8か所の森林フィールドにおいて下草刈、間伐等の作業を行った。

市町村の防風林（恵庭、江別、新篠津）では間伐作業により、防風林の荒廃を防ぎ、畑の作物生育や近隣住宅地の風による土の被害など、防風林の役目を保全する。また住宅地近くの森林（小樽市高川山林）では、道づくりをして、作業道の確保、散策道となり、近くの園児・学童の憩い・生育などの助けになったり、熊出没の防止につながったりする。

2. 活動の成果

概要の通り、1年間の計画をすべて実施することにより防風林は、荒廃を防ぎ畑の作物生育の推進、住宅地への土埃の防御などに役立った。

住宅地近隣の高川山林では、園児・児童らの遊び場となって、木々への興味、心身発育、また近隣住民の憩いの場となり、熊出没の防止へもつながった。他の生物の維持にもつながった。

苫小牧の広大な森林は他団体とエリア分けて保全活動を行い、風と日を通して健全な森を維持し、間伐材は薪材として持ち帰り再利用した。

札幌市南区の柴原山林では、土が流れて危険度を増した樹木の間伐や下草刈で、少しずつ健康になっている。

3. 参加者の声

当会はHPのブログに、毎回の活動ブログを掲載しているためか、HPから体験希望→入会という入会員が増えている。

若い方の入会も年4-6名ほど確保し、活動の参加回数からも定着率が高くなってきている。

薪材希望の方も多く、間伐材が再利用されている循環になっており、また薪材が出ない場所への参加も増えているのでこうして森を保全することの大切さが少しでも広がっているを感じる。

また、緑化推進運動功労者内閣総理大臣表彰により会員の喜びとモチベーションにつながり、各メディアの広報によりさらに入会希望者が増えた。

実績報告とりまとめ表

2022年度活動報告と2023年度の予定実績

札幌ウッディーズ

施業場所	目的	進捗状況	2022年度			2023年度			
			回数	月日	人数	施業内容	回数	月日	人数
高川山林 (小樽市)	会員所有林であり、整備することにより近隣住民の憩いの場とする。また、子供たちの遊び場として心身の生育に寄与するとともに、森林に対する興味を醸成する。	2021年度より作業道作設に取り掛かった。 ゾーン3（正面右側）の作業道は2022年度で完了。 引き続きゾーン2の遊歩道づくりに取り掛かる。 笹刈りは山頂付近から始まって各所少しずつ進行中。	1回	10/1	15	遊歩道作り 山頂遊具付近の笹刈り 間伐・薪作り	4回	4/8 4/23 6/10 6/25	20 23 22 22
北山山林 (千歳市)	森林組合が施業しない場所の作業を担うことで、健全な山林の保全を行う。	エリアが広いため目標は設けていない。 枝打ちは徐々に進めてるが、天然林はほぼ手付かず。 2018年度の台風で相当数の倒木及び根返りがある。 2022年度は薪材採集と一部枝打作業を行った。	回			アカエゾマツ林の枝打	1回	5/28	22
柴原山林 (札幌市)	2004年の台風18号による被害復旧を目指す。 また、幼木保全や笹刈等により、多様性のある森を目指す。	当初目的は達成されつつある。 2021年度は笹刈りを一部行った。 エゾマツ林の地盤崩壊が進行している。	2回	7/24 8/6	16 14	林内の片付け・整理	1回		
苫東育林 コンペ (厚真町)	苫東環境コモンズが主催する育林コンペに参加。景観の良い森づくりを行い、間伐材の有効利用を目的とする。	2018年度に初参加。 枯損木処理、萌芽を整理して薪材採集を主に行っている。 2023年度からは薪材を採りつつ700本/ha程度まで伐り進める。 林床は整理整頓し入りやすい環境を目指す。	2回	11/12 11/27	17 15	間伐・除伐・整理伐 薪材としての活用 林床整理	2回	5/13	20
22世紀の森 (支援・当別町)	「新山川草木を育てる集い」の支援活動として、どろ亀先生の遺志が継がれた森林造成に寄与する。	植樹後の保育を目的とした草刈及び作業道の草刈を継続している。	1回	7/9	16	作業道及び植栽木周辺の草刈	1回		
江別市防風林	江別市依頼による防風林の間伐 (石狩振興局森林室のマッチング事業)	2019年度に初回施業（高速道路脇の枯損木処理） 2021年度は「えみくる」内の部分皆伐と枯損木処理 2022年度は東野幌の防風林で除伐	2回	9/10 9/25	17 15	東野幌の防風林の続きを予定	2回		
恵庭市防風林	恵庭市依頼による防風林の間伐 (石狩振興局森林室のマッチング事業)	2018年度より活動を始める（列状間伐） 2021年度は耕地防風林の灌木処理（臨時活動） 2022年度は2019年度に施業したエリアの列状間伐	1回	8/28	18	恵庭市の希望による施業場所・規模共に未定	1回		
新篠津村防風林	新篠津村依頼による施業 (石狩振興局森林室のマッチング事業)	2020年度より活動開始 耕地防風林の列状間伐 2021年度は防風林の白樺伐採 2022年度は防風林のヤチダモ伐採25本程度	1回	(5/14)	22	防風林2カ所で伐採 100本以上有り	3回		
(臨時) 盤溪 ZEALAND	会長の知人で、キャンプ地整地を目指す女性数人での活動の支援	除伐作業	1回	11/12	18	予定なし			
合 計		(1回活動平均参加人数18.1人)	10回		161		6回		129

コンサ百年の森づくり事業（C-3）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

台風被害により失われた支笏湖周辺の森を復興するため、2008年から植林した苗木の維持管理とともに、小学生を対象とした学習「森の教室」を現地で実施。石狩森林管理署の協力の下、森の生態系などの授業とカミネッコン（※カミネッコンは、土に埋めると自然に還る再生段ボールで作った植樹ポットのこと）を利用した補植作業を行い、森の機能を含む自然環境についての啓発と理解を深めてもらう。

2. 活動の成果

絶滅危惧種のシマフクロウをモチーフにしたコンサドーレのマスコット「ドーレくん」。子どもたちにも人気があるこのドーレくんを題材にした生態系についての学習や苗木の補植作業を現地で実施することにより、多感期の小学生に対して継続的な森の育成活動は生物多様性の保全に貢献できるのだということを理解してもらえた。

これからも「森の教室」を通して、子どもたちへ森林や自然環境についての理解を深める取り組みを実施していきたいと考えている。

3. 参加者の声

特別支援学級生を対象にしたのは初めてだったが「(植えた苗木は)大人になったらどのくらいになるの？」など、それぞれに森について関心を示したようだ。

実績報告とりまとめ表

実施時期	9月18日	9月26日	9月30日	合計
事業量	現地予見調査	下刈と置き苗床作り	学習と補植	
参加者数	1人	1人	49人	51人
実施場所	千歳市水明地区（石狩森林管理署千歳森林事務所5460林班）			

野幌の森再生事業と親子による植樹祭（C-4）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

2018年の台風で被災した野幌森林公園道有林の森の再生事業3年目である。今年度は169林班85小班0.33haを対象にした。先ず協会員による自生稚樹の優先保育と草刈り、地拵え、防草シートの敷設を行った後、9月11日に当協会主催の親子森林教室の植樹祭を小学生と保護者参加の下に行い、また、10月24日に協会員による植樹を行い、合わせて20種190本の針・広葉樹の苗木を植え、食害防止のネット及びハイトシェルターを設置した。

2. 活動の成果

これまで裸地であったところに木が植えられ、食害防止措置が講じられたことで順調に緑が回復していくものと思われる。過去2年間植栽してきたところも含めて今後とも下草刈りを継続して森の再生を見守っていく。

また、植樹祭に参加した親子は準備した新しいヘルメットで安心して活動することが出来、木を植えることが、森の役割と保全していく大切さを理解する機会となった。

3. 参加者の声

- ・植樹祭に参加した子どもたちからは、食害防止のネット張りは脚立に上ってカケヤを打ち下ろすのが大変だった、隣の植栽地で昨年植えた木が順調に育っているのを見て安心した、緑のダムの実験を見て森の役割が理解できた、との感想が寄せられた。
- ・一昨年の植樹では1本植えの広葉樹にハイトシェルターを設置しなかったのが食害でかなりやられたが、昨年、今年と設置して順調に生育しているのを見ると、ハイトシェルターは効果があるとの協会員の声である。

実績報告とりまとめ表

実施時期	2022/7/12	2022/8/1	2022/8/24	2022/9/9	2022/9/11
事業量	昨年、一昨年植栽地の下草刈り、今年度植栽予定地の草刈り	今年度植栽予定地85小班0.33haの草刈り、地拵え、防草シート敷設	植樹祭に備え、臨時駐車場の草刈り、簡易トイレ設置、次年度植栽地87小班的草刈り	植樹祭資材搬入、シュミレーション実施、次年度植栽地87小班的草刈り継続	植樹祭開催、3m角防草シート10箇所苗木50本混植し、食害防止ネット設置
参加者数	協会員9名	協会員9名	協会員11名	協会員9名	小学生14名保護者他13名協会員13名計40名
実施場所	北海道江別市 野幌森林公園 道有林（169林班 85、87 小班）				

実施時期	2022/9/28	2022/10/24	計	備考
事業量	植樹した10箇所周囲に140本の新たな植樹箇所を定め地拵え	針広苗木140本を植樹し、広葉樹にはハイトシェルターを設置	0.33haの風倒木地に190本の針・広葉樹の苗木を植えた他、これまでの植栽地、次年度の植栽予定地の草刈り等を行った。	(注) 当該植栽地は次年度以降も5~6月に下草刈りを継続実施して生長を見守っていく予定です。
参加者数	協会員9名	協会員12名	99名	
実施場所	北海道江別市 野幌森林公園 道有林（169林班 85、87 小班）			

恵庭かわまちづくり植栽事業（C-5）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

恵庭市緑化推進委員会が植樹活動を支援する「恵庭一万本桜植樹市民の会」は、「花のまち」に相応しい桜並木を作り、恵庭市を北海道一の桜の名所にすることを目標とし、平成27年に設立された。植樹場所については、恵庭市が漁川を始めとする多くの河川があり、河川とともにまち並みが形成されてきた地理・歴史の経緯から、河川敷地を優先的に植樹していき、中でも漁川河川敷地への植樹が最も効果があると考え、漁川から植樹を行っていき、漁川が完了した後は他の河川及び公園敷地等へ植樹場所を移行していく予定としている。

さらに長期的に植樹活動を継続していくため、同市民の会は、行政、町内会並びに各種団体等に協力を積極的に呼び掛け、市民活動としての基盤を確立することが必要と考えており、最終的には河川敷地等の桜と「花のまち」を併せ、他の自治体が進めている花のまちづくりとは重複しないオンリーワンの「花のまち恵庭」とすることを目指している。

※過去の活動実績

- ・令和2年10月10日に「恵庭市市制施行50周年記念事業」で行った事業で、かわまちエリア（南島松835番地6外、A=約1.7ha）において、アーコレド15本の記念植樹活動を実施した。
- ・令和3年10月4日に恵庭市緑化推進委員会と「恵庭一万本桜植樹市民の会」が協力して行った事業で、かわまちエリアにおいて、八重桜（関山）15本の植樹活動を実施した。

2. 活動の成果

令和3年度から恵庭市緑化推進委員会（恵庭市経済部花と緑・観光課事務局）と恵庭一万本桜植樹市民の会が協力して桜の植樹活動を行っており、令和4年10月19日に八重桜（関山）15本の植樹を実施した。

3. 参加者の声

令和4年10月19日の桜植樹の参加者数は12名（恵庭一万本桜植樹市民の会11名及び恵庭市緑化推進委員会事務局1名）。

同桜植樹市民の会の下原干城会長は、「花の拠点（はなふる）のかわまちエリアを桜の名所にして、多くの人にお花見をしていただきたい」と語っていた。

実績報告とりまとめ表

実施時期	9月30日	10月19日	計
事業量	現地下見	桜植樹	
参加者数	5名	12名	17名
実施場所	花の拠点（はなふる）かわまちエリア		

令和4年度里見緑地内植樹・環境整備事業（C-6）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

(1) 植樹事業

里見町7丁目地先の傾斜地約1,440㎡に、9種77本の苗木を植樹した。また、里見緑地内の植樹地と育樹地の草刈を3回実施した。

(2) 遊歩道の側溝掘削と排水用塩ビ管理設事業

遊歩道の山側に側溝を2か所掘削して、側溝に流入した雨水を遊歩道の谷側に流出させるために、路面下に塩ビ管3本（直径100mm、長さ2.0m）を埋設して路面の保全を図った。

(3) 遊歩道の木質粉碎チップ敷均し事業

遊歩道の一部区間約700mに、木質粉碎チップ30㎡を敷均し、遊歩道の路面の保全と歩行者の歩行の安全性と快適性を図った。

(4) 排水路を横断する木橋設置事業

緑地内を横断する里見排水路（W1.6m、D1.2m、コンクリート3面張り）に遊歩道の付属物として木橋（W1.6m、L7.0m、H60cm）を設置する。

2. 活動の成果

(1) 植樹事業

①前年度植樹地の隣接地に苗木を植樹して、針葉樹・広葉樹の混交林の森づくりが推進できた。

②ススキ野を樹林地に変えることで、将来、防風効果と緑地景観が高められる。

(2) 遊歩道の側溝の掘削と排水用の塩ビ管理設事業

遊歩道へ敷均した木質粉碎チップの流失が止まり、水溜まりが無くなった。このため、降雨時や降雨後の歩行者の歩行の安全性と快適性が著しく向上した。

(3) 遊歩道に木質粉碎チップの敷均し事業

①路面の凹凸がなくなり、歩行者にとって歩き易く、転倒が著しく減少する。

②路面のクッション効果が高まり、膝への負担が軽減される。

③雨水の流入による路面の浸食が弱まり、雑草の生長が抑制されている。

(4) 排水路を横断する木橋設置事業

手摺の付いた幅広の木橋を設置することにより、遊歩道利用者の歩行の安全性・快適性を高め、遊歩道の景観の向上が図られ、年齢を問わず利用者の増加が見込まれる。

3. 参加者の声

(1) 植樹事業：会員のみで実施しているため、市民からの声は特にない。

(2) 遊歩道の側溝の掘削と排水用の塩ビ管理設事業：通行者から、「靴底に泥がつかず、水溜まりもなくなったので安全で快適に通行できる。」との声があった。

(3) 木質粉碎チップの敷均し事業：①歩き易い、②アスファルト舗装の歩道と比べて、膝に負担が掛からない、③雨後に歩いても靴に泥がつかない等の意見が寄せられた。

(4) 木橋設置事業：現在、設置作業中であり、市民からの声はない。

実績報告とりまとめ表

実施時期	4月28日～9月22日	8月1日～8月30日	6月22日～8月30日	9月13日～10月26日 (予定)	合計
事業量	植樹と草刈り	遊歩道の側溝掘りと 塩ビ管理設	遊歩道に木質粉碎 チップ敷均し	排水路に木橋の設置	
参加者数	5名	2名	2名	3名	12名
実施場所	里見町7丁目地先	里見町6丁目地先	里見町5・6丁目地先	里見町6丁目地先	

未来に向かって日高の森林づくりの実施（C－8）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

- 地元の森林をフィールドに体験林業（森林再生を図るための造林地の下草刈りや植栽・枝打ちなどの森林整備）を通じ、森林浴を満喫して、会員相互の親交を深める活動とする。
- 台風の接近により、事業は中止せざるを得ない状態であったが、新型コロナウイルス感染症も一時は落ち着いた状態となり、本年度事業は順調に実施することができました。

2. 活動の成果

森林・林業に関する理解に増進することができ、身近な自然に親しみ、森林づくりを楽しみながら、国土緑化事業や地域活性化に貢献したいと、前年まで出来ておりました事業も、4年度は新型コロナウイルス感染症が縮小したことにより、事業は台風接近に伴う中止が残念だったが成果は十分得られた。

3. 参加者の声

「親睦を第一に、決して無理をせず」をモットーに、身の丈に応じた活動を目標にしておりましたが、台風接近により事業の中止や延期を伝えたと、なにぶんにも高齢者ばかりなので、残念であるが仕方ない。次回に向けて頑張りたいところであった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	7月13日	9月7日	10月8日	10月18日	11月7日	合計
事業量	国有林 0.3ha	町有林 0.8ha	国有林 バットの 森づくり植樹 祭0.2ha	町有林 0.8ha	国有林 エゾ山桜植樹祭 16本	
参加者数	6人	6人	5人	6人	4人	27人
実施場所	新ひだか町高見 ふれあいの森	新ひだか町台風 接近により中止	新冠町2130林班 1小班	新ひだか町農屋 17林班1小班	新ひだか町 二十間道路	

新ひだか町営林友の会森林づくり事業（C－9）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

新ひだか町在住の会員を対象に、新ひだか町有林（二十間道路付近）において森林整備等を実施した。
森林整備の内容は、新ひだか町有林（二十間道路付近）で、エゾヤマザクラ16本を植樹した。

2. 活動の成果

今年度は、北海道遺産、サクラ名所100でもある二十間道路桜並木の再生整備の一貫でもある植樹活動で会員相互の親睦が深まったこと、森林の大切さや次世代へ引き継ぐための啓蒙活動になった。

3. 参加者の声

参加者からは、二十間道路桜並木の再生整備の取組に参加でき、今後も地域等の森林守り育てるために貢献したいとの声がかれた。

実績報告とりまとめ表

実施時期	11月7日	合計
事業量	16本	16本
参加者数	40名	40名
実施場所	北海道新ひだか町有林	

五稜郭保安林清掃事業（C-10）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

五稜郭風致・保健保安林の草刈りや木堀の修理、植木の剪定、巣箱の付け替え及び利用状況の調査、ゴミの収集等を行うことにより緑化事業の普及啓発及び美化意識の向上を図る。

2. 活動の成果

貴重な五稜郭風致・保健保安林の保護意識の向上と緑化事業の普及啓発及び美化意識の向上が図られた。

3. 参加者の声

- ・身近で貴重な五稜郭風致・保健保安林を今後も守っていききたい。
- ・この活動が来年も実施されれば必ず参加します。

実績報告とりまとめ表

実施時期	R4年7月15日	合計
事業量	草刈り、選定、木堀の補修、清掃活動	
参加者数	42名	42名
実施場所	函館市柳町 〃 本通 五稜郭風致・保健保安林	

「おさかなの森づくり運動」事業（C-11）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

八雲町遊楽部川は、全国でも有数の清流としてサケ・マスの遡上河川であり、又、アユ等多数の魚類が生息している。近年、遊楽部川を含む管内河川の自然災害等により、河川の底棲動植物並びに水資源に対する影響が危惧される中、海を育む森づくり計画を策定し、海と河川に係わる森林整備を図るため、一般町民等の尊家を募り緑の豊かな自然環境と普及啓蒙を図ることを目的とし、地域の関係者と連携のもとに植樹（トチノキ苗木200本）を実施した。

2. 活動の成果

平成6年度より毎年実施している本事業については、植樹による森づくりの効果のみならず、本事業を今後も継続していくことにより、漁業者のみならず関係者間における森林整備が海と河川を育むという意識の維持・向上につながっている。

3. 参加者の声

- 毎年植樹に参加することで本事業の海への好影響を感じられる。
森林整備を継続していくことで河川からの流木や濁水の流出が抑制されることを願う。
さけ資源の維持・保護のため欠かせない事業である。

実績報告とりまとめ表

実施時期	10月14日	合計
事業量	0.2ha トチノキ 200本	
参加者数	12名	12名
実施場所	北海道二世郡八雲町富咲地区	

ユネスコの森づくり (C-13)

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

- ① コロナと熊の対策で大雪山国有林にバスで植樹に行くことが不能になったため、同じ自然保護団体「西神楽ホテルの会」と協力し、ホテルの里にミズナラ20本を植樹した。ユネスコ会員とホテルの会会員合わせて延20人が参加した。
- ② 宮城県の小学校から植樹依頼の寄付金1万円余を受け、記念標識を設置した。

2. 活動の成果

植樹活動の意義が広く市民及び子供たちに理解が深まった。

3. 参加者の声

- ① 植樹の意義に賛同してくれる声が旭川市だけではなく、本州（宮城県の小学校）からも届くようになって嬉しい。
- ② 東北地方の震災の地に桜の苗木代を寄贈している。北海道と本州の活動がつながるよう広めましょう。
- ③ コロナ禍と熊の出没が収まったらまた、子供たちと大雪山に植樹しましょう。
- ④ 近郊にも植樹できるように、市の公園課や「旭川市を緑にする会」等とも協力していきましょう。

実績報告とりまとめ表

実施時期	2022年6月1日～10月30日	合計
事業量	4回	
参加者数	13名（延べ35名）	35人
実施場所	「旭川市西神楽ほたるの里」	

地球にやさしいちいさな森 (C-14)

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

旭川市、スカの森において、一般の方を対象に、講師を招いての、機器の取り扱い講座と森林保全活動、散策や植生調査活動を行った。保全活動は、機器の点検整備の方法や取り扱い方を学び、実際に作業を行うという方法で行った。散策と植生調査は、秋は木の実や種を集めながら、春は植物や植物の根を採集しながら行った。植生調査会の開催にあたっては、日頃、森林散策などの機会が無い方も、安全に楽しく活動できるよう、下刈りや枯損木の除去を行った。

2. 活動の成果

機器の点検・整備の仕方、機器を扱うときの体の使い方を学んだことは、効率的で安全な作業につながった。一般の方々が、散策と植生調査を通して、木々や植物、木の実や種、森に棲む動物や小さな生き物に関心をもち、何よりも森の散策を楽しんでいると感じてくれたことが、環境保全活動や林業に関心を向けてもらうきっかけになったのではないかと考える。今後も、明るい、生き生きとした元気な森づくりを継続し、一般の方々が森にかかわる機会を作りたい。

3. 参加者の声

- ・ 機器の点検・整備の仕方を丁寧に学ぶことが出来、機器を扱う作業が楽しくなりました。
- ・ 風で運ばれる種、鳥が運ぶ種、種はいろいろな形で運ばれて芽を出すことを知りました。
- ・ 植物や鳥や小さな生き物がつながって、森が育っていることに感動しました。
- ・ 散策中に気になった野草をその場で採取して、味わえるのは、贅沢の極みです。
- ・ 小川が流れ、風の音や鳥の鳴き声が聞こえる森でした。次回は森の再生に参加したいです。

実績報告とりまとめ表

実施時期	7月2日 7月17日	8月30日 9月22日	10月2日	1月29日	5月13日	合計
事業量	刈払機の取り扱い・笹刈り0.09haチェーンソーの取り扱い・薪割り	笹刈り0.18ha	秋の森さんぽ	間伐・枯損木の処理	植生調査	7回
参加者数	6名	4名	11名	4名	10名	35名
実施場所	旭川市36林班12小班	旭川市36林班12小班	旭川市36林班12小班	旭川市36林班12小班	旭川市36林班12小班	

赤岩青巖峡環境整備事業 (C-15)

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

2019～2021年まで、遊歩道内の危険個所の修繕活動を行いながら美化活動を行った。赤岩青巖峡全体の森林環境を体験型のフィールドとして活用する方法として、一部の意見より赤岩遊歩道にはどういったものがあるのか、どういったところなのかわかりにくいとの意見を頂き、2022年度は赤岩遊歩道のMAPの更新と遊歩道の案内表示を行った。自然保護を主体としつつ今後の利用方法を考えると共に、管理エリア内の美化活動を今後の継続し、体験ツアーを実施し各回、意見交換し今後の展望について話し合いをした。また赤岩青巖峡をよく利用するクライマーの方にも意見を頂き参考にした。

2. 活動の成果

森林内の清掃活動や体験ツアーを行うことで、赤岩遊歩道に具体的にどういった案内などが必要なのか、意見を抽出し従来あった、赤岩遊歩道の案内MAPと管理エリア内にある巨石の数々でどの岩が印象的なかを選出し案内看板の製作を行い、以前まで利用していた駐車スペースの案内看板、赤岩を利用する際のルール看板の更新を行い景観の美化に努めることが出来た。

3. 参加者の声

- 赤岩青巖峡のMAPを見たが、各箇所に巨石があるのがわかるが、実際に来てみないとイメージしづらく、どれがどの巨石がわからないので、案内やイメージができるものが欲しい。
- 大人になって、こんな自然を身近に感じて冒険のような感じで良いと思った。巨石の箇所によっては、子供が難しい場所（倒木多数）があるように思うのでそこを改善してもらえれば、大人から子供まで自然を体感できるのではないかと思う。
- 景観はとて素晴らしい！本格的な登山や山中に入るわけではないので、気軽に寄って満喫できるのは良いと思う。
- 夏にサイクリングで立ち寄ったが、マイナスイオンを感じては他の場所とは違い涼めて良かった。緑も体験することができたので、大変癒された。
- コロナが落ち着いて久しぶりに活動に参加できた。こんな利便性や交通便が良いのは、やはり素晴らしいです。是非この場所を維持しつつ守っていただきたいと思います。

実績報告とりまとめ表

実施時期	7月3日	8月28日	9月11日	10月8日	合計
事業量	赤岩清掃ボランティア活動	ヒグマライドモニターツアー	占冠赤岩ライド	サイクリング	
参加者数	29人	11人	9人	16人	65人
実施場所	赤岩青巖峡	道の駅～赤岩青巖峡～ニニウ	占冠道の駅～赤岩青巖峡～双珠別	占冠道の駅～赤岩青巖峡	

「帯広の森」づくり事業 (C-16)

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

帯広の森を拠点として自然豊かな郷土の森を後世に残すことを目的に、市民が楽しく安全に憩うことが出来る森づくりを行っている。

植樹後20年以上経過の広葉樹区域および40年近く経過の針葉樹区域の約19haを担当し、下草刈りや除間伐の育林作業の他、市民を対象とした現場での研修会を開催し郷土の森を守り、育てる仲間づくりに努めている。

2. 活動の成果

- 帯広市に再申請していた活動エリアの拡大（13ha）が令和5年4月に認められ、当会活動エリアは合計32haとなった。人工林である帯広の森を十勝本来の豊かな森に育成する当会の活動は順調に進んでいる。これは地道な森づくり活動と各種研修会開催⇒新会員増加⇒森づくり人材育成⇒活動量増加⇒当会活動エリア拡大、という好循環による結果であると考えられる。
- 市民講座開催で森の管理や生態についての理解が広がっている。

3. 参加者の声

[森の工作体験会]

- 枝葉や実だけでなく、樹皮や蔓、根など色々なものを使うことが出来て楽しかった。
- 大人から子供まで参加できる森づくりイベントで、森の恵みの利用について楽しく学べた。

[白樺樹液採取体験会]

- 木によって樹液の味が違って驚いた。
- こんな近くに散策できる気持ちの良い森があることを初めて知った。
- 森を育てる為に必要な様々なことを教えて貰った。目から鱗だった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	R5年1月14日	R5年4月22日	R5年5月14日	R4年7月～R5年6月	合計
事業量	森の工作体験会	白樺樹液採取体験会	もくフェスとかち（振興局主催）の子供用薪割体験、丸太切り体験を担当	年間を通した森づくり活動	
参加者数	16人	62人	188人	798人	1064人
実施場所	帯広の森はぐくむ 帯広市南町南9線49番地1	「帯広の森」第8ブロック 帯広市西25条南6丁目	満寿屋パン麦音特設会場 帯広市稲田南8線16-43	「帯広の森」第7ブロック 第8ブロック 帯広市西25条南5～6丁目	

野付湾の流域河川の河畔林づくり事業（C-17）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

野付湾に流入する主な4河川（当幌川・茶志骨川・飛雁川・春別川）の河畔林を健全に育成する目的で、今年度は当幌川水系の河畔林に植樹を行った。

その植樹活動には、野付湾を主とする野付漁業協同組合と当幌川沿いの酪農家を管理する計根別農業協同組合、その2団体を繋ぐ役割の特定非営利活動法人野付・エコ・ネットワークの三者による協働事業で植樹活動を行うことが出来たのは、野付湾とその流域の「森林保全活動の啓発」と「自然環境保全への意識向上」に大きく寄与することができたと考えている。

また今後の継続的で科学的な植樹活動事業に役立つ貴重な資料とする為に、野付湾に流入する4河川（茶志骨川・当幌川・飛雁川・春別川）の河口部で8月から12月まで水質検査（累計32回実施）を行った。その結果をもとに今後の河畔林育成計画を考えていきたい。

2. 活動の成果

今年度は、野付湾に流入する4河川のうちの当幌川水系に植樹を実施した。その植樹の成果には以下のものがあると考えています。

- ①最終的な流入先である野付湾を主な生産活動の場として活動している野付漁協と上流・中流域を主な生産活動の場として活動している計根別農協という二大基幹産業とが連携して森づくりを行うことで自然環境保全に関する活動を協働して行うことができたのは大変価値がある。
- ②漁業協同組合と農業協同組合とのつなぎ役として、地域の環境保全を推進する目的で設立された特定非営利活動法人がその役割を果たせたのは、今後の環境保全活動の活性化に繋がる活動となった。
- ③今回の植樹を行った当幌川水系の河畔林は、単年度の植樹活動ではなく何年かの継続した森づくりを計画的に進めることが可能な地域であることから、地域住民に植樹活動によって森づくりの大切さを啓発できる場になると考える。
- ④植樹活動と合わせて今回実施した水質調査で、野付湾に流入する4河川のデータをもとに、重点的に河畔林の植樹活動に取り組むべき河川を明らかにできた。

3. 参加者の声

- *最近では当幌川周辺の清掃活動を中心に行っていたが、植樹活動を行うことができてとても良かった。
- *漁業者として、上流の環境保全についての関心はあった。最近では道東でも赤潮などの被害が出ている地域もあるので、植樹活動を通して水質の浄化に繋がってくれば良いと思う。
- *道東の基幹産業は水産業と酪農業であるが、この二つの産業は密接に関わっている。今後も持続的に漁業と酪農が発展していくためには、今回のようにお互いが協力して植樹することは大変意義が高いことだと思う。
- *国内最大級のアマモ場である野付湾を守ることは、上流に広がる国内有数の酪農地帯の各河川の水質を良くすることが大切。河畔林の植樹を行うことは水質浄化にも大きく役立つと思う。
- *少しずつでも、植樹活動をおこなって森をつくることはとても良いこと。
- *漁業者と農業者、一般市民が協力して植樹活動を行うのはとても良い活動だった。
- *まだまだ植える場所があるので、何年か続けてやった方が良いと思います。

実績報告とりまとめ表

実施時期	10月31日	8月～12月	合計
事業量	植樹活動100本 (ハルニレ・ヤチダモ) 100平方メートル	水質検査 32回	
参加者数	23名	のべ64人	参加者 のべ87人
実施場所	中標津町 計根別地区の当幌川水系	標津町 別海町	

青森県森林づくり推進体験学習活動事業（A-25）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

開会式、オリエンテーション、森林浴体験活動、体験教室、チェーンソーアート制作実演及び作品のオークションの実施。オークションで落札された落札金は全額緑の募金に寄付。体験教室は森林・緑に関する①県産材を使用した木工教室、②ドライフラワーアレンジメント教室、③蜜ろうを使用したキャンドル教室の3教室を実施した。午前と午後で森林浴体験活動と体験教室の参加者を入れ替え、密にならないように工夫し参加して頂いた。県民に公益的機能や多様な生態系など森林の重要性を認識して頂くために、「県民の森」で森林の性能や生態を学習することを目的に体験会を実施した。

2. 活動の成果

森林を散策し、森林インストラクターから森林機能などについて説明を受け、参加者に森林や水の重要性等について普及啓発することが出来た。マスクの着用や3密の回避、検温、消毒の徹底など新型コロナウイルス感染拡大を防止しながらイベントを無事開催することが出来た。

3. 参加者の声

- ・森林浴体験活動で草木の名前を教えてもらい勉強になった。
- ・森林インストラクターの話聞いて自然の大切さを改めて感じた。
- ・チェーンソーアートの制作実演を見て感動した。
- ・木に触れる貴重な体験でした。
- ・きちんと新型コロナウイルス感染症拡大防止策を行っていて安心して参加できた。
- ・2年ぶりの開催でとても楽しみにしていた。無事開催出来て良かったです。

実績報告とりまとめ表

実施時期	9月17日	計
事業量	青森県フォレストフェスタ2022in 梵珠山	
参加者数	約130人	約130人
実施場所	青森県 青森市	

木と人とのふれあい事業（A-26）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

- 県内4地区14箇所木工教室や森林教室を開催した。
- 県産スギ材を使った卓上カレンダーの入替え用カレンダーを製作・配布した。
- 幼少期の子供たちに県産材の積み木を贈呈した。

2. 活動の成果

木工教室や森林教室の中で、森林の持つ多目的機能の重要性や木材利用の必要性について理解を深めてもらう事ができた。協力団体や企業等に県産スギ材卓上カレンダーを使用することにより、森林・林業の普及啓発を図ることができた。また、幼少期の子どもたちが、日頃から木に接し木を使うを通じ、豊かな心を育む木育を推進し、木材の利用拡大を図った。

3. 参加者の声

- ・完成品を家で使うのが楽しみです。
- ・木のおもちゃの魚釣りゲームが楽しかったです。
- ・作り方を親切に教えてくれてありがとうございました。
- ・木材が二酸化炭素を固定していることに驚きました。

実績報告とりまとめ表

実施時期	7月24日～11月20日	計
事業量	森林環境教室での県産材を使用した木工教室県内4地区14箇所	
参加者数	542名	542名
実施場所	青森市、弘前市、むつ市、東通村、五所川原市、つがる市、深浦町、鱈ヶ沢町	

令和5年度遠野市緑化祭『里山フェスタ2023』(A-27)

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

私達の生活に重要な役割を果たしている森林の多面的な機能とその大切さについて、森林整備の体験を通じて理解を深めることを目的とする。

2. 活動の成果

今年度は、遠野市宮守町下宮守にある欄場市有林において開催した。

遠野市内の森林愛護少年団員や企業、市民や林業関係団体からも参加頂き、協力し合いながら、カラマツの植栽を行った。

開会式中の「緑の誓い」では、地元の宮守森林愛護少年団代表6年生1名が発表を行った。

その他、高性能林業機械による伐採及び造材の実演やドローンによる作業効率の向上を説明し作業の様子を撮影した。

3. 参加者の声

森林愛護少年団の参加者は親子での参加者が多かった。

少年団員からは、「森林や林業のことを学ぶことができて楽しかった。」等の声が聞かれ、森林の大切さや森林整備を学ぶ機会を作ることができたと感じた。

実績報告とりまとめ表

実施時期	6月10日	計	備考
事業量	・カラマツの植栽 ・高性能林業機械の見学等		
参加者数	334人	334人	事務局による公式発表人数は約400人
実施場所	岩手県遠野市		

一関地方育樹祭 (A-28)

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

令和4年度一関地方育樹祭は、住民一人一人が、それぞれの立場で森林づくりに参加する気持ちを育み、人と森林が共生する心豊かな社会を構築することを目的として開催した。

2. 活動の成果

今年度は、「西行桜の森木工芸館「遊鵬」」を会場に、記念植樹と標柱の建立を行った。

植樹を通して参加した小学生の森林づくりに対する意識が向上を図ることができた。また、小学校行事等で利用する施設付近での植樹としたこと、高学年全員分の記念品を配布するなどしたことから、町内の小学校での森林環境教育の推進が図られるものと考えられる。

なお、新型コロナウイルス感染症拡大状況を踏まえ、参加者を開催地の小学生に限定し、規模を縮小して開催した。

3. 参加者の声

- ・晴れた中しっかり開会宣言が言えて良かった
- ・苗が元気よく育ってくれるよう思いながら植えた
- ・今後も皆さんと桜を育てていきたい

実績報告とりまとめ表

実施時期	令和4年10月1日	計	備考
事業量	・記念植樹		
参加者数	33人	33人	
実施場所	西行桜の森木工芸館「遊鵬」(平泉町長島字深山地内)		

緑の少年団育成事業（A-29）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

緑の少年団の結成及び活動を支援し、育成する。

2. 活動の成果

岩手県緑の少年団大会参加経費等、緑の少年団活動に要する経費の助成を行い、陸前高田市において令和5年に開催された全国植樹祭に向けた緑化推進の機運醸成及び開催後の緑化推進に対する意識の高まりの継続に努めた。

3. 参加者の声

- ・全国植樹祭式典で両陛下のお手植え、お手播きのお手伝いをして、緊張しましたがとても光栄で、達成感がありました（米崎緑の少年団）

実績報告とりまとめ表

実施時期	令和4年7月29日	令和5年4月8日、22日	令和5年6月28日	計	備考
事業量	岩手県緑の少年団大会 (米崎緑の少年団)	全国植樹祭りハーサル (米崎、気仙小緑の少年団)	ボランティア活動 (横田自然愛護少年団)		
参加者数	のべ33人	のべ93人	30人	のべ156人	
実施場所	陸前高田市内ほか				

ふるさとの巨樹・名木観察会（A-30）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

地域における巨樹・名木を観察するとともに、居住地における歴史や自然環境を理解することにより、自然の恩恵に感謝する心を育むことを目的に二戸地区で観察会を開催した。

2. 活動の成果

参加者は、定員20名に対し、19名の参加があり、観察地は、二戸地内の6ヶ所、7種類の巨樹・名木を講師の岩手大学名誉教授 橋本良二氏の解説により観察会を行った。

講師の巨樹・名木に係る幅広い知識と経験を交えて、現地の観察樹木を見ながら樹木の優環境、生態、病害虫の分野まで具体的に分かりやすい説明と歴史にも造詣が深く、巨樹から歴史を学び伝える言葉は意味が深く、講師の解説は参加者からも分かり易くとても良かったと好評であった。

毎年、県内各地で実施しているが、参加人数もほぼ募集定員どおりとなっており、今後も継続して実施することとしている。

3. 参加者の声

- ・先生の郷土史等もふまえた解説が分かり易かった
- ・他地域の観察会にも行ってみたい
- ・地元の方々・所有者がしっかりと名木を管理されていることにも感心した
- ・もっと地元の名木を見に行きたい
- ・今後開催されたときもぜひ観察会に参加したいと思います

実績報告とりまとめ表

実施時期	令和4年10月29日（土）
事業量	巨樹・名木7種類 JR二戸駅⇒二戸地内（6ヶ所）⇒JR二戸駅
参加者数	19名
実施場所	二戸地内

県民の森ボランティア活動（A-31）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

森林・環境に対する理解を深め「県民参加の森林づくり」を進めるため、県民参加のボランティア活動行事を実施した。

2. 活動の成果

令和4年8月27日（土）は明け方まで雨が降ったが、農林水産部長ほか県職員、団体関係者、一般参加者を含め103名が参加し、「下刈作業」「アジサイの植樹」「木製プランターカバーの製作」の3班に分かれてボランティア活動を行った。

3. 参加者の声

- ・下刈を通じて将来の森林のためになる活動に参加できてよかった
- ・また次回も参加したい
- ・天気は悪かったが充実した時間だった
- ・ぜひ全国植樹祭にも参加して木を植えたい
- ・自分の作った木製プランターカバーが全国植樹祭の会場で飾られるとうれしい

実績報告とりまとめ表

実施時期	令和4年8月27日（土）
事業量	下刈作業 78名 アジサイの植樹 15名 木製プランターカバーの製作 10名
参加者数	103名
実施場所	岩手県県民の森地内

第53回岩手県緑の少年団大会（A-32）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

本県の緑の少年団や森林（自然）愛護少年団が一堂に会し、森林を中心とする自然の中で、体験学習等を通して相互に交流し、仲間の連携と理解を深めると共に、緑を愛し育てる豊かな心を育むことを目的に、新型コロナウイルス感染症対策に万全を期し第53回岩手県緑の少年団大会を開催した。

さらに、秋田県・福島県からの参加を得て、県外少年団とも交流することができた。

2. 活動の成果

今年度は、植樹体験やプランターカバー製作（全国植樹祭の会場周辺に花を飾るプランター）及び森林体験学習等の活動を通して、他の少年団員との交流が促され仲間との連携と理解が深まった。

活動を通して人や動植物は豊かな自然環境によって生かされていることや、生活に欠かせない木材の大切さなど、森林や自然を守る重要性の理解と緑化意識の醸成が図られた。

3. 参加者の声

- ・どんぐりクイズや木工工作がとても楽しかったです。
- ・木を植えたら未来につながるし、協力したから一番楽しかったです。大きくすくすく育ってほしいです。
- ・いろんな木の名前を知れてよかったです。
- ・特に木のことがたくさんわかりました。「木の実あてクイズ」では色々な木の実のことがわかりました。「木の測り方」では、48年経った木が35cmの太さになっていることがわかりました。
- ・小学校最後の大会で、すごく暑かったけれど最後まで楽しくできたのでよかったです。難しかったことは、木の本棚にくぎを真っ直ぐ打つことです。曲がったりして大変でした。

実績報告とりまとめ表

実施時期	令和4年7月29日（金）
事業量	(1) 開会式 ①周年記念表彰 ②活動事例発表 ③緑の誓い (2) 全体交流会 ①植樹会 ②森林体験学習 ③木工工作（プランターカバー、本棚）
参加者数	247名（緑の少年団11団124名、育成会49名 その他関係者）
実施場所	岩手県八幡平市「岩手県県民の森」

宮城県みどりの少年団大会開催事業（C-19）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

少年団共通の認識と連携を深め、少年団活動の一層の発展と健全な育成を図るため、第47回（令和4年）宮城県みどりの少年団大会を開催した。

令和元、2年の大会でクロマツやアオダモを植栽した海岸防災林において、森林ボランティア団体の指導を受けながら、記念植樹活動や下草の抜き取りやツル切りなどの保育活動を行ったほか、震災後の自然環境の回復状況や外来植物の侵入状況等の自然観察、ネイチャークラフトなどのレクリエーションに興じた。また、式典では新たに設立した少年団に団旗とスカーフの贈呈が行われた。

2. 活動の成果

コロナ禍の中、行動制限が緩和により施設も利用できたことから、時間をかけて様々な活動を行うことが出来た。参加した少年団のみならず、育成会の保護者や教師の方も含めて、海岸防災林の役割、保育を行い緑を育てていくことの大切さを実感していた。また、年に一度の大会では交流を通して普段会えない団員相互の親睦を図ることが出来たほか、新たに設立した少年団に対して、皆で祝福を分かち合うことが出来たこともあり、大会の実施は有意義であった。震災を知らない年齢の団員が増える中、同海岸において開催し体験することに意義がある。

3. 参加者の声

- ・東日本大震災からの復興のためにも必要な場所で行うことは大切。
- ・児童が大きくなってこの場所に来たときに活動の意義の大きさが分かると良い。
- ・作業体験は丁寧な説明でわかりやすく、たくさんのことを教えてもらった。
- ・自然に触れ合う貴重な体験をして、植物を知る良い機会となった。
- ・普段、交流できない世代の人との交流や普段体験できないことが体験できた。
- ・色々なことが豊富にできて楽しく参加することができた。

実績報告とりまとめ表

実施時期	10月8日	計	備考
事業量	海岸防災林の植樹活動及び保育活動 下刈り作業0.2ha 式典 自然観察 ネイチャークラフト		
参加者数	249人	249人	
実施場所	宮城県東松島市矢本板取地内（大曲浜海岸）・東松島市大曲市民センター		

緑と水のキャンペーン事業（A-33）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

県土の豊かな水と緑を育み、県民の緑に対する関心をなお一層向上させるため、県内各地で緑の募金街頭キャンペーンを実施した。また、みどりの月間である4月15日～5月16日に秋田市の秋田駅東西連絡自由通路へ普及啓発プラントを設置し、緑の募金の普及宣伝を強化させた。

2. 活動の成果

普及宣伝を行うことにより、厳しい状況の中でも緑の大切さを県民に呼びかける良い機会となった。

3. 参加者の声

- ・久々に自然に関わることの出来るイベントに参加できて嬉しいです。

実績報告とりまとめ表

実施時期	令和5年4月22日	令和5年4月15日・30日	令和5年5月19日
事業量	緑の募金街頭キャンペーン 街頭募金 花苗プレゼント 750本 苗木プレゼント 210本 花の種 1,200袋 木製プラント12基設置 (4月15日～5月16日) 材質:木製 寸法:L=120cm W=55cm H=150cm (植栽された花、樹木の高さを含む)	緑の募金 街頭キャンペーン 街頭募金 苗木プレゼント 100本	緑の募金 街頭キャンペーン 街頭募金 苗木プレゼント 200本
実施場所	秋田市秋田駅東西連絡自由通路	五城目町	鹿角市

市民グループ森林づくり事業（A-34）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

森づくりや環境緑化に対する県民参加の促進と緑化思想の普及啓発を図るため、市民グループ等が行う植樹、育樹及び環境緑化活動に助成する。

2. 活動の成果

植樹をすることで地域住民の憩いの場として蘇るとともに、緑豊かな郷土づくりを推進することができる。

3. 参加者の声

- ・地域自然への関心を高める活動を今後も展開したい。
- ・地域の方々や道行く人たちに安らぎや潤いと大きな活力を与えてくれるだろう。
- ・人が集い、市民の結束が深まる場にしていきたい。

実績報告とりまとめ表

実施時期	事業内容	参加者数	実施場所
10月15日	サクラの植樹 (記念植樹)	45人	北秋田市綴子字往還下53 伊勢堂岱遺跡 WG
11月1日	サクラの植樹 (並木の造成)	81人	湯沢市稲庭町下川原地内 令和共生の里プロジェクト
11月4日	サクラの剪定・補植 (並木の育成管理)	20人	横手市十文字町三重ほか2地区 オカメ桜を守る会
11月11日	サクラの植樹 (環境林の造成)	25人	大仙市内小友余日地内 内小友地域森林愛護推進協議会
12月30日	被害木伐採と炭やき (防風林の整備)	205人	秋田市下新城字街道端西地内 炭やきで夕日の松原まもり隊

緑の少年団育成事業（C-19）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

次代を担う児童生徒の組織基盤の強化と地域における少年団活動の一層の活性化を図るため緑の少年団交流集会を毎年開催しているが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止となった。児童生徒の緑化への関心を高めるため、児童生徒が行う植樹活動に対しての助成を拡充させた。また、地域単位の緑の少年団が行う森づくりや森林学習などの活動を支援した。

2. 活動の成果

部活動や学校行事などに様々な制限がある中で、児童生徒にとっても有意義な取り組みとなった。植樹体験や校庭を生徒の手で整備し完成させるなど、将来に繋がる環境教育となった。

3. 参加者の声

- ・自然がゆたかでも綺麗な場所で楽しかったです。体験の学習を通して良い思い出になりました。
- ・もっと自然にふれて、森や林などではゴミを持ち帰ることを心がけたいです。
- ・これからも自然や木々を大切にしていきたい。

実績報告とりまとめ表

実施時期	事業内容	参加者数	実施場所
7月29日	岩手県緑の少年団大会参加交流	8人	MV 東北秋田緑の少年団
7月1日	中庭の花壇づくり	40人	秋田市立勝平中学校
7月1日	花苗プランターの緑化活動	30人	秋田市立河辺中学校
10月24日	樹木の整枝・剪定体験活動	55人	大仙市立中仙中学校
11月8日	学校前庭花壇の緑化活動及び大植学園緑化支援交流活動	127人	大仙市立太田中学校

森林活動指導者支援事業（C-20）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

県民が森林、林業体験活動や森林をフィールドとした保健休養、文化教育等の多様な活動を行う際に支援する指導的人材を育成するため、森林ボランティアを各種研修に派遣した。（新型コロナウイルス感染拡大防止の観点によりリモート開催）
また、森林ボランティア個人登録者620名への情報提供を行った。

2. 活動の成果

各種研修に森林ボランティアを派遣することにより、森林ボランティアの資質の底上げ、向上を図った。また、他県や他団体の取り組みに触れることにより、新たなボランティア活動への刺激となった。

3. 参加者の声

- ・子どもたちが元気に安心して活動出来るよう、今後もお手伝いしていきたい。

山形県緑の少年団連盟交流研修支援事業（A-35）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

緑の少年団が相集い、自然の中で体験活動を通じて、相互の交流や資質の向上を図ることを目的に、交流研修事業を行った。山形県緑の少年団交流研修大会（蔵王坊平サマージャンボリー）は上山市蔵王ライザワールドを会場に開催し、県内11少年団72名が参加した。当日は終日大雨となったことから、予定していたクアオルトウォーキングコースでの森林学習を取りやめ、室内において蔵王アオモリトドマツ林の枯損と再生に向けた取組みについての学習、カイト作りのワークショップを行った。山形県緑の少年団地区交流研修会は、県内4地区4会場で開催し、森林体験や木工クラフトなどを体験した。

- ・村山地区：8/3 蔵王ライザワールド（県大会と併催）
- ・最上地区：9/18 金山町 遊学の森 21名参加
- ・置賜地区：8/9 飯豊町 源流の森 39名参加、10/8 米沢市立三沢東部小学校 89名
- ・庄内地区：10/10 鶴岡市 羽黒山 24名参加

2. 活動の成果

新型コロナウイルス感染症の影響で以前のように他の少年団のメンバーと一緒に班活動ではなく、各団ごとの活動となったが、郷土の自然や歴史を学び、自然の中で活動することで緑と親しみ、緑を愛し、緑を未来につなぐ心を育むことに寄与した。

3. 参加者の声

- ・アオモリトドマツの被害を食い止めるために、自分たちにできることを考えて活動したい。
- ・はしとスプーンを削る加減が難しく大変だった。
- ・羽黒山での活動は、すごく歴史を感じるし、お参りもできて良かった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	8月3日	8～10月	計	備考
事業量	山形県緑の少年団交流研修大会	山形県緑の少年団地区交流研修会		
参加者数	団員72人	団員173人	団員245人	
実施場所	山形県上山市、金山町、鶴岡市、飯豊町			

山形県林業まつり開催事業（A-36）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

【村山地域林業振興協議会】

- ・体験教室を通じた木の良さの普及啓発、地域材のPRを通じた木の良さの啓発（マイ箸づくり教室、西山杉PRコーナーの設置）

【最上地域林業振興協議会】

- ・体験コーナーを通じた木や森の良さの理解の醸成（木質燃料重さあてゲーム）

【置賜林業推進協議会】

- ・体験教室を通じた森や木の良さの普及啓発（木工体験（My Leaf tag）木材キットを活用した体験）

【庄内地方林業振興協議会】

- ・木工クラフト体験を通じた木の良さ森の良さの理解の醸成（木工クラフト体験組子キッドづくり）

2. 活動の成果

- ・【村山ブース】体験教室を通じた木の良さの普及啓発、地域材のPRを通じた木の良さの啓発ができた。
- ・【最上ブース】体験コーナーを通じた木や森の良さの理解の醸成ができた。
- ・【置賜ブース】体験教室を通じた森や木の良さの普及啓発ができた。
- ・【庄内ブース】木工クラフト体験を通じた木の良さ森の良さの理解の醸成ができた。

3. 参加者の声

- ・箸を初めて作った。自分の家でも使っていきたい。
- ・ゲーム形式で木のことを知れて良かった。
- ・木を削るのは難しかったけど、楽しかった。
- ・葉っぱや木材についての説明が面白かった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	10月15日	10月16日	計	備考
事業量	・木工品等の展示 ・体験コーナー		2日間	
参加者数	220人	283人	503人	体験者数 会場来場者数17千人
実施場所	山形県 天童市 県総合運動公園特設駐車場			

庄内森とみどりのフェスティバル開催事業（A-37）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

庄内地域における森林の適正な管理を推進するとともに、再生可能な地域産木材の利用拡大を図るため、地域住民による森林保全活動や木材等林産物と触れ合う機会を提供し、森林・林業の役割やみどり豊かな自然環境の重要性について広く県民にPRすることを目的として開催した。

主な事業内容として、木製品等林産物や特用林産物の展示・販売、参加者が直接木に触れながらその手触りや香りなどを体感できる木工クラフト、木のおもちゃに触れる木育コーナー、その他森林・林業・木材に親しむイベントを実施した。

2. 活動の成果

地域住民が木製品等に直接触れ、その良さを感じる機会を幅広い世代に提供でき、地域産木材及び木製品の認知度向上等による需要拡大や森づくり活動の契機となることが期待できる。また、森林・林業の重要性についても広く周知できた。

今後も同様のフェスティバルを開催し、地域住民による森林保全活動や木材等林産物と触れ合う機会を提供し、森林・林業の役割やみどり豊かな自然環境の重要性について広く県民にPRしていく。

3. 参加者の声

- ・木工体験がとても楽しかった。
- ・木は好きなので続けてほしい。
- ・体験コーナーが沢山あり、触れることができるのはとても良い。
- ・毎回楽しみにしている。木工製品は懐かしさと温かみがあって良い。
- ・木について知れて良かった。次回も来たい。
- ・木工品の技術がすばらしい。
- ・木の香りがとても良かった。
- ・木について知れて良かった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	10月15・16日 (鶴岡会場)	10月30日 (酒田会場)	計	備考
事業量	・木工品などの展示 ・体験コーナー			
参加者数 (内クラフト村等)	29,000人 (297人)	103人 (47人)	29,103人 (344人)	
実施場所	山形県鶴岡市 鶴岡市小真木原公園内（鶴岡会場） 酒田市 酒田鮑海建設総合組合（酒田会場）			

森を育む子ども達養成事業（A-38）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

自然の中での幼児教育によって、自ら行動する力や環境への適応能力が養われることが期待され、森のようちえんへのニーズが高まっている。この動きを受け、山形県緑化センター圃場（樹園地）を活動フィールドとした森のようちえんを立ち上げるため、先進地の視察研修などの職員研修と併せ、樹園地内で安全に活動するための林内整備を行った。

先進地視察は、県内外の6カ所の森のようちえんを視察し、実際の活動を見学しながら運用に向けてのノウハウなどを学んだ。樹園地整備は、地域のボランティア団体の協力を得て下刈などを行い、専門技術が必要な部分は業者委託で行った。

2. 活動の成果

先進地視察では様々なタイプの森のようちえんを視察することにより、幼児との関わり方、施設や活動フィールドの整備状況などを様々な角度から学ぶことができた。

樹園地整備では、地域のボランティア団体と一体となって活動することにより、地域の森に親しみ、触れる体験を提供できたことに加え、交流が生まれ、森のようちえんの認知度向上につながった。

来年度以降もボランティア団体の協力は継続される予定であり、引き続き地域住民と一体となった基盤整備を行う。また、森のようちえんの本格的な運用開始に向け、職員研修、指導者研修も継続して行う。

3. 参加者の声

- ・様々な森のようちえんを視察したことにより、運営方法やフィールドに必要な整備などを学ぶことができ、大変参考になった。
- ・危険木がなくなり、歩きやすくなり、気軽に人が入ることができる林内となった。
- ・森林の中でみんなで汗を流すのは気持ち良かった。
- ・きれいになった森を見ると達成感があり、自分が手入れした森で園児が遊ぶことを考えると嬉しくなる。

実績報告とりまとめ表

実施時期	10月	9月～2月	計	備考
事業量	樹園地での交流			
参加者数	36人	延べ13人	49人	
実施場所	樹園地での交流：山形県山形市 山形県緑化センター 先進地視察：山形県山形市、米沢市 情報収集等 宮城県多賀城市、名取市 栃木県宇都宮市、鹿沼市、市貝町			

緑化普及啓発事業（第31回緑の提言・作文コンクール）（A-39）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

本県は多くの湖沼や温泉資源、すぐれた景観・自然環境に恵まれ、人情味あふれる県民性ともあいまって全国の人々から愛され、親しまれてきました。

緑は本県のかげがえのない財産であり、これを守り育て次の世代に引き継ぐことが私たち県民に課せられた大きな使命です。森林資源をとりまく諸情勢は厳しく、地球的な問題を抱えている現在、「緑の大切さ」「森林と自然の保全」を啓発することが急務となっています。このため、県民の「緑」に対する関心と意識を高めることを目的に、広く県内の児童・生徒から提言と作文を募集し、優れた作品を表彰・発表するものです。

2. 活動の成果

令和4年11月から作品の募集を開始し、令和5年1月13日まで募集を行い、小学校から29点、中学校から138点の計167点の応募がありました。2月16日に福島民友新聞社で実施した審査会で、全部門合わせて38名の入賞者と学校賞5校を選び、翌日17日付けの福島民友本紙で結果を発表、3月中旬までに賞状・副賞を学校宛に発送しました。また、5月4日付「みどりの日特集」で金賞・銀賞入賞作品を掲載し、栄誉をたたえるとともに、自然の大切さ・身近な環境問題意識の啓発をしました。

作品からは、子どもたちが日常生活での自然とのふれあいを通じて、緑豊かな福島への誇りと愛情を持ち、豊かな森林を守るために何をすべきかを真剣に考え具体的に行動しようとしている強い意志が伝わってきました。今後も、福島県の未来をどのように考えていくか、未来を担う小中学生の考え方を同コンクールを通して、紙面で伝えていきたいと考えます。

3. 参加者の声

「作品に対する審査員の感想」

■低学年

身の回りの自然から感じたことが自分なりの表現でのびのびと書かれており、自然が大好きだという素直な気持ちを表現している。

■中学年

自然について考えたことを筋道立てて詳しく述べており、自然と自分との関わりを具体的に述べながら、伝えたいことが明確な作品が多くあった。

■高学年

身の回りの出来事をきっかけに、緑の大切さについて伝えたいことが明確になるように分かりやすく述べられていた。

■中学校

自分なりに調べることでさらに深く考えたことをまとめている作品が多く、緑を守るためにできることについて、個人のことから集団のことまで多面的に見て方法を考えた力強い提言となっていた。

実績報告とりまとめ表

実施時期	令和4年11月1日	令和5年1月13日	令和5年2月16日	備考
事業量	作品募集開始	作品締め切り 作品整理	本審査会	
参加者数		167人	7人	
実施場所	本審査会は、福島民友新聞社で実施（事前審査は、附属小・中で実施）			

普及啓発事業（第47回福島県林業祭）（A-40）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

林業関係者だけでなく林業を知らない世代、これから林業の担い手となる世代等へ森林・林業の役割やその重要性について、広くPRを図り、林業という仕事の魅力について関心を持っていただくことを目的に、令和4年4月に本格開講した林業アカデミーふくしまの研修生の確保に向けたPRも兼ねて、令和4年10月22日に第47回福島県林業祭を開催した。

なお、開催にあたっては、新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から、人数制限・事前申込制とし、イベントや出展ブース等の規模も従来の半分程度に制限し、対象と目的を絞り込んだ開催形態とした。

イベント内容としては、併催行事である林業コンクール等表彰式を開催するとともに、林業アカデミーふくしまのPR、高性能林業機械展示、ドローンやシミュレーターの操作などの豊富な林業体験コーナーの設置や林業のチェーンソー技術を競う「第1回ふくしま伐木チャンピオンシップ2022」のほか、県の取組に関するパネル展示など県政PRや各林業関係団体PR、各種相談、木工体験コーナー、チェーンソーアート、きのこ品評会、森のオークション、木工品、農林産物の展示・販売などのイベントを実施し、県内外問わず、若年層から高齢層まで幅広い年齢層での参加があった。

2. 活動の成果

林業機械の体験や伐木造材技術を競う「第1回ふくしま伐木チャンピオンシップ2022」を開催したことにより、林業という仕事がイメージしやすいプログラムとなり、就業促進に向け効果的にPRを図ることができた。

また、イベントには1,100名の方が来場し、林業の魅力やその重要性が感じられる機会を提供したことで林業に対する意識の醸成、担い手確保の推進につながる。

3. 参加者の声

来場者に実施したアンケートでは「木工体験コーナーや林業機械試乗・ドローン体験が楽しかった。」などの感想が寄せられた。

また、イベント全体を通して、「楽しかった。林業という仕事に興味を持った。今度は知り合いにPRしていきたい」などの声があり、イベントの趣旨に合致するものとなった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	令和4年10月22日	計	備考
事業量	第47回福島県林業祭の開催		
参加者数	1,100人	1,100人	
実施場所	福島県郡山市安積町成田西島坂1 (福島県林業研究センター)		

ファミリー緑の教室の開催事業（A-41）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

【目的】

家族が共通の課題をテーマに、一日一緒に自然に親しみながら地球温暖化防止等の緑の重要性を認識するため、森林・林業体験等を通じて、緑に対する愛護の心情と豊かな郷土を後世に引き継ぐ自覚を促進することを目的とする。

【内容】

休日を利用して家族の参加者を募集し、木工工作キットによる木工クラフト（木工イスづくり体験、木製貯金箱づくり体験）や森林学習を行った。

2. 活動の成果

森林に触れたり、木材を使って何かを作成する機会はあまりなく、家族と一緒に参加することで、普段の生活とは違ったコミュニケーションを図る機会を創出できた。

また、新型コロナウイルス感染症対策のため人数を制限し実施したところもあったため、来年度はより多くの方が参加できるようにしたい。

3. 参加者の声

- ・普段あまり森林について考えることがなかったので、今回森林学習に参加してみて森林の大切さが実感できた。
- ・親子で楽しめるイベントがあまりないので大変ありがたかったです。
- ・子供たちが木の香りが「いい匂い」と喜んでいたので嬉しかった。
- ・子供も大人も楽しめた。

実績報告とりまとめ表

実施時期	令和4年10月2日	令和4年11月27日	令和5年1月15日	計	備考
事業量	木工体験	木工体験 森林学習	木工体験		
参加者数	80人	25人	37人	142人	
実施場所	いわき市	南相馬市	伊達郡国見町		

ふくしま緑の醸成事業（A-42）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

「緑の募金」における新型コロナウイルスの影響低減に向け、令和2年度より運用を開始したキャッシュレス決済によるカード利用者等へ、領収書発行時に「ふくしま緑の写真コンクール」優秀作品のポストカードを作製配布し、緑の醸成の拡大を図るものです。

2. 活動の成果

「第37回ふくしま緑の写真コンクール（令和4年度）」の特選1点、金賞5点、銀賞6点、計12枚のポストカードを作製しました。パッケージデザインは2種類用意し、ポストカードには、ラベンダーの香りや緑の募金キャッシュレス決済のQRコードをつけました。

作製したポストカードは、キャッシュレス決済による緑の募金寄付協力者へ領収書と併せて配布しました。

また、会議開催時や、企業等へも配布し、緑の醸成の拡大を図るためPRを行いました。

ポストカードのデザインは、写真コンクールの入賞作品を使用していることから、福島県内の美しい緑の風景や自然の力強さを感じさせる作品が多く、ポストカードの配布をとおして、県内の緑への親しみやすさが再認識されるとともに、ポストカードの性格上その波及効果が期待される。

3. 参加者の声

写真コンクールの写真を使用しているため、綺麗な写真だと言う意見が多かった。

またラベンダーの香りも好評であった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	令和4年11月～令和5年3月	計	備考
事業量	ポストカード700組		
参加者数	—	—	
実施場所	福島県全域		

都市と農村の交流事業（第35回ふくしま緑の百景歩こう会）（C-21）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

昭和60年に「国際森林年」を記念して、福島県内の緑の景勝地100箇所を選ぶ「ふくしま緑の百景」選定事業を実施。その記念事業として実施している。

緑あふれるコースを歩き、自然と緑の大切さを再認識し、環境保全に対する意識の高揚を目的に、毎年開催しております。緑化の推進と参加者の健康増進と開催自治体の活性化を図るために歩こう会という形をとっております。

今回は福島県の県中地方に位置する小野町で開催しました。小野町のふくしま緑の百景の選定地「東堂山のスギ」を中心とした特設コース 全行程約15^{km}及びファミリーコース7.5^{km}を設定しました。

『東堂山のスギ』や町の名所『リカちゃんキャッスル』など歴史と文化の町並みとともに豊かな自然を満喫していただきながら、途中3箇所のチェックポイントを回りました。

ゴール後は、ヤマツツジ、サザンカ、ブルーベリー、クチナシ、ローリエの5種類の苗木から1つを参加者に配布しました。

その他、冷やし甘酒のふるまいや、くんせいたまごやクッキーなど、小野町の産品を配布しました。

参加料は無料とし、参加者には任意で募金を呼びかけました。

集まった浄財は福島民報教育福祉事業団を通じ、小野町の緑化推進委員会に寄付しました。

イベントの開催告知や実施記事は「ふくしま緑の百景歩こう会」の大会ポスター、チラシや地元で一番の発行部数をもつ県民紙である福島民報紙面など媒体を通じて福島県内全域に展開しました。

2. 活動の成果

小野町の歴史と文化の町並みとともに豊かな自然を満喫しながら、途中3箇所のチェックポイントを回り、町の魅力を再発見していただきました。

今回は緑の百景の選定地『東堂山のスギ』を巡るコースでしたが、その東堂山手前の坂道の勾配がかなりきつく、また26℃と9月下旬にしては気温も高かったこともあり、参加者、特にウォーキング初心者には少しハードなコース設定だったかと思えます。当日は天候にも巡まれ、大きな怪我人もなく、無事実施することができました。

今後も緑の百景の選定地を巡りながら、安全で安心なウォーキング大会を継続できるよう努めます。

また、多くの方の善意により、緑の募金は7万5184円集まりました。浄財は小野町緑化推進委員会へ寄付されます。

3. 参加者の声

- ・東堂山手前の激坂が大変だった。久しぶりに歩きがいのあるコースだった。また次回も参加したい。
- ・チェックポイントでの麦茶のふるまいや、町の方の対応が好印象だった。
- ・小野町がヤマツツジで有名なことを知らなかった。
- ・東堂山満福寺の五百羅漢は圧巻で見ごたえがあった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	令和5年9月24日	備考
事業名	第35回ふくしま緑の百景歩こう会	
参加者数	約500人	
実施場所	福島県小野町	

グリーンフェスティバル開催事業（A-45）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

適正な森林管理の重要性や、利用期を迎えた人工林を有効に活用することが森林の整備にもつながることなど、広く県民に森林や木材利用の大切さについて理解と関心を深めるため「グリーンフェスティバル2022」を開催した。

2. 活動の成果

多数の林業関係団体等が木工工作や重機の模擬運転、展示等を行い、広く県民に森林や木材利用の大切さについて理解と関心を深めてもらった。

3. 参加者の声

苗木無償配布で頂いた樹木を植えることで、緑化につながれば良い。

子どもたちに、木材に触れ森林を守る心を育てるきっかけになれば良いと思い参加し有意義な体験ができた。

実績報告とりまとめ表

実施時期	11月23日		計	備考
事業量 又は 事業内容	・森林・林業体験 ・研究・普及成果のパネル展示 ・緑の募金運動ほか			
参加者数	県内	約3,000人	約3,000人	
	県外	人		
	計	約3,000人		
実施場所	茨城県那珂市（茨城県林業技術センター）			

森林ボランティア育成事業（C-22）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

森林ボランティア団体のスキルアップを図るため、公募により指導者養成講座等を開催し、ボランティア活動の意義と技術の習得を目的に、指導者の育成・確保の学習及び交流を行った。

2. 活動の成果

他団体の活動情報の交換を通じ、今後の活動に生かせることができ、参加ボランティア団体のスキルアップと活動意識の高揚が図れた。

3. 参加者の声

他団体の活動情報や、器具の整備技術、作業計画等、情報交換ができ有意義な事業だった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	3月19日		計	備考
事業量 又は 事業内容	除伐、間伐、植樹、記念植樹			
参加者数	県内	35人	35人	
	県外	1人		
	計	35人		
実施場所	茨城県水戸市（水戸市森林公園）			

山村地域づくり活動助成事業（C-23）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

山村地域の活性化を図るため、地域づくりを実践する森林整備グループ（団体）活動に対して支援を行うことを目的として、公募により助成金を交付する。

2. 活動の成果

県内一円の森林整備を行う団体等に助成金を交付した。また助成金支援は、活動が定着する5年程度を目途に継続支援し、新たな地域・新たなグループ（団体）の掘り起こしを重点とし助成を決定した。

3. 参加者の声

活動を通じて地元の自然環境の理解と自然環境部員の情報交流を図ることができ、他地域のグループ結成の動機づけにつながった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	10月～3月	計	備考
事業量 又は 事業内容	森林整備等の活動を行う団体へ助成金交付		公募
参加者数	県内	14団体	人
	県外 計	14団体	人
実施場所	茨城県内一円		

緑化樹木等苗木無償配布事業（C-24）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

県民の緑化意識を向上するため、市町村が開催するイベント等の参加者に対し苗木や花苗等の無償配布を実施して、緑化思想の普及啓発を行った。

2. 活動の成果

無償配布したことにより、各家庭、地域の緑化意識の啓発、高揚を図ることができた。また、無料では申し訳ないと、緑の募金に協力的になった。

3. 参加者の声

住居が賃貸マンション、アパートで、木を植える場所（庭）が無いので、無償であっても要らない。
反対に、「実のなる苗木はとてもうれしい」「子供と一緒に大切に育てます」というご意見を聞いた。

実績報告とりまとめ表

実施時期	4月～3月	計	備考
事業量 又は 事業内容	苗木等の無償配布及び緑の募金運動		
参加者数	県内	約600人	約600人
	県外 計	約40人 約640人	約40人 約640人
実施場所	茨城県内一円		

森林・緑・水に対する国民の認識を深めるための普及啓発事業（A-46）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

みどり豊かな環境を次の世代へ引継いでいくため、幅広い緑化運動を実施し、秋や春の緑化期間中に、県内33会場において苗木の配布会を行った。

また、苗木配布会で、緑化のPRのため任命したマロニエメイツも参加し、知事の県土緑化メッセージ伝達や幟旗を配置し、参加者への緑化の一層の推進を図った。

なお、当機構の情報・活動内容を掲載した、広報誌「業務報告」を発行し、県内関係機関に配布するとともに、緑化PRのCMを県域ラジオ・テレビで放送して緑化の推進を図った。さらに、国土緑化推進機構作成の国土緑化運動ポスターを、学校や関係機関に配布し、緑化の重要性についての普及啓発を行った。

2. 活動の成果

マロニエメイツの参加による苗木配布会はPR効果が高く、また、緑の月間のテレビ・ラジオのCM放映などで、県土緑化の推進及び県民の緑化意識の醸成に資した。

苗木配布会場においては、マロニエメイツによる緑の募金の声掛けや募金箱設置、チラシの配布等で募金活動を実施し、多くの県民の方々が緑化募金に協力した。

なお、当機構の広報誌「業務報告」には、機構の組織・事業内容、事業実施結果等を掲載し、当機構の事業や緑の募金についてご理解をいただいた。

今後より一層緑化の推進に努めていきたい。

3. 参加者の声

- ①苗木配布会を毎年楽しみにしています。
- ②大切に育てます。いろいろな苗木で引き続き実施してほしい。
- ③花もきれいで、実がなるのを毎年楽しみに参加しています。

実績報告とりまとめ表

実施時期	9月1日～3月30日	4月1日～6月30日	計	備考
事業量	苗木 5,955本 ポスター配布 1,030枚 県域ラジオ放送 28回	広報誌配布 600冊 テレビCM 10回		
参加者数	6,000人 放送回数計 28回	550人 放送回数計 10回	6,550人 放送回数計 38回	
実施場所	苗木配布会:栃木県内33会場 ポスター:各学校・各市町等広報誌配布:会員、各市町、関係機関等			

青少年の教育の場としての森林の活用促進事業（C-25）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

目的：木工工作体験や自然観察会で木と自然に親しむ中で、子ども達に自然や森林環境に興味、関心をもってもらい、森林や樹木が果たす役割についての学びにつなげる。

内容：令和4年10月8日（土）、とちぎわんぱく公園（壬生町）にて、来訪者（高校生以下とその保護者）に、木工工作体験（栃木県産材木製フタ付き小物入れ製作）と自然観察会（公園内自然林をグリーンアドバイザーの説明を聞きながら観察）への参加を呼びかけ、86名の参加を得た。

森林環境教育資料をパネル展示及び配付し、治山や森林の機能についての普及啓発に努めた。

あわせて、クビアカツヤカミキリ等による樹木の被害について説明し、被害発見通報が自然保護につながることを広報した。

2. 活動の成果

カーボンニュートラルを進める中で森林環境が果たす役割を、自然観察や木工工作体験をとおして身近なことから捉える機会をつくられた。

コロナ禍のため、思うような実施手法とはならなかったが、参加者の理解も得ながら安全安心に開催できた。

今後、様々な状況下での実施を想定した柔軟な対応ができるよう事業を検討する必要性を感じた。

3. 参加者の声

- ・家庭では、なかなか木に触れる体験の機会がないので、よい経験となった。
- ・木の香りを感じられてよかった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	10月8日	計	備考
参加者数	86人	86人	
実施場所	栃木県 下都賀郡 壬生町		

「木育」活動促進事業（A-48）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

群馬県植樹祭の開催に合わせて、将来を担う子どもたちに森林の大切さや木材利用の有用性を普及啓発するため、開催地の幼稚園、保育園、こども園等に「木育」教材を提供し、「木育」活動を促進する。

2. 活動の成果

利根沼田森林組合の協力を得て、「木に触れる」「木で作る」「木で遊ぶ」をテーマとした「木育」セットを提供し、「木育」活動をとおして子どもたちに木材の良さを体感してもらうとともに、保護者にも木材利用の大切さを普及啓発した。

- ①中之条町中之条幼稚園【園児数35人】
- ②中之条町沢田幼稚園【園児数12人】
- ③中之条町中之条保育所【園児数123人】
- ④中之条町伊勢町保育所【園児数139人】
- ⑤中之条町六合こども園【園児数10人】

3. 参加者の声

- ・子どもたちが目を輝かせて遊んでいます。（保育士）
- ・木に触れる体験や遊びをとおして幼児の感性や想像力を豊にしたい。（園長）
- ・1歳児から5歳児まで幅広い年齢に木の玩具は好まれています。（保育士）

実績報告とりまとめ表

実施時期	令和5年6月30日	計	備考
事業量	木育セット 9セット		
参加人数	319人		
実施場所	吾妻郡中之条町大字伊勢町1005-1ほか4箇所		

巨樹・古木巡りツアー事業（A-49）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

県内各地に点在する巨樹・古木の現状と治療状況を樹木医の解説を交えながら観察し、保全の必要性や重要性等の認識と理解を深め、緑化思想の高揚と啓発を行う事を目的として、毎年年2回春、秋に県内4コースにわかれて巡る日帰りバスツアー。

2. 活動の成果

新型コロナウイルスの感染拡大のため、今回も参加人数を20名で実施した。

県内各地の代表的な巨樹・古木を樹木医の解説を交えながら観察し、直接木々に触れ、歴史を学び、自然を思いやる心、森林の重要性を伝えることが出来た。

毎回抽選するほどで、4月8日実施の応募状況は、定員80名のところ233名の応募があり、吾妻コースが75名と一番人気であった。

一度参加された方は、4コース巡りたいと、毎回楽しみにしている。

3. 参加者の声

- ・発知のヒガンザクラが満開でお花見も出来、リフレッシュ出来た。
- ・ずっと行きたかった野の大クスが今回コースに含まれていて実際に見て触れて感動しました。
- ・樹木医の先生の面白い解説に満足です。

実績報告とりまとめ表

実施時期	11月5日	4月8日	計	備考
事業量	巨樹・古木巡りツアー	巨樹・古木巡りツアー		
参加者数	78人	82人	160人	
実施場所	群馬県一円			

緑の少年団活動活性化事業（A-50）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

本県の緑の少年団は県内すべての小学校等に結団され約5万3千人の団員が活動しており、全国的にも有数の規模を誇っている。しかしながら、全少年団を対象として交流集会の開催等が困難であることから、意欲ある少年団の活動を支援し、その少年団の模範的活動を冊子等で紹介することとした。

県内各少年団に対して、緑の少年団として、森林の役割や森林との関わり方を考えるきっかけとなるよう働きかけ、また指導する小学校教員に対し森林環境学習の重要性を認識してもらい、今後の少年団活動の活性化に資することを目的とし、自然観察会やツリーイングなどを実際に森林に入って体験する「夏の森林教室」を開催するほか、各緑の少年団の活動内容を紹介する冊子「緑の少年団活動の記録」を作成した。

2. 活動の成果

自然観察会、ネイチャーゲーム、ツリーイングなど実際に森林に入って体験することによって、子供たちの森林や林業、環境問題等に関する理解を深めることができた。活動事例冊子の配布は、他団の特色ある活動や優れた活動を知ることによって、緑の少年団活動がより一層活発化することが期待される。

3. 参加者の声

- ・自然観察は、少し不安でした。私は虫が苦手だからです。しかし、森や虫の大切さを知り、最後にはカブトムシを持つこともできました。私達の生活が、苦手な虫に支えられていると思うと、すぐに、「いやだ、きもちわるい！」と言っていたのがはずかしいです。これからは自然を大切にするように、こころがけたいです。
- ・ツリーイングがとても楽しかったです。のぼるのが少し難しかったけれど木と同じくらいの高さをのぼれたことが達成感を感じました。
- ・森というのは、水害から私たちを守ってくれる存在、虫や動物の住み家ですごく大切だということがわかりました。

実績報告とりまとめ表

実施時期	7月21日	月日		計		備考	
事業量	夏の森林教室	緑の少年団活動の記録					
参加人数	26人	県内全313団ほかに配布		41人		参加児童・教員26人 ほかスタッフ15人	
実施場所	群馬県前橋市「サンデンフォレスト」						

さいたま森林フォトコンテスト事業（A-51）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

森林と緑と水の豊かさを再認識すると同時に、林業及び環境保全への理解を深めてもらうため、県内の森林と緑の再発見を目的に、第32回さいたま森林フォトコンテストを開催した。

作品テーマは「森林や緑などの自然風景、またそれらと人間との結びつきを感じさせるもの、または林業への理解を深めるもの。」として募集した。

2. 活動の成果

応募期間は令和5年3月から令和5年5月15日までとして実施し、応募作品は415点であった。同年5月に審査会を行い、特選（知事賞）1点、準特選（緑化推進委員会賞、埼玉新聞社賞）2点、優秀賞（埼玉りそな銀行賞、埼玉県治山林道協会賞、ガイドードリンコ賞、日本製紙賞、AGS賞）5点、佳作12点を選定し、6月20日に表彰式を行った。

表彰式会場での展示のほか、今後埼玉県庁で展示を行う予定である。また、6月18日の埼玉新聞紙上で全入選作品が紹介された。

3. 参加者の声

審査総評：

今年の応募点数415点と昨年の応募点数を少し上回った。新型コロナウイルス感染症の制限解除の動きが始まる中、わずかではあるが応募点数が増えるという嬉しい結果になった。

今年の作品傾向は、昨年とは違ってかわって、森に関わるようなイベントなどに参加した市民や自然を楽しむ人びとを写し込んだ作品が多く見られた。全体的には、参加作品の質的内容が高く、選ぶのが難しいほどであった。しかしながら、本コンテストの重要なテーマの一つである森づくりや森林の維持、管理などに関わる内容の作品投稿が減少していることから、次回以降の応募増に期待したい。

実績報告とりまとめ表

実施時期	3月6日～5月15日	5月16日	6月20日	備考
事業量	作品募集	審査会	授賞式・展示	
参加者数	415人	15人	40人	
実施場所	埼玉県内			

緑化普及啓発事業（A-53）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

県民に対し緑化活動への参加促進を図るため、森林ボランティア団体の活動を情報提供した。

活動情報は、8月から6月の地元新聞に森林イベント情報を掲載し、森林ボランティア活動への参加を呼びかけた。

また、緑の募金について協力の呼びかけを行った。

2. 活動の成果

新聞の情報を見て、毎月問い合わせがあり、新たに森林ボランティア活動に参加する方が増えた。

3. 参加者の声

- ・県内の森林ボランティア活動に興味があり、新聞をきっかけに活動に参加した。
- ・緑の募金が緑化など色々な取り組みをしていることがわかった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	R48～R56	計	備考
事業量	1月を除き、毎月1日にイベント情報掲載		
参加者数			
実施場所	埼玉県		

「森林分野×SDGs」パートナーシップの構築、普及啓発事業（A-54）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

森林の整備や活用を通じた、SDGsの達成やカーボンニュートラルの実現に向けた取り組みを推進するため、森林をフィールドに活動する多様な主体が共通の活動や課題に連携して取り組むことを目的に、パートナーシップによる連携協働を促進するプラットフォーム構築した。

また、このプラットフォームが「森林分野×SDGs」に関心を寄せる企業・団体その他からの相談窓口としての機能や課題解決に向けたコーディネート等を担うこととした。これらは、同時に作成したwebページでの情報発信（<https://c-green.or.jp/>内にて発信）や、パンフレット作成、配布により、現在、広く周知を図っている。

2. 活動の成果

このプラットフォームは「ちば里山イノベーションハブ（通称:CSI）」として、県緑化推進委員会を含む、県内の中間支援NPO（ちば里山センター、千葉県インストラクター会、樹の生命を守る会（樹木医）、自然観察指導員協議会、千葉県冒険遊び場ネットワーク）の賛同を得て、構築することが出来た。結果ここに集約される人材ネットワーク、フィールドネットワーク、行政とのネットワークを十分に活かした、効果的かつ円滑な支援が可能になったことにより、地域の課題解決や、「森林分野×SDGs」への取組み（参入）を具現化し、継続した取り組みとなることに期待される。

3. 参加者の声

行政、里山活動団体、教育関係者、学生団体等から、既に関心を寄せる声が届いている。

実績報告とりまとめ表

実施時期	R4.7月1日～R5.6月30日	R4.7月1日～R5.6月30日	計	備考
事業量	プラットフォーム構築一式	Webページ、パンフレット制作一式		
参加者数	6団体	人	6団体	
実施場所	県内			

一宮町東浪見・海岸保安林再生植樹事業（A-54-1）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

2020東京オリンピックサーフィン競技会場跡地での海岸防災林の再生（植樹）を、サーフィン関係者や小中学生を含む地元住民や、森林ボランティア、環境関係団体などが幅広く連携して行うことで、東浪見というメモリアルな場所から、海と森林の関連性を広く発信する。抵抗性クロマツ、マサキ、トベラの植樹を行い、環境関係団体等による森林環境教育に関するワークショップも併せて実施した。

2. 活動の成果

地域の環境は、地元住民自らの手で守り育てるという意識の醸成に繋がると共に、サーフィン関係者などこれまでに接点の少なかった分野の方々の参加によって、新たな森づくりの展開が期待される。また、多様な参加者が連携したこの森づくりの手法は、その地域力として様々な課題解決へと波及することが期待される。

3. 参加者の声

サーファーにとって海岸保安林は海と一体的な重要なもの。こうした活動にもっと参加し、盛り上げ、千葉から、一宮から、情報発信していけたらと感じた。（地元サーファー）

この取り組みをきっかけに、異分野の者が協働し地域の環境を考える活動を継続していきたいと思った。（環境関係団体）

実績報告とりまとめ表

実施時期	9月21日、23日	10月2日	計	備考
事業量	植樹位置出しほか植栽会場整備（事前準備）一式	抵抗性クロマツ他735本の植樹等		
参加者数	18人	300人	318人	
実施場所	千葉県長生郡一宮町東浪見「海岸県有保安林」			

ふるさとの杜活力調査事業（B-01）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

都内には小さな公園や寺社など、多くの「杜」が点在する。これらは、市街地における美観風致の維持に加え、地域住民の憩いの場や災害時の避難場所としても、古くから重要な役割を果たしてきた。

こうした公共的評価の高い「杜」のうち、区市町村が指定する保存樹や保存林などを中心とした樹林を対象に、樹勢診断と健全度評価等を実施し、その成果を樹林の整備に還元した。また、本事業を通じて過去に調査を行った「杜」についても、その後の保全や活用の状況を追跡調査して再評価し、地域の取組みの中で「杜」を有効に活用する方策等をまとめた。

2. 活動の成果

今回は、計4か所で調査を実施し、それぞれの報告書を作成した。

杜の活力調査では、三井の森公園（杉並区）、北野公園（三鷹市）にて、樹木や植生の現況、活力度等の調査・評価を行い、今後の管理方法について提言等を行った。

継続調査では、おとめ山公園（新宿区）にて、ナラ枯れ被害の調査を継続し、より効果的な防除法や樹林の更新方法について提言等を行った。

追跡調査では、コゲラの森（小平市）の樹木・植生について、前回調査後の変化等を再調査し、持続可能な「杜」として管理するための提言等を行った。

上記4箇所の「杜」における樹木の腐朽や枯損等の問題点と課題を明らかにし、具体的な対策を提言としてまとめ、地元自治体へ還元した。今後、利用しやすい「杜」の環境整備と安全確保がいっそう進み、景観の維持や生物多様性の保全等が図られることが期待でき、都市緑化の推進に寄与した。

実績報告とりまとめ表

実施時期	令和4年8月1日～令和5年2月28日	
事業量・参加者数	<ul style="list-style-type: none"> ・樹勢調査、樹木点検: 4ヶ所45人 ・報告書作成: 4ヶ所18人 	延63人
実施場所	<ul style="list-style-type: none"> ・活力調査: 三井の森公園（杉並区）、北野公園（三鷹市） ・継続調査: おとめ山公園（新宿区） ・追跡調査: コゲラの森（小平市） 	

卒寿の森づくり事業（A-55）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

22世紀の県民に緑の遺産を贈る木を植える県民運動を広く普及啓発するため、県民一人ひとりが吐き出す二酸化炭素を自らの植樹活動によって相殺させることを目的とする、県民運動を象徴する森づくりを実施する。

2. 活動の成果

水害で荒廃した三条市大谷ダム周辺で、卒寿の森づくり実行委員会を立ち上げ、参加者を募り、ブナを植樹した。活動については会報誌やラジオ、新聞等を通して周知した。

3. 参加者の声

- ・来年もまた植樹したい。大きく育ったブナの木を大人になったら見てみたい。たくさん木を植えて環境が良くなってほしい。（地元小学校4年生）

実績報告とりまとめ表

実施時期	R4年7月～R4年10月	計	備考
事業量	植樹ブナ100本		
参加者数	100人		
実施場所	新潟県三条市		

「にいがた緑の百年物語」普及啓発事業（秋期）（A-56）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

地球温暖化防止や持続的可能な社会の実現に向け、当委員会では、21世紀の百年をかけて県民みんなで木を植え、緑を守り育てる『にいがた「緑」の百年物語一木を植える県民運動』を展開している。この運動への県民の一層の参加促進を図るとともに、「国民参加の森林づくり」の具体的な行動を喚起するため、YouTube放送周知、森づくり活動情報パンフレット、会報誌の作成を行った。

2. 活動の成果

ふるさとの環境について理解を促進するため、YouTubeで「当委員会の活動」を発信し、県民一人ひとりが身近な森林について考え、保護し活動を促し発信内容を通して、新潟の森林について考え、森林への理解を深めること、「緑の募金」協力を広く県民に呼びかけることができた。

また、にいがた「緑」の百年物語県民運動及び国民参加の森づくりへの一層の参加の促進を図るには森づくりや緑化の活動情報を県民に提供する必要がある。会報誌では、植樹した樹木の成長した姿、森からの恵み、活動するボランティア団体の紹介等を広く周知することができた。

そのほか県内で実施される森づくりの活動情報が記載されたパンフレット（秋期版）等を作成して広く県民に配布し、ホームページにも掲載したことで、活動の参加促進を図ることができた。

どちらも新潟においては着実に浸透してきており、今後も広報活動を春期と秋期の2回に分けて継続していく。

3. 参加者の声

- ・YouTubeを見て緑百年の活動がよくわかった。「緑の募金」に協力しようと思った。
- ・自分たちだけで広報をするには限界があるので、パンフレット等での広告はととてもありがたい。

実績報告とりまとめ表

実施時期	7月～12月	7月～9月	7月～9月	7月～9月	備考
事業量	YouTube 放送周知	パンフレット	会報誌	募金チラシ	
参加者数	人	人	人	人	
実施場所	新潟県全域				

「にいがた緑の百年物語」普及啓発事業（春期）（A-57）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

地球温暖化防止や持続的可能な社会の実現に向け、当委員会では、21世紀の百年をかけて県民みんなで木を植え、緑を守り育てる『にいがた「緑」の百年物語一木を植える県民運動』を展開している。この運動への県民の一層の参加促進を図るとともに、「国民参加の森林づくり」の具体的な行動を喚起するため、会報誌、事務局だより、森づくり活動情報パンフレットの作成を行った。

2. 活動の成果

にいがた「緑」の百年物語県民運動及び国民参加の森づくりへの一層の参加の促進を図るには森づくりや緑化の活動情報を県民に提供する必要がある。会報誌では、植樹した樹木の成長した姿、森からの恵み、活動するボランティア団体の紹介等を広く周知することができた。

また、事務局だよりでは、当委員会の運営を深く理解し、「緑の募金」を促すため、当年度の事業計画のほか、国土緑化運動・育樹運動のポスターや標語の入賞作品、褒賞の受賞者を広く周知することができた。

そのほか県内で実施される森づくりの活動1青報が記載されたパンフレット（春期版）を作成し、広く県民に配布することにより、活動の参加促進を図ることができた。

会報誌と活動情報パンフレットにおいては着実に浸透してきており、今後も春期と秋期の2回に分けて継続していく。

3. 参加者の声

- ・自分たちだけで広報をするには限界があるので、パンフレット等で活動等の県民への周知はとてもありがたい。
- ・イベント情報の掲載期間の範囲が広まったため、年間を通した活動が周知できるようになって良かった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	2月～4月	4月～5月	2月～4月	計	備考
事業量	会報誌	事務局だより	パンフレット		
参加者数	人	人	人	人	
実施場所	新潟県全域				

スガ池周辺整備設計・植生調査委託事業（A-58）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

上越市くわどり市民の森内のスガ池の吐出口が壊れていることから、新たにオリフェスを設置するための、設計積算を行い、同時に、スガ池を湛水させた前後の植生調査を実施する。

委託する内容は、①スガ池湛水計画（吐しゃばき排水計画を含む）、②排水構造（吐しゃばき、閉塞物排除）設計、③付帯構造物積算、④現状植生調査と湛水後の想定遷移植生予測、とする。

この業務を通じて、森づくりを促進し、県民の一層の参加促進を図るとともに、「国民参加の森林づくり」の具体的な行動を喚起し、身近な森づくりの推進を図る。

2. 活動の成果

日本曹達グループの森づくりを促進するため、ネックとなっている排水施設の設計積算し、オリフィスを設置した。併せてスガ池湛水予定地内の植生調査を現況と湛水化工事後2回実施した。

3. 参加者の声

- ・スガ池を中心とした豊かな森林を再生させる第一歩となった。
- ・簡易な環境影響評価を実施したところ、希少性の動植物が存在しないことが判明し、安心して森林整備に取り組める。

実績報告とりまとめ表

実施時期	R4年7月～R4年12月	計	備考
事業量	スガ池湛水化計画		
参加者数	人	人	
実施場所	新潟県全域		

森林・木材等普及啓発事業（A-59）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

①木工教室の開催

令和4年10月30日、富山駅南北自由通路・富山駅南口駅前広場において「とやま木育フェア 2022」を開催し、木工教室（小枝のキーホルダー、バードコール、My竹箸、フォトフレームづくり）や「木と遊ぶ木育広場」「丸太切り大会」を通じ、木のもつ柔らかさや温かさ、加工の容易さなど木の特徴を伝えることができた。

②緑に親しむ集い

令和5年5月4日（みどりの日）、県民公園頼成の森において「緑に親しむ集い」を開催し、シイタケの植菌体験（150本）、管理方法や森からの恩恵について普及啓発を行った。

③花とみどりの少年団支援

森林環境教育を促進するため少年団33団に運営費を助成した。

④森林・緑普及広報

ホームページで事業活動を紹介し、県民に森林・緑の大切さを普及啓発した。また、学校への苗木配布や各種コンクールの募集、審査や表彰を行い、県民の緑化思想の醸成を図った。

2. 活動の成果

木工教室やシイタケの植菌体験を通して、森の恵みの活用や作る楽しさ、木のもつ柔らかさや温かさを知ってもらえた。

森林環境教育や苗木の植樹を通して、未来を担う青少年に森林のはたらきについて理解を深める機会となった。

ホームページで情報を発信することにより、身近な森林や緑化に関する事業やイベントへの参加や理解に繋げることができた。

3. 参加者の声

（木工教室）ドングリや松ぼっくりを飾り、オリジナルのフォトフレームが完成し、とても嬉しい。

（シイタケ植菌体験）どのように大きくなるのか収穫が楽しみ。

（花とみどりの少年団支援）森や森林のはたらきについて理解を深めることが出来た。

実績報告とりまとめ表

実施時期	2022/10/30	2023/5/4	通年	計
事業量	木工教室の開催 （とやま木育フェア2022）	緑に親しむ集い	花とみどりの少年団支援	
参加者数	220人	64人	33団	284人/33団
実施場所	富山県富山市	富山県砺波市	富山県内一円	

花とみどりの少年団活動支援事業（A-59-1）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

次代を担う子供たちが「緑と親しみ、緑を愛し、緑を守り育てる」活動を通じて、「ふるさとを愛し、そして人を愛する」心豊かな人間に育っていく一助となるよう、県内の各少年団のうち小学校5年生を対象に、副読本を配布し、希望少年団へ講師の派遣をした。

また、少年団活動をDVDにまとめ、配布した。

2. 活動の成果

新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、少年団が一堂に会する学習を中止とし、各少年団単位で、副読本「森林と気候変動（キッズ版）」を配布し、希望少年団へ講師の派遣（2団2校、3回、59人）をした。森林のはたらきや森林の大切さについて、一定の理解を深めることはできたと思うが、次年度は、森林の中でしか体験できない感動、他少年団との交流を通して学ぶ仲間意識やふるさとを思う心を大切に、学習の内容を考えていきたい。

3. 参加者の声

講師の先生の話聞いてわかったこと

①森林があると、SDGsに貢献できることがわかった。

②森林は手入れを必要としていることがわかった。

③森林があることで、私たちの生活が潤いや安らぎのあるものになるとわかった。

実績報告とりまとめ表

①副読本「森林と気候変動（キッズ版）」の配布

実施時期	8月26日	計
事業量	副読本「森林と気候変動（キッズ版）」の配布	
参加者数	1,197人	1,197人
実施場所	県内の小学5年生の団員及び指導者、その他関係者39校	

②講師派遣

実施時期	9月15日	9月29日	10月20日	計
事業量	講師派遣			
参加者数	23人	23人	13人	59人
実施場所	氷見市立 湖南小	氷見市立 湖南小	南砺市立 福光南部小	

緑化思想の普及啓発事業（A-60）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

幅広い県民の緑化意識の高揚を図るため、緑化運動・育樹運動ポスター原画コンクールの県審査における入選作品の表彰を行った。また、「県民みどりの祭典」やショッピングモール等において、入選作品の掲示を行った。

2. 活動の成果

表彰により応募者のインセンティブが高まるとともに、緑化ポスターに対する関係者の関心が高まった。

また、イベントやショッピングモール等における作品の掲示を通して、広く県民の皆さんに対する緑化思想の普及啓発に役立った。

3. 参加者の声

- ・森や緑の大切さについて、子供たちの視点で絵に表現されている。
- ・表彰や作品展示は、児童・生徒のインセンティブの向上になる。
- ・作品を鑑賞して、子供たちの自然に対する想いの一部が伝わってきた。

実績報告とりまとめ表

実施時期	令和5年4月～5月	計	備考
事業量	緑化運動・育樹運動ポスター原画コンクール優秀作品 ・県民みどりの祭典:掲示、表彰 ・ショッピングモール等:4ヶ所掲示		
参加者数	1,000人	1,000人	
実施場所	河北郡津幡町ほか4市町		

県内産緑化苗木無償配布事業（C-27）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

幅広い県民の緑化意識の高揚を図るため、緑の募金や緑化の普及啓発活動とセットで県内産緑化苗木の無償配布を実施した。特に、県民みどりの祭典ではミス日本みどりの大使「上村さや香」さんに来場いただき緑化普及啓発運動の機運を高めた。

2. 活動の成果

緑化苗木の無償配布を通じて、広く緑の募金運動や緑化の大切さに対する意識の高揚が図られ、新たに募金に協力する動機付けにつながった。

また、県内における緑化苗木生産部門の振興に寄与した。

3. 参加者の声

- ・森や緑の大切さについて、改めて感謝したい。
- ・今後、緑を守り育てるための協力をしていきたい。
- ・無償配布で頂いた緑化苗木は大切に育てていきたい。

実績報告とりまとめ表

実施時期	令和5年4月	令和5年4月	計	備考
事業量	200本	400本	600本	
参加者数	200人	2,000人	2,200人	
実施場所	金沢市	河北郡津幡町		

森づくりボランティア・キャンペーン事業（C-28）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

森林に対する国民の期待が多様化、高度化する中、国民参加の森づくり運動推進の中核的役割を担う森づくりボランティアのリーダー養成を目的に、県内各地で森づくりボランティア・キャンペーンを展開し、活動基盤の整備及び森林ボランティアリーダーの養成、資質の向上を図った。

ボランティアについては、一般県民を対象に広く募集し、地元の住民との交流、連携に努めながら、各フィールドの森林の現況に応じて、植栽、下刈、施肥、除間伐、歩道開設、竹林伐採等の作業を実施した。

また、現地での作業のほか、セミナー形式で森づくりに関する基礎的知識や、安全のポイント、森林整備の道具・機械類の扱い等の研修を開催し、人材の育成に努めた。

2. 活動の成果

各フィールドの整備が促進されたことに加え、計画的に県内の森づくりボランティア活動を担う人材の育成が図られた。また、地元住民等との交流を通じて、農山村の活性化に役立った。

3. 参加者の声

- ・森林の大切さや森林整備における各種作業の適期、必要性が理解できた。
- ・森づくり活動は、一定期間継続しなければいけないことがわかった。
- ・事前準備の重要性や作業が重労働であることがわかった。
- ・森林整備には作業にあった多様な道具が使われていることがわかった。

実績報告とりまとめ表

①森づくり活動

実施時期	9月10日	9月17日	10月22日	10月29日	11月5日	11月19日	計
事業量	下刈、不要木の伐倒整理 0.3ha	下刈施肥 0.3ha	竹林整備、ヤマモミジ植栽 0.2ha	ヤマザクラ植栽、不要木整理 0.3ha	ヤマザクラ植栽 0.3ha	ヤマザクラ、ヤマモミジ植栽 0.3ha	1.7ha
参加者数	66人	57人	53人	51人	61人	53人	341人
実施場所	小松市	能美市	輪島市	津幡町	金沢市	羽咋市	

②研修講座

実施時期	7月～11月
事業量	講義7回
参加者数	103人
実施場所	金沢市他2市町

もりとふれあい推進事業（普及啓発事業）（A-61）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

森づくりを通じて次世代の育成を目指した森林教育の推進と、山村地域の活性化・地域づくりの推進を図る。

- ①自然素材でクラフト作り体験（蔓、木の実、木粉粘土使用） ②森の生き物観察（樹木、キノコ、昆虫） ③森の散策で健康増進 ④森林からSDGsを学ぶ ⑧学校林を使った環境教育

2. 活動の成果

森からの新たな恵みを体感し、リース、アート作りなどを通して親と子が楽しく自然体験ができたこと、森林内でキノコや昆虫に接し生物の多様性を感じられたこと、シイタケが森からの恵みであることと元気な森づくりに繋がることを理解出来たこと、森林内を歩く事で健康増進が図れることをエビデンスを基に理解できたこと、荒廃した竹林の現状と竹の新たな活用を体験できたこと、森の働きや下刈の効果が理解できたことなど、森づくり活動等を通じて広く県民に森林づくり運動の大切さや、森と緑・水・きれいな空気などの関係の認識が深められた。

今後も大人から子供まで県民が森の中に入り、森の恵みを体験できるイベントを実施する。

3. 参加者の声

- ・甘い香りや爽やかな香りのする葉など、森林は癒し効果がいっぱいです。
- ・普段見ることが出来ない昆虫やキノコ、植物がたくさんあることが分かった。
- ・冬の芽には樹木によって違った表情があり、色々な想像を沸き立たせてくれる。
- ・リース作りを通して子どもと森の中で自然に触れ合えることが出来た。
- ・子どもに自然を学ばせたかった。森を歩いていて色々な発見に興味が湧いた。
- ・荒廃した竹林の現状と新たな活用方法を学べて良かった。
- ・ネイチャーゲームを通してSDGsを楽しく学べた。

実績報告とりまとめ表

実施時期	9月24日 10月2日 10月23日	11月12日 11月13日 11月27日	12月4日 12月17日 11月2日	計
事業内容	リース作り体験 マイ箸作り体験 秋の自然観察 森の生き物探し 樹木観察	秋山の散策 森のウォーキング 各種ネイチャーゲーム体験	冬山の散策 森からSDGsを学習 森の働き学習と草刈り体験	
参加者数				216人
実施場所	福井市真栗町、福井市朝谷町、坂井市三国町、鯖江市西山町、越前市別印町、越前市村国町			

ふくいの森林づくり推進事業（活動基盤の整備）（C-29）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

森づくり活動の実践と森林整備の担い手、森林ボランティアリーダーの養成を図る。

- ・ふくいの森づくりを知る研修会
- ・森を元気に育てる体験会

2. 活動の成果

植樹の大切さの体験、低コスト化して伐採する方法の講習、余すことのない森林資源の利用講習で、森林の大切さ、地域材・山村資源の活用等について、子どもから大人まで広く県民に啓発ができた。これからも植樹体験会や効率的な森林整備研修会を実施し、森林所有者や一般県民、ボランティア団体に積極的に森林づくりに参加して貰えるよう努めたい。

3. 参加者の声 参加者の感想

- ・機械で木を伐るところを初めて見たが、こんな林業機械もあるのかと思った。
- ・森林の整備が豊かな漁場を育むことを初めて知った。
- ・自分の植えた木が大きくなるのが楽しみ。また見にきたい。
- ・森林管理の重要性がわかった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	11月12日	11月29日	計
事業内容	森林の循環利用を学ぶ 木材利用を学ぶ	植樹体験 森の働きを学ぶ	
参加者数	17名	27名	44名
実施場所	あわら市笹岡・清滝地区、小浜市学園地区		

教職員森林・林業研修（A-62）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

学校周辺の自然を観察する方法や、体験活動、木工の指導方法等について、実作業を通じた研修を行うことにより、社会科、理科、生活科、総合的な学習の時間、環境教育等における指導方法の向上を図る。

2. 活動の成果

教職員の木材への理解や工作スキルが高まるとともに、児童生徒に対して教育する際のポイントが身につくなど、実践力アップが図れた。

3. 参加者の声

- ・普段経験が出来ないことに加え、森林についても学べ、今後の授業の中で活かせる内容だった。
- ・近くに森林があるのに知らないことがたくさんあると改めて感じた。
- ・生きていた木を伐採し、生きた証を感じながらものづくりを体験する組み立てに加え、経験豊富な講師の説明で分かりやすかった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	令和4年8月3日	令和4年8月5日	計	備考
事業量	・森林・林業・木材の基礎知識講義 ・木工入門講義および実技	・森林・林業・木材の基礎知識講義 ・手鋸によるヒノキの間伐 ・間伐体験と樹皮を使ったカゴ作り		
参加者数	10名	12名	22名	
実施場所	山梨南巨摩郡富士川町最勝寺 山梨県森林総合研究所			

緑の少年隊活動発表会大会開催事業（A-63）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

県内各団体の情報を共有する中で、各団体における今後の緑化活動が発展することを目的として、緑化活動を積極的に行っている団体として各地区から推薦された4団体が、日ごろの緑の少年隊や学校林活動等の状況を発表した。また、当日の発表の様子をYouTubeにてオンライン配信を行った。

2. 活動の成果

特色ある活動内容や実施方法について、広く共有できたことで、今後の団体活動の広がりや充実が期待できる。

3. 参加者の声

- ・日頃の活動を紹介でき、また他の隊の活動の様子が聞けて参考になった。
- ・審査中に舞鶴城公園の歴史学習を行うのは良いと思う。(灯台下暗しで案外機会がない)
- ・YouTube配信により引率の負担がなく、参加しやすくなった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	令和4年11月19日	計	備考
事業量	4団体による活動発表（YouTubeによる配信）		
参加者数	41名（指導者等を含む）	41名（指導者等を含む）	
実施場所	山梨県甲府市丸の内 恩賜林記念館 大会議室		

緑化ポスターコンクール等開催（A-64）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

県土緑化運動の一環として、植樹及び森林・樹木の保護・保育の助長並びに県民の緑化思想の高揚を図るため、青少年等を対象に、緑化ポスター・標語のコンクールを開催し、優秀作品を選定後、秋に開催した山梨県林業まつり記念式典で表彰を行った。

2. 活動の成果

ポスター、標語の応募を通じて、森林や自然に対する関心を深めてもらい、森林環境教育の充実が図られた。

3. 参加者の声

- ・植樹祭での植樹活動の経験を思い浮かべながら書くことが出来た。
- ・木や森があることで生きられる動物や植物がいることを改めて感じた。
- ・このような活動を機会に緑化や育樹の意義や必要性が広がるとよいと思った。

実績報告とりまとめ表

実施時期	令和4年7月～12月	令和4年7月～12月	計	備考
事業量	緑化・育樹ポスターコンクール	国土緑化運動・育樹運動標語コンクール		
応募者数	678作品	373作品	1,051作品	
実施場所	山梨県内全小中学校（標語は、高等学校・特別支援校・一般も含む）			

子ども樹木博士認定事業（A-65）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

夏休み期間中に県内の2箇所（2箇所）の森林で、小学生とその保護者を対象として、林内を歩きながら講師から樹木の解説を受けた後、樹木の名前テストを実施し、成績に応じて樹木博士の認定書を授与した。
（新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため、実施施設の利用可能人数等から募集人数を絞って開催）

2. 活動の成果

森林の中で、親子が共にふれあいながら樹木の名前を識別できるようになり、自然に親しんでもらうきっかけになった。

3. 参加者の声

- ・検定があることから子供たちは真剣に取り組み、大人も知らないことを沢山聞くことができて、とても充実した企画だと思った。
- ・自然の中で親子で歩きながら学べる点が、とても良いと思う。
- ・来年も参加したいので、ぜひ開催して欲しい。

実績報告とりまとめ表

実施時期	令和4年7月18日	令和4年8月7日	計	備考
事業量	小学生6名、中学生1名に認定書を授与	小学生8名に認定書を授与		
参加者数	15名（保護者を含む）	17名（保護者を含む）	32名（保護者を含む）	
実施場所	山梨県甲府市山宮町片山 武田の杜 山梨県南都留郡富士河口湖町船津 河口湖フィールドセンター			

親子緑の集い (A-66)

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

加工を伴う木工作や、枝・木の実・樹皮等を組み合わせたクラフト、ロープを使い高木へ登るツリークライミングなど、森林の恵みの豊かさや楽しみ方を体験をとおり、親子でのふれあいながら森林や緑の重要性の理解を深める。

2. 活動の成果

日常生活では味わうことのできない森林や木工体験の場を親子に提供することにより、森林や緑への幅広い意識の醸成が図れた。違う季節に異なるプログラムを行うなど、森林の持つ多彩な魅力を伝える工夫を続けていきたい。

3. 参加者の声

- ・子どもと初めて体験したが、親身に対応いただき安心してできた。
- ・手が痛くなったが景色が素晴らしかった。ツリークライミングを考えた人はすごいと思う。
- ・貴重な体験ができた。参加前は不安であったが、電話での問い合わせ対応に安心感がもてた。
- ・親子で体験できるイベントであることがよい。また参加させてもらいたい。

実績報告とりまとめ表

実施時期	令和4年7月24日	令和4年10月5日 令和4年10月6日	令和4年11月23日	計	備考
事業量	森の散歩と山梨県の木を使った木工作	親子でツリークライミング	クリスマススタバストリー作り		
参加者数	親子16組 43人	親子22組 63人	親子18組 47人	親子57組 153人	
実施場所	山梨県甲府市山宮町武田の杜サービスセンター				

親子森林・林業体験教室開催事業 (A-67)

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

日頃、森林や林業に触れ合う機会のない親子が、森林の現状や林業の必要性について関心や理解を深めるため、若手林業者による森林学習と間伐体験をするとともに、木材利用の一環として木質バイオマス発電についても学べる企画を準備したが、雨天のためやむを得ず間伐体験は中止とした。

2. 活動の成果

大自然の中で直接林業体験活動を経験するとともに、若い林業者と触れ合うことで、より理解が深まるとともに関心も高まり、森林・林業への応援団や将来の担い手の一人となることを期待したが、雨天により初期の効果はまでは得られなかったと思われる。

3. 参加者の声

- ・林業のこと、木を使うことが森を育てることなど、新鮮な話が聞けた。
- ・雨天により体験活動ができず残念だった。
- ・木材を燃やして電気が作られる場所があることを初めて知った。

実績報告とりまとめ表

実施時期	令和4年11月26日	計	備考
事業量	スライド説明 60分 チップ加工施設見学等 60分		
参加者数	親子7組、18名	18名(保護者を含む)	
実施場所	山梨県南巨摩郡南部町南部 南部グリーンエネジーウッド加工場		

森林環境教育プログラム発刊事業（A-68）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

木の文化を継承し、森づくりに貢献する豊かな感性を高めるため、次代を担う子どもたちが、木に親しみ、森林への理解を深めるための活動の機会を提供する。

2. 活動の成果

様々な年代に応じ、木や森林に親しみ、理解する機会を提供することにより、木の良さ・木の文化への理解や、人々の生活・環境との関係に関心を深めるきっかけとなる意識の醸成が期待できる。

3. 参加者の声

- ・こんなにたくさんの木のおもちゃがある場所はなかなかないので、貴重な体験ができた。
- ・木のぬくもりや匂いを感じることができ、子どもも大喜びでした。
- ・機会があればまた参加したい。
- ・木箱づくりはなかなか体験できないのでおもしろかった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	令和4年9月23日から 令和4年12月11日まで	計	備考
事業量	かおり袋づくり、スワッグづくり、木のおもちゃ・ 積み木体験、本立て・木箱づくり、木製小物づくり 延べ9日間		
参加者数	320人以上	320人以上	
実施場所	山梨県立八ヶ岳自然ふれあいセンター、 山梨県立森林公園金川の森		

緑・森林の感謝祭等開催事業及び児童啓発事業（A-69）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

緑豊かな住み良い郷土づくりを進めるため、森林の重要性等について県民の一層の理解と関心を深めるべく、県内各地区の実情に応じた植・育樹祭、講演会・表彰式、苗木の頒布、若手人材育成のための森林実習、学校での森林に関する図書購入等の普及啓発活動を実施した。

また、青少年の森林環境教育を促進するため、郷土の森林と川を題材にした絵本の制作に向け現地の取材調査を行い、年度末には2,000部を発刊した。

さらに、ヒノキで有名な木曾地域では、県林業大学校、県上松技術専門校、県青峰高校が連携して森林林業を学ぶ講座を開設しているため、この講義実習を支援した。

2. 活動の成果

前半はコロナ禍で当初計画どおりに催しが開催できない中、事業規模の縮小や他事業への変更等により創意工夫して事業を実施し、より一層健全な森林づくりの機運が高まるとともに、緑豊かな住み良い郷土づくりの推進が図れた。

姫川流域を舞台とした森林と川の絵本(当基金のオリジナル絵本。第9作目)を年度末に発刊し、県内の全小学校、特別支援学校や絵本の舞台となった地域の保育園、幼稚園に寄贈した。

県林業大学校、県上松技術専門校、県青峰高校が連携して開設している講座において、この講義実習での資材を支援することにより、木曾地域の森林林業の担い手の確保・緑豊かな地域づくりにもつながるものとして成果が期待できる。

3. 参加者の声

県林業大学校、県上松技術専門校、県青峰高校が連携して森林林業を学ぶ講座は公開で行われたため、学生だけでなく地元住民も参加し、多くの方に森林や緑の大切さを啓発する機会となった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	令和4年7月1日～令和5年6月30日		計
事業量	植・育樹祭等の開催	:3地区(3村)	76箇所
	講演会等の開催	:2地区(2市)	
	環境緑化	:1地区(2市町)	
	環境教育	:2地区(8市町村, 51箇所)	
	緑化木の頒布	:2地区(13市町村, 3,941本)	
	絵本制作の取材調査	:1地区(5市町村)	
参加者数			2,248人
実施場所	松本市、飯田市など 延33市町村		

緑化推進キャンペーンと資材供給事業（A-70）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

樹木を増やすことや守り育てることの理解の深まりと将来の緑化を担うみどりの少年団活動を支援するため、緑化用の苗木の提供やみどりの少年団活動に必要な教材の提供を行い、緑化推進に繋がる活動を行った。

(1) 植木祭り

道の駅をはじめ、生活環境保全林などでのイベントで苗木を配布したほか、地域の植樹祭において、苗木を植栽した。

(2) みどりの少年団活動支援

みどりの少年団の活動を支援するため、活動手帳「岐阜の名木を観察しよう」を6,500部作成し、みどりの少年団へ配布した。

2. 活動の成果

(1) 植木祭り

苗木の配布や植栽を契機に緑を大切にしている地域住民の意識が高まった。

イベントについては、以前よりも開催しやすくなってきたが、新型コロナウイルス感染症の対策は必要である。

また、苗木の無料配布により、「緑の募金」への協力に繋がった。

(2) みどりの少年団活動支援

少年団活動に必要な冊子や資材を配布し、子どもたちに身近な緑や樹木に対する興味を喚起することができた。

今後もテーマに配慮して作成していきたい。

3. 参加者の声

(1) 植木祭り

・夕森公園は、モミジの名所であるので、これからも植樹活動を続けていきたい。

・子どもたちが植えた苗木がすくすく育ってほしい。

・いただいた苗木を大事に育てたい。

(2) みどりの少年団活動支援

・県内には、いろいろな種類の樹木があることがわかり身近にある樹木にも興味を持つようになった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	令和5年4月～6月	令和5年4月～6月	計	備考
事業量	植木祭り 苗木本数 1,237本	みどりの少年団用冊子 6,500部		
参加者数	1,336人	6,500人	7,836人	
実施場所	植木祭りは岐阜県大垣市、東白川村、御嵩町、中津川市（2箇所）、下呂市 みどりの少年団は県内全域			

恵みの森づくり事業（C-30）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

恵みの森づくり事業は、人々と森林や樹木とのふれあい機会を創出するとともに、森林や樹木の恵みを得られるよう、地域のシンボルとなる森林や樹木を整備することを目的としている。

吉田住宅せせらぎ倶楽部は、「せせらぎ街道」沿いの伐採跡地を放置することなく、街道を通行する観光客にも景観を楽しめるよう花や紅葉の美しい広葉樹の森を整備するため、地域の住民、小学生、企業の職員とも伐採跡地への植樹活動を通じて子どもたちとともに育む豊かな源流の森づくりに取り組んでいる。

2. 活動の成果

吉田住宅せせらぎ倶楽部については、今回が初めての活動であったが、地域住民、子どもたち及び地域の企業職員が協力し以前から実施することができた。今後も観光の主要道路でもある「せせらぎ街道」沿いの森林を整備し、景観を維持していくとともに子どもたちの未来につなぐ源流の森林づくりに取り組んでいきたい。

3. 参加者の声

- ・長良川の清流を森林が守り育てていることが実感できた。
- ・植えた木の成長を見ることができ、樹木に対して愛着がわいてきた。
- ・地域の人達と力を合わせて植樹したので、連帯感や達成感が得られた。
- ・街道沿いの景観整備が出来て通行の際に見るのが楽しい。

実績報告とりまとめ表

恵みの森づくり 実施時期	吉田住宅せせらぎ倶楽部 令和5年4月1日～5月15日	計	備考
事業量	里山の広葉樹植栽 200本 面積：0.5ha	広葉樹苗木 200本	
参加者数	46	46	
実施場所	岐阜県郡上市明宝気良地内		

森づくり県民大作戦支援事業（A-71）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

- ①森づくりグループとの連携による参加拡大
「森づくり県民大作戦」の参加者を拡大するため、参加を呼び掛けるチラシを作成し、森づくりグループなどに送付するとともに、県自然ふれあい施設など56箇所に配架した。
- ②県との連携による参加拡大
県と連携し、県内各地で、森林・林業体験、木工作など森林・里山の大切さを知る「森づくり県民大作戦」を県民の参加を公募して7回開催した。
- ③自然ふれあい保育の啓発
「第17回森のようちえん全国交流フォーラム at 富士山」が、県内で開催されたことから、開催を後援するとともに、開催経費の一部を助成した。

2. 活動の成果

- ①と②森づくり活動への参加拡大
コロナ禍であったが、それぞれが感染症対策を実施した上で、多くの行事を開催することができた。参加した県民は森林に触れ、楽しみながら、森林の大切さを学べた。昨年度の参加者が今年度も参加するイベントや、参加者が昨年度の3倍となるイベントもあり、今後も、静岡県とともに「県民総参加による持続的で魅力的な森づくり活動」に向け、県民参加の森づくり活動を推進する。
- ③自然ふれあい保育の啓発
「第17回森のようちえん全国交流フォーラム at 富士山」に、県内からも多くの人が実行委員、運営委員、体験スタッフ等として関わったことから、自然ふれあい保育の啓発とともに、自然ふれあい保育をけん引する人材に育成にもつながった。

3. 参加者の声

- ・参加者からは、「森の手入れをする大変さがわかった」「貴重な体験ができた」「親子で自然に触れる体験ができてよかった」「とても楽しかった、またやってほしい」などの感想を聞くことができた。
- ・スタッフからは、「森林整備の必要性や木材のぬくもりを理解していただけて良かった」「子供から大人まで楽しめるプログラムを提供できてよかった」などの感想を聞くことができた。
- ・実行委員から「すべてのお子どもたちが自然の中で育まれる機会に恵まれるように、全国各地で一歩踏み出すことの後押しを、このフォーラムができていたらうれしい。」との声があった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	4月1日～6月30日	9月15日～12月15日	その他	計	11月3日～5日
事業量	222行事	262行事（7行事）	179行事	663行事（7行事）	フォーラム開催
参加者数	5,049人	8,368人	3,938人	17,355人	730人
実施場所	静岡県内各地				富士宮市

森林ESD推進事業（C-31）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

- ①緑の少年団交流会
次代を担う緑の少年団と団員の育成と交流を図るため、新型コロナウイルス感染症対策を図った上で、夏、秋、冬の3回実施し、森林や緑の大切さを学んだ。
第1回：富士山の水をめぐる自然教室
第2回：わくわく！いきもの探検隊
第3回：木登りしよう～ツリークライミング体験
- ②プログラム開発
県内の小学校に、改訂された小学校学習要領に対応した森林ESD学習を提案するため、地域の実情に合わせたプログラムを開発するとともに、児童用学習資料（動画）を作製した。

2. 活動の成果

- ①緑の少年団交流会
・開催場所を変えることにより東西に長い静岡県の森林を体感するプログラムを実施することができた。
・新しいプログラム、東廻時間が少ない日帰りにしたことにより、小学校低学年も参加でき、団員の継続・増加に繋がった。
- ②プログラム開発
・推進チームによる検討（2回）を経て、協力校（4校）での出前授業を試行した。
・その結果、小学校の先生方から評価される「森林ESD出前授業」のプログラムが概成した。

3. 参加者の声

- ①緑の少年団交流会（指導員）
・森の中には、日常の生活と繋がりがあるものが次々発見できた。
・「ツリークライミング」は新鮮で、いっそう森林に興味を持てた。
- ②プログラム開発（協力校の先生方）
・森林や林業は、遠い存在だったが、身近に感じる事ができた。
・子どもたちから「つぶやき」が出て、自ら学ぼうとしていた。
・「人工林・天然林」等、今後の授業に役立つ内容であった。
・楽しかった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	8.8	10.1	12.3	10～12	10～2
事業量	交流会 （第1回）	交流会 （第2回）	交流会 （第3回）	森林ESD出前 授業の試行	児童用学習資料 （動画）の作製
参加者数	49	40	34	282	11
実施場所	富士宮市	静岡市	浜松市	長泉町ほか	全県

みどりに親しむ集い事業（A-72）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

地域の住民各層が自然とふれあい、みどりに親しむと同時に、森林整備作業や間伐材の木工工作などを体験することを通し、森林や緑の大切さを理解し、緑化意識の高揚を図った。

2. 活動の成果

森林整備を進めていくと、荒れた森林に光と風が入り多様な生物が住みやすい環境に移り変わっていく様子が体感できた。「森で体験しよう」などの体験イベントには767人の参加があり、森林整備・緑化推進の意識が高まった。

また、木工教室には835人が参加があり、子どもから大人までが工作を通し木とのふれあい体験を行った。

3. 参加者の声

- ・お父さんの作ったイスに早く座りたい。
- ・遊び場づくり、今年もきました。
- ・山の整備、疲れたがよい体験になった。
- ・リースはお母さんへのプレゼント。
- ・ベンチブランコ最高！
- ・今年は参加できた。中止が続いたので楽しみにしていた。

実績報告とりまとめ表

・作業体験

実施時期	令和4年7月1日～令和5年3月3日
事業量	・遊歩道整備体験 ・遊び場作り体験 ・木つかい体験 ・森林作り体験 みろくの森除伐体験
参加者数	767人
実施場所	瀬戸市上半田川町「遊々の森」、春日井市西尾町（県有林）他

・木工教室

実施時期	令和4年7月1日～令和5年1月20日
事業量	・間伐材でイス作り ・ミニベンチ ・どんぐり間伐材で鍋敷作り ・シイタケの菌打ち ・クリスマスリースなど創作 ブランターカバー、 黒板
参加者数	835人
実施場所	犬山市民文化会館、豊橋公園、豊富小学校運動場

みどりフェスティバル22秋・23春 事業（A-73）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

自然や緑とふれあい親しみながら、森林・木材の大切さを理解するため「みどりフェスティバル22秋・23春」を開催した。身近な自然を感じる缶バッジの作成や、家庭の緑化を推進するためミニバラ、果樹の苗木を秋・春で1,000本配布し、一番身近な家庭の緑化を進めた。

今回も新型コロナウイルス感染症対策のため、対策を講じての実施でしたが、特に問題もなく実施できた。

講堂では、令和4年度の緑化ポスター原画コンクールの入賞作品の展示もおこなった。

2. 活動の成果

みどりフェスティバル22秋・23春のイベントに多くの方が参加したことにより、各々が緑化の大切さを理解ができ、地域緑化の推進にも大いに貢献できた。

このフェスティバルでは、自然や緑とのふれあいを通した、貴重な体験となっている。今後とも、フェスティバルの継続を望む声も多く、未来に繋げるイベントとしていきたい。フェスティバル全体を通し、緑化意識の高揚、緑化の推進に大いに貢献できた。

3. 参加者の声

- ・配布の本数が多く、必ず貰うことができよかった。
- ・果樹の苗木を楽しみにしていた。
- ・缶バッジの作り方に驚いた。
- ・世界に一つしかない缶バッジができた！
- ・家族が一日、楽しめるイベントで来て良かった。
- ・毎年、この時期を楽しみにしている。庭が花で一杯になった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	11月19日・20日	5月3日～5日	計	備考
事業量	みどりフェスティバル 22秋	23春		
参加者数	22秋 22,500人 23春 106,200人		128,700人	
実施場所	愛知県豊田市西中山町（愛知県緑化センター）			

苗木の育成と配布事業（愛知県植樹祭）（A-74）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

緑化に対する意識の高揚を図り、みどり豊かで快適な環境づくりを推進するため昭和23年から愛知県植樹祭を毎年開催している。植樹祭では参加記念として緑化木を配布している。その配布用緑化木を小学生が前年度に挿し木（アジサイ）をし、育てる。育った苗木を植樹祭開催時に記念樹として参加者に配布する。

2. 活動の成果

小学生の児童が挿し木を体験することにより、緑の大切さを感じ、知ることができた。また、緑が将来に繋がる活動にもなった。児童にとって挿し木は経験もなく興味を持って取り組んでいた。挿し木苗が大きく成長するのには驚いていた。植樹祭で多くの方が苗木を持ち帰りことにより、身近（家庭）な緑化の推進に繋げることができた。

3. 参加者の声

- ・初めて挿し木をした。
- ・挿し木をしたアジサイが咲くのがたのしみです。
- ・私が挿し木をしたアジサイが配られる。感動します。
- ・コロナ禍の中、参加が出来なかったが、今年は参加することができた。
- ・参加者体験型にしてほしい。

実績報告とりまとめ表

実施時期	令和4年9月（3回）	令和5年5月20日	計	備考
事業量	挿し木 （3小学校）	愛知県植樹祭 （豊川市）		
参加者数	124人	500人	624人	
実施場所	挿し木（豊川市3小学校）	愛知県植樹祭（豊川市）		

ふるさと樹木診断事業（B-2）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

古くから地域の人達に愛され親しまれてきた巨樹・名木等（ふるさと樹木）を県民の財産として守り育て後世に引き継ぐために、その樹勢等を診断し、保護・保存のための基礎データを収集した。樹勢診断は、市町村条例等で指定されている樹木、又は地域のシンボリックな樹木のうちから市町村の要望に基づいて42本の診断樹木を選定し、一般社団法人日本樹木医会愛知県支部に委託し実施した。診断終了後、報告書を関係市町村、所有者に戻し、今後の樹木の手当に役立てている。

2. 活動の成果

ふるさと樹木を保護・保存する基礎データを収集することにより、後世まで、大切な「ふるさと樹木」を引き継ぐ方法を検討するのが容易になる。また、診断結果から手当に結びつくこともあり、貴重な事業として評価を受けている。緑化意識の高揚、地域緑化の推進に大いにつながっている。また、地域からの要望も非常に高く、今後も続けて実施する予定である。平成6年からのデータの蓄積（1,474本）もあり、保護・保全に役立っている。過去のデータをまとめ、情報の共有を計画している。

3. 参加者の声

- ・手当をする補助事業を紹介してほしい。
- ・名木（シンボル）が保存され、地域住民の緑化の高揚にも繋がった
- ・手当をした際このデータが役に立った。（過去の診断木）
- ・名木を一覧にして本にならないか。

実績報告とりまとめ表

実施時期 （委託）	委託期間 令和4年7月22日～令和5年1月20日
	委託完了 令和5年1月20日
事業量	樹木診断本数 42本
実施場所	愛知県内 17市町

森林ボランティア養成事業（C-32）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

山林をどのようにするのか、目標をもち、どのような管理をしたらいいのか講義と現場で紹介した。

また、次世代を担う子どもや家族に、間伐材を利用した木工作を行い、将来の森林環境整備のリーダーとしての育成を図った。

2. 活動の成果

多様な間伐手法を学び、森林施策への理解及び主体的な森づくりへの進展を期待できる。また、受講者によるボランティア団体が設立された。団体による継続的な森林整備活動へ繋がったことは、大きな成果となった。

一方では、将来を担う子どもたち家族に、木工作を通じ、木に親しみを抱き、興味を持つ子どもも現れ、将来に期待をもてた。

3. 参加者の声

- ・学ぶたびに、森林に興味がわいてきた。
- ・いつも落選でした。今回参加できうれしかった。参加人数を増やしてほしい。
- ・山は持っていないが、チームメンバーの山の手入れができるになりたい。
- ・山の管理の方法を考えるようになった。
- ・現場からの生の声が聞こえ非常に参考になり勉強になった。
- ・いい山、悪い山が何となく分かるようになった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	令和4年7月～令和5年3月		計	備考
事業量	①豊田市	②森林真剣隊	139人	
	多様な間伐手法を学ぼう 間伐ボランティア初級講座	リーダー育成実習活動 木工作		
参加者数	5回 79人	6回 60人		
実施場所	豊田市有林他	新城市門谷及び鳳来寺小学校		

みどりの少年隊活動推進 (A-75)

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

県内のみどりの少年隊の活動の活性化を図るため、県内の6隊にそれぞれ4万円の活動助成を行い、体験活動の施設利用や必要な装備品や資材の購入などを支援した。

また、みどりの少年隊交流集会については、令和5年3月4日(土)に4年ぶりに三重郡菰野町で開催し、隊員たちは元気に活動発表と木の箸づくり体験を行った。

2. 活動の成果

新型コロナウイルスの感染拡大に伴い3年間中止をしていた交流集会を開催することができた。県内6隊のうち3隊の参加となったが、隊員たちは、元気に活動発表を行ったあと、「森のせんせい」の指導の下、一所懸命に木の箸づくりを楽しんだ。

また、新型コロナウイルスの影響で隊の活動がままならない状況の中で、各隊の施設利用や装備品や活動資材を支援することで、各隊の活動の幅を広げることができた。県内のみどりの少年隊の数が少ない中で、みどりの少年隊の活性化に向けて引き続き取り組んでいきたい。

3. 参加者の声

- ・お箸の先をすごく細くできた。
- ・家で使うのが楽しみ。

実績報告とりまとめ表

実施時期	7月～2月	3月	計	備考
事業量	活動支援6隊	交流集会		
参加者数	89人	17人	106人	隊員数
実施場所	三重県内一円 菰野町農村環境改善センター(三重郡菰野町)			

森林教室開催 (A-76)

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

第1回「森の標本箱づくり体験」(8月7日)

伊勢市オレンジガーデン五十鈴川で行われた「おかげさまマルシェ」で、木の実や葉などの森の小物を使って標本箱づくりを実施した。

第2回「ミニクリスマスツリーづくり体験」(12月3日)

津市のメッセウイング・みえで行われた「みえ花フェスタ2022」で、無償配布したゴールドクレストの苗木を使ってミニツリーづくりを実施した。

第3回「シイタケ原木菌打ち体験」(12月17日)

松阪市森林公園で、菌床と原木シイタケの食べ比べと菌打ち体験を実施した。地域の子ども42名他の参加があった。

第4回「野外観察」(3月4日)

菰野町の三重県民の森で行われた「県民参加の植樹祭」に参加した一般参加者やみどりの少年隊を対象に野外観察会を実施した。

2. 活動の成果

森林教育指導者「森のせんせい」の指導により、体験と併せて森や木、きのこの話を聞くことを通して、森林や樹木に対する理解や関心を深めることができた。

3. 参加者の声

- ・シイタケができるまで時間がかかること、大変なことが分かった。
- ・シイタケができるのが楽しみだ。
- ・冬でもいろんなものを観察することができた。

実績報告とりまとめ表

実施時期	8月7日	12月3日	12月17日	3月4日
事業量	森の標本箱づくり	ミニツリーづくり	シイタケ原木菌打ち	野外観察
参加者数	子ども16名他	子ども他22組	子ども42名他	子ども他60名
実施場所	オレンジガーデン五十鈴川 (伊勢市)	メッセウイング・みえ (津市)	松阪市森林公園 (松阪市)	三重県民の森 (菰野町)

森林ボランティア活動促進（A-77）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

- (1) 概ね20名以上の県民が参加する森林環境教育等のイベントを実施する森林ボランティア6団体に対して10万円を限度とする助成を行った。
- ① グリーンボランティア「森林づくり三重」は四日市市立八郷西小学校、磯津保育園で、森林学習、工作体験を11回実施した。児童など267名参加。
 - ② 認定非営利活動法人森林の風は四日市市立常盤西小学校で、学校林でのベンチづくり等を実施した。児童130名、教員8名参加。
 - ③ Waraひろば親子体験教室は、鈴鹿市内で地域材を使った木工体験教室を実施した。20名参加。
 - ④ 竹林整備隊は、松阪市「みえこどもの城」で丸太切り体験、竹ポックリ製作体験、県産材アンケートを実施した。66名参加。
 - ⑤ 手づくり工房「春と木の風」は、伊賀市内で間伐材を利用した木工工作体験を実施した。8回。135名参加。
 - ⑥ 大山田大日つあんクラブは、伊賀市甲野地内で森の観察会、シイタケ原木菌打ち体験などを実施した。33名参加。

2. 活動の成果

森林ボランティア団体等の活動に支援することで、県内各地で一般参加を得て森林関係イベントが開催され、森林活動の大切さ、森と触れ合うことの楽しさ等の普及啓発を図ることができた。

3. 参加者の声

各団体が実施するイベントの参加者からは好評をいただいているとのことで、活動基盤の弱い団体にとっては、当助成によって活動が広がり子どもたちに森林環境教育の機会を提供することができるため、事業継続を求める声が寄せられている。

実績報告とりまとめ表

実施時期	7月～2月	計	備考
事業量	助成団体6団体		
参加者数	659人	659人	
実施場所	三重県内一円（活動助成）		

県民参加の森林づくり運動推進（巨樹・古木見学会、クマノザクラ観察会）（A-78）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

一般県民に森や木とのふれあいを通して森林や樹木への理解を深めてもらう目的で、令和4年11月5日（土）に、松阪地域の巨樹・古木をバスで巡る見学会を実施した。

また、令和5年3月19日（日）には、新種の野生サクラとしては約百年ぶりに発見されたクマノザクラの観察会を熊野市紀和町で実施した。

いずれも、日本樹木医会三重県支部の案内で、新型コロナウイルスの感染を防止する観点から参加人数を制限するなど対策を講じながら実施した。

2. 活動の成果

地域にある巨樹・古木や地域固有の樹木を知ってもらうことを通じて、森林の良さや樹木保護の大切さを認識してもらうことができた。

いずれも募集人数を大きく上回る多数の応募があり、また参加者からも好評をいただき、引き続き実施していきたい。

3. 参加者の声

- ・このようなイベントがあればこれからも参加したい。
- ・とても楽しかった。
- ・今シーズン最高のクマノザクラを見ることができて感激した。

実績報告とりまとめ表

実施時期	11月5日	3月19日	計	備考
事業量	巨樹古木見学会1回	クマノザクラ観察会1回		
参加者数	20人	20人	40人	
実施場所	松阪地域他 熊野市紀和町内			

海・山連携植樹活動実施（A-79）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

山村地域と漁村地域の相互理解を深め、森林づくりについて自発的な協力関係が築くことを目的に三重県漁業協同組合連合会に対して漁業者が行う植樹活動の助成を行った。

植樹活動は令和5年3月11日（土）に地元の森林組合の協力のもと実施され、漁業関係者45人が参加し伊勢湾に注ぐ雲出川上流にイロハモミジ22本、ヤマザクラ22本を植樹した。

2. 活動の成果

海・山連携で漁業関係者による植樹活動が森林組合の協力を得て実施された。漁業関係者からは引き続き植樹を実施してきたとの声をいただいております。森林が川や海にもさまざまな恩恵をもたらしていることの理解が深まっていることが感じられる。

3. 参加者の声

- ・様々な団体が参加することで、漁業者以外との交流が増えた。
- ・マスコミに取り上げられるなど活動を広く周知することができた。

実績報告とりまとめ表

実施時期	3月11日	計	備考
事業量	植樹活動44本		
参加者数	45人	45人	
実施場所	津市美杉町八手保（君ヶ野ダム湖周辺）		

森林ウォーキング（A-79-1）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

一般県民に森や木とのふれあいを通して森林や樹木への理解を深めてもらう目的で、令和4年10月22日（土）に、北牟婁郡紀北町内で森林ウォーキングを実施した。三重森林インストラクター会と熊野古道語り部の会の案内で、熊野古道「一石・平方峠・熊ヶ谷道」を散策しながら、古道の歴史や沿道の森林や樹木の解説を聞きながら森林ウォーキングを楽しんだ。

2. 活動の成果

熊野古道を散策しながら沿線の森林や樹木と触れ合うことを通じて、森林や樹木への関心を高めたり大切さを認識してもらうことができた。募集人数を大きく上回る多数の応募があり、また参加者からも好評をいただき、引き続き実施していきたい。

3. 参加者の声

- ・このようなイベントがあればまた参加したい。
- ・とても楽しかった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	11月27日	計	備考
事業量	森林ウォーキング		
参加者数	19人	19人	
実施場所	北牟婁郡紀北町		

緑の少年団育成強化事業（C-33）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

県内の緑の少年団52団、5,095人の日常の活動を支援するとともに指導者研修会や交流会等を実施し、緑の学習や実践的な活動等の促進を図ることが出来た。

2. 活動の成果

緑の少年団への育成強化活動支援により、緑を愛する心豊かな人間に育っていくことが期待出来る活動となった。

また、「秋のポスト全国植樹祭」および「こども水源の森サミット」、「緑の少年団活動交流会」の開催により、団員間の交流や団結・協力が図られ、互いに緑化意識を高めることが出来た。

とりわけ平成26年度より、滋賀森林インストラクター会の協力を得て緑の少年団サポーター制度を設け、当インストラクター会の指導のもと県内を4ブロックに分けて行っている指導者研修会を令和4年度は計8回開催し、またそのフォローアップとして3回にわたり個別指導を実施したことによって、各団指導者の緑化に対する意識の高揚と資質の向上を図ることができた。

今後は、さらに当制度の充実を図り、より一層指導者の育成と少年団活動を推進していきたい。

3. 参加者の声

森づくり・緑づくりの重要性を十分に理解することができ、それらを支える緑の募金の啓発活動をより一層積極的に進めていく必要があることを実感する声が多かった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	通年	7月～9月	10月23日	2月25日	計	備考
事業量	個々の緑の少年団の一年間の様々な活動に対して支援	指導者研修会 8回	秋のポスト全国植樹祭 こども水源の森サミット	緑の少年団 活動交流会		
参加者数	5,095人	70人	111人	49人	5,325人	
実施場所	県下一円	河辺いきものの森 (東近江市) 他7箇所	全国植樹祭会場 他 (甲賀市)	びわこ地球 市民の森 (守山市)		

自然環境保全団体ネットワーク事業（A-81）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

大阪府内の自然環境保全活動を実施している団体の、活動を維持・発展させることを目的に前年度立ち上げた、大阪里山ネットワークの運営を行い、府民へ森林保全に関する情報を提供する。

ホームページ

サイト名：大阪里山ネットワーク

URL：https://www.ogtrust.jp/satoyama/index.html

公開日：2021年5月18日（火）

登録団体数：29団体（2023年5月末現在）

2. 活動の成果

インターネットサイトを公開したことにより、大阪府内で活動している里山保全団体の情報を集約し、情報発信力を高め、活動への理解者と参加者の拡大に繋げることができた。今後も未登録の団体に参加を呼びかけ、登録団体を増やしていく。

また、自然環境保全活動に興味のある府民に対しての情報発信を強化していく。

実績報告とりまとめ表

実施時期	通年	計	備考
事業量	ホームページ		
参加者数	閲覧8,546回	8,546回	
実施場所	大阪府内		

府民参加の森林づくり（A-82）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

多くの府民が森林・みどり・水、あるいは、そこに培われる多様な生き物を身近に感じ、森林と生物多様性の重要性について理解を深めるため、情報発信を行うとともにイベントを開催した。

①事業報告・メールマガジン・SNSによる情報発信・普及啓発

・事業報告 発行部数：約1,700部

・メールマガジン 配信回数：9回（月1回） 配信数：約500件/月

・SNS（Facebook）記事掲載回数：43回 平均リーチ184（過去3か月平均）

②イベントの開催

・7/31地黄湿地観察会：湿地特有の希少な動植物の初夏の様子を専門家の案内のもと観察。参加者18名

・9/25地黄湿地勉強会：地黄湿地の成り立ちや自然環境、課題などの講義と近隣湿地の視察。参加者32名

・10/20地黄湿地観察会：湿地特有の希少な動植物の秋の様子を専門家の案内のもと観察。参加者15名

・12/4タガメの田づくり：三草山麓の遊休農地再生に取り組み田んぼで収穫後の冬支度。参加者26名

・3/21三草山ハイキング：保全活動と地域の歴史について学びながらのハイキング。参加者24名

③自然環境保全地域支援

府内5か所の社寺林において自然環境保全活動に対して助成。

2. 活動の成果

大阪府内での貴重な自然環境、それを保全管理する必要性について、理解者が増えた。

3. 参加者の声

・地黄湿地観察会

・先生の説明が分かりやすくてよかった。サギソウがきれいに咲いていて良かった。

・細かな説明が聞けたこと、近い距離で観察できたことが良かった。

・高校生の説明が分かりやすくて、湿地がもっと好きになりました。

・三草山ハイキング

・地元の方の話で能勢のことがよく分かり、蝶の話も分かりやすく参考になりました。

実績報告とりまとめ表

実施時期	通年	通年	計	備考
事業量	イベント実施	情報発信		
参加者数	のべ115人	のべ14,000人	のべ14,115人	
実施場所	大阪府内			

地域緑化イベント開催事業（A-83、84）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

- (1) 「森の恵み普及啓発イベント」（「くのみまつり」開催事業から変更）
国見の森公園において、小学生を対象にした木工クラフト教室や一般来訪者を対象にしたしいたけ植菌体験イベントを開催し、体験しながら森の働きや恵みが学べる体験学習を実施した。
※新型コロナウイルスの影響により、分散型イベントに変更して実施
- (2) 第37回ひょうご木材フェアの開催
木材利用によって森林整備を促進し、森林の多面的機能の高度発揮を図ることを目的に「第37回ひょうご木材フェア」を開催した。
実施主体：兵庫県木材利用推進協議会、開催日：令和4年10月8日（土）
開催場所：神戸市中央区元町商店街参加人員：約10,000人
内容
 - ・木材利用によって森林整備が進み、多面的機能が高まることの展示
 - ・都市の木造・木質化を促進するための不燃ボードや床材等の展示と説明
 - ・木製遊具や木製玩具等の展示・販売と木工教室の開催等

2. 活動の成果

- (1) 「森の恵み普及啓発イベント」
木工クラフト体験やしいたけ植菌体験等を通じて森の恵みと森林整備の重要性を学ぶことができる。
- (2) 木材フェア
木材を使うことが森林整備の促進につながり、森林の多面的機能の発揮に必要なであるとの理解を深める一助となる。

3. 参加者の声

- (1) 「森の恵み普及啓発イベント」
 - ・親子で環境の大切さ、自然の楽しさを共有できてよかった。
 - ・バードコールを作り、鳥と会話ができたと感じた。
- (2) 木材フェア
 - ・木材として使うには山での間伐などの作業が必要なこと、木造住宅や家具に使っていけば、資源として循環していくことがわかった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	10月9日	10月6日～2月19日	計	備考
事業量	第37回ひょうご木材フェア	森の恵み普及啓発イベント		
参加者数	約10,000人	622人	約10,622人	
実施場所	神戸市	宍粟市		

森林整備・緑化活動支援事業（C-34）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

- (1) 県内の緑の少年団が一堂に会し、交流や活動発表を通じて、今後の活動の活性化を図ることを目的として、「緑の少年団のつどい」及び「緑の少年団活動発表会」を開催した。
■緑の少年団活動発表会 10月1日（土） 県立三木山森林公園 6団32名参加
■緑の少年団のつどい 10月30日（日） 県立丹波並木道中央公園 4団55名参加
- (2) 森林環境学習活動をサポートするため、緑の少年団に講師を派遣する「出前講座」を実施した。
- (3) 森林環境学習・社会奉仕・レクリエーション活動を通じ、森林整備推進や地域の緑化活動の重要な役割を果たす緑の少年団の結成及び活動を支援した。

2. 活動の成果

- (1) 活動発表会や緑の少年団のつどいを通じて交流や情報交換が図られ、今後の活動の活性化が期待できる。
- (2) 森林整備体験や木工体験を通じて、森林の多面的機能への理解が深まり、森林保全活動への機運醸成が期待できる。
- (3) 緑の少年団のつどいにおいて、森林・林業を学ぶ大学生が企画した里山がテーマの電子紙芝居を兵庫県緑の少年団連盟が絵本化し、今後の森林環境教育に活用することができる。

3. 参加者の声

- (1) 自分達の団で活動していく中で、子ども達に指導をする際に悩む部分の話を聞くことができたので、今後の参考となった。
- (2) 講義や実習（ネイチャーゲーム）では、森や動物・植物のつながりを分かりやすく子どもたちに伝えていただけたのでよかった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	10月1日	10月30日	7月～2月	計	備考
事業量	活動発表会	緑の少年団のつどい	出前講座、各地区での活動		
参加者数	32人	55人	11,962人	12,049人	
実施場所	三木市	丹波篠山市	県内各地		

森の文化活動事業（A-85）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

- ・「大和路花と緑のフェスティバル」「奈良技能フェスティバル」出展に出店し、来場者へPR活動をした。出店している他団体へ参加される方が多く、立ち寄ってパンフレットや球根を手にとっていただいた。
- ・「緑化啓発PR展」
令和4年緑化啓発の一環として、緑化作品コンクール入賞作品の展示やパネル展示、花苗や球根の配布などを行った。
- ・その他、年間を通じて広報や啓発活動に努めた。

2. 活動の成果

イベントを通して様々な地域や年齢層の県民に、緑化普及啓発を行うことができた。
 コロナ禍では様々なイベントが縮小や中止を余儀なくされたが、従前どおりの復活とまではいかないものの、開放的な雰囲気求めて、家庭で草花を育てることから始めるなど、緑環境への興味は少しずつ回復していると思われる。もっとたくさんの方々に興味を持ってもらえるよう、広報活動に力を入れていきたい。

3. 参加者の声

- ・昨年までは、夏休みもあまり遊びに行けなかったが、野外でのびのびしている子供たちを見られて嬉しいです。
- ・きれいな花をいただけて嬉しい。コロナ禍では外に出るのものはばかられたが、いざ元に戻ると、ちょっとした緑環境の変化が嬉しく感じる。家の中も外も花を飾りたいです。
- ・災害が多く発生する昨今、森林の整備の大切さを考えさせられています。素人にでもできることはあるでしょうか。そういった事を勉強する機会があればいいと思います。

実績報告とりまとめ表

実施時期	月 日	月 日	計	備 考
事業量	10月7日	10月9日	3日	
	11月20日		1日	
	12月11日	12月25日	15日	
	12月19日		1日	
	4月12日	4月19日	8日	
	4月19日	4月27日	9日	
参加者数	750人			
実施場所	奈良県奈良市、橿原市、宇陀市			

ボランティア緑化活動事業（C-35）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

県内各地で活動する森林ボランティアの連携と活動の充実を目的とし、技術向上と事故防止への意識向上を図った。各団体への助成事業等の情報提供など、ボランティア活動の推進につながるものを紹介し、助成事業や物品提供の案内を行った。また、事業の紹介やイベントへの案内、対応など事務的な支援を行った。新型コロナウイルス感染症対策として各団体へ情報提供し、運営協力に努めた。

2. 活動の成果

各地で活動するボランティア団体が互いに連携して地域内での情報交換を行い、今後の活動につながる信頼関係を構築した。新型コロナウイルス感染症で規模を縮小した活動を行っていた結果、さらに活動を自粛や縮小した団体が多くあり、一度縮小した活動を正常に戻すのに苦労している団体が多い。

活動が自粛される中、会報等を作成し配付することでボランティアを意識し活動を維持した。会報等では安全を喚起するとともに技術の更なる向上に向け情報発信した。今後も情報発信や事務運用の効率化を図っていきたい。

3. 参加者の声

- ・いろいろな助成事業や苗木提供の情報等いただいて、活動に役立てています。一旦コロナ対策で活動を自粛したり縮小したりすると、次回からの参加者が大幅に減ってしまい、今後の参加者数回復に向けてどう取り組んでいくかが課題です。
- ・活動が年々縮小していく中、他団体の情報や連絡をもらえてありがたかった。今後の参考にさせていただく。

実績報告とりまとめ表

実施時期	月 日	計	備 考
事業量			
参加者数	300人	300人	
実施場所	奈良県奈良市、大和郡山市		

普及啓発事業（A-86）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

森林や緑の公益的機能の重要性や、再生可能な循環資源である木材の需要拡大が地球温暖化防止等に果たす役割等については、継続して広く県民に普及啓発して行くことが重要であり、本会としては特に青少年に対する普及啓発活動を重点的に実施するとともに、県民総参加の森林整備活動、緑化運動を促進する。

今年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、例年実施している県内のみどりの少年団代表が集まったの交流集会在実施できなかったため、希望する団を対象に森林や林業に関する研修会を開催した。また、県内各地の少年団が「緑を愛し、緑を守り・育てる心を養う」ことを目的に行う学校及び周辺の緑化や自然学習活動に対し支援を行った。

2. 活動の成果

- ・みどりの少年団団員に森林・林業に関する普及啓発活動、緑化及び環境貢献活動の重要性を学んでもらうことができた。

3. 参加者の声

- ・みどりの少年団交流集會に参加の子供達からは、山を歩いて、見て触って、話を聞いて勉強になった。交流集會では名刺交換して新しい友達と交流が出来て良かった等の声があった。また、参加団体の引率者からは、子供達にとっても貴重な経験が出来て、是非継続して欲しいなどの意見があり好評だった。
- ・学校周辺や地域の保全活動に参加し、環境貢献活動の大切さがわかった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	令和4年7月1日～令和5年5月31日	備考
事業量	〈主な取組〉 ・森林や林業に関する研修会の開催 ・校内の緑化活動	
参加者数	34団	
実施場所	・友ヶ島 ・各みどりの少年団の活動エリア	

活動基盤の整備（C-36）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

和歌山県は「紀州木の国」と呼ばれるように豊かな森林に覆われているが、近年は人と森林との接点が少なくなり、放置された森林が増加し、そのまま放置すれば森林の荒廃が広がる可能性があります。これらの問題に対処するためには、行政だけでなく森林ボランティア団体等の活動が重要であり、和歌山県森林インストラクター会と共催で、森林ボランティアリーダーの養成や既存の森林ボランティア団体との連携強化に取り組みました。

具体的には、「森づくり塾」を開催し、1年間を通じて座学と現地実習により、森林の現状と様々な問題点・里山の問題・獣害対策等に関する知識や、人工林間伐作業やチェーンソーの使い方・竹林整備方法・苗木の植栽・照葉樹林観察など、森づくり活動に必要な技術講習を行い、森林ボランティアの中核的担い手を育成し、健全な森林の再生を目指した。

2. 活動の成果

一年間を通じて座学・現地実習を毎月1回実施し、自然・森林・林業について見解を深めてもらう事が出来た。また、毎年新規募集を行い確実にボランティアに参加する人数が増えている。今後は、行政等からの支援による森林整備事業などを紹介し、森林ボランティア活動への誘導を促す。

3. 参加者の声

講習会では「森林、特用林産物、動植物、森に住む生物など、多方面の先生の話しが聞けてとても勉強になった。」、実習では「実際に山で活動して体験することで、山の知識や林業の現状など、身をもって学べた」等の意見があった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	令和4年7月～令和5年6月（毎月、座学1回・現地実習1回）	備考
事業量	1.座学 森林とはどんな空間か・木材の特徴と魅力・竹の種類と性質・竹林の整備・人のくらしと森林の関わり・森林の危険な生き物と怪我への対処・和歌山県の自然植生について・様々な樹木の生育特性と自然配植技術・和歌山県の特用林産物・日本の林業と和歌山県の林業 2.実習 竹林整備（ノコギリ・ナタの使い方）・人工林整備（チェーンソーの使い方と人工林間伐作業）・苗木の植栽・竹炭づくり・山菜料理・里山の観察・土壌動物・里山整備（竹炭窯出し）・照葉樹林の森林観察・ブナ林の観察・紀州備長炭生産と原木林観察	
参加者数	延べ638人	
実施場所	座学:和歌山市中央コミュニティセンター 実習:和歌山県紀美野町・岩出市・有田川町・日高川町・田辺市・みなべ町・すさみ町	

「樹名板設置事業」(A-87)

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

地域住民や児童などが樹木に親しみ、樹木を大切にすることを養うことのできる環境を整備するため、公園や学校などの公的な場所の樹木に樹名板を設置する団体等に対し、県産材を活用して製作した樹名板を交付する。

2. 活動の成果

公園などの公的な場所の樹木に、県産材による樹名板を設置することで、地元住民や子どもたちに、県産木材の用途の普及や樹木の名前を覚えてもらうことで、樹木に親しみ自然を大切にすることを養うことができた。

3. 参加者の声

- ・学校等の校地内の樹木に樹名板を設置したことで、子ども達が樹木に興味を持ち始め、学習にも活用しています。
- ・公園や公的施設に設置したことで、利用者に高評価をいただきました。

実績報告とりまとめ表

実施時期	月 日	計	備 考
事業量			
参加者数	人	人	
実施場所	鳥取県内4市町5箇所109枚		

「木工工作キット配布事業」(A-88)

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

県産材を使用した木工工作キット、杉板を配布し、小・中学校の児童・生徒に木材に触れ親しむ機会を作り、木材の良さの普及と木材需要の拡大を図る。

2. 活動の成果

鳥取県産の杉板、木材キットを使用することで、木に触れることにより、木の持つ独特の柔らかさ、温かさ、加工のしやすさや組立ての難しさ等感じることができた。

3. 参加者の声

- ・鳥取の木は木目がきれいなので、木目を生かした本立てにしました。間伐材を使っていると聞いたので、いらなくなった木が自分の本棚になっているのはいいことだと思いました。
- ・設計図どおりにはめていったけど、ゆがんでいて難しいと思った。
- ・木目がきれいですべすべしたきれいな木でした。釘打ちや組み立て、ニス塗りをしました。工作するのは楽しかったです。
- ・釘を打つ場所に目印の穴が開いていたので、簡単に釘打ちができました。
- ・本を置くスペースが増えてうれしいので、早く持ち帰って使いたいです。
- ・やすりがけをすると木がつるつるして、気持ちよかったです。
- ・自分だけの本立てが作れてうれしかったです。
- ・ニスで色を付けたら想像したよりも明るい色になった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	月 日	計	備 考
事業量		1,038組	
参加者数	人	人	
実施場所	鳥取県内29小・中学校		

「森林空間活用推進事業」(C-37)

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

神社の境内及びその周辺に季節を色や香りで感じる事の出来る樹木を植え、神社に緑を取り戻し、参加者の森林空間を大切にしようという意識を育てる。

2. 活動の成果

参加者の森林空間活用や環境づくりの重要性認識について認識が深まった。
また、自らが植栽を行った神社に愛着をもち、作業後も森林空間を活用してもらうことが期待できる。

3. 参加者の声

地域住民の遊び場や憩いの場となることが期待できる。

実績報告とりまとめ表

実施時期	12月5日	備考
事業内容	神社の境内及びその周辺に蠟梅、モクセイ、イロハモミジ、イムラモミジ、サカキを計35本植える。	
参加者数	24人	
実施場所	鳥取県鳥取県東伯郡北栄町326-1	

「青少年・民間活動グループ育成事業」(C-38)

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

木材の良さを多くの子ども達に知ってもらう活動を通じ、森林整備の重要性を認識してもらうことを目的とする。

2. 活動の成果

民間の任意団体等が自主的な緑化活動等を実施することにより、森林や環境への認識の度合いがより強くなり、また中核となる森林ボランティア育成にも繋がり、周りへの影響力も大きなものとなった。
木材の良さを子ども達に体験してもらい、木材需要・森林整備・緑化推進の意識が高まった。

3. 参加者の声

- ・難しくて上手くできるか不安でしたが、思ったより簡単に出来ました。
- ・すごく立派な机が出来ました。
- ・とても丁寧に教えていただきました。ありがとうございました。

実績報告とりまとめ表

実施時期	8月7日	備考
事業内容	親子木工教室の開催 A.机 B.イス C.小物入れ D.木箱セット	
参加者数	15人	
実施場所	鳥取県大山町	

「森の誕生日」2023事業（A-89）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

ふるさと森林公園の開園日である「4月29日」に、一般県民を対象に森や緑、木などの自然と触れ合う総合イベントを開催することにより、県民の森林に対する興味や関心を深めるとともに「緑の募金」のPRを行った。

4年ぶりの開催であったことから、新型コロナ対策にも配慮しつつ、従来よりも規模を縮小して開催したが、森の学びブースや森のとふれあいブースに多くの参加者があり、来場者が森林について学び、ふれあい、森林に対する関心を深めてもらうことができた。

会場をいくつかのエリアに分け、来場者が学び、触れ合い、体験できる場を提供した。

- ①学びのブース：森づくり活動団体等の活動紹介
- ②森とのふれあいブース：森づくり体験会、森とのふれあい講座
- ③ステージ：小学生による森のダンス、コンサート
- ④展示・ふれあい：はたらく車展示、移動動物園
- ⑤森のマーケット：アウトドア用品の展示・販売、野菜等の販売
- ⑥緑化苗木の配布、緑の募金のPR

2. 活動の成果

雨模様の天候となったが、家族連れなど2,000人の来場者があり、各ブースでの体験や展示等を通じて、森林への関心を深めてもらう機会となった。

また、イベント来場者へのPRはもとより、開催に向けてPRチラシを近隣市町へ配布することで、「森林保全の大切さ」や「緑の募金」認知度向上などの波及効果が期待される。

3. 参加者の声

- ・親子で気軽に参加でき、いろいろなブースがあり楽しく過ごすことができました。
- ・わかりやすい説明や小物づくりを通じて、森の働きや重要性についても理解ができました。
- ・いただいた苗木が大きくなるのが、楽しみです。

実績報告とりまとめ表

実施時期	4月29日	計	備考
事業量	1日		
参加者数	2,000名	2,000名	
実施場所	・島根県ふるさと森林公園（島根県松江市宍道町佐々布3352）		

緑の少年団育成強化事業（C-39）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

緑の少年団の育成や少年団相互の親睦と活動を促進するため、指導者講習会・活動発表大会・交流集会などを通じ、森林環境教育を推進することにより、子どもたちの「生きる力」を育む。

2. 活動の成果

●島根県緑の少年団連盟総会・指導者講習会

新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から総会はオンライン決議とし、指導者講習会もオンデマンド配信で実施した。指導者講習会は「しまねの森と林業を学ぶ」と題し、島根県の循環型林業をテーマに講義を実施した。34団37名が視聴。

●島根県活動発表大会・交流集会

自然体験活動や宿泊を伴う交流集会は取り止め、活動発表大会のみをzoomで開催した。審査員にのみ会場に集まっていたいただき、zoomで6団に発表していただいた。発表大会の様子はDVDにまとめ、県内すべての少年団（124団）へ配付し、発表団の活動を広く紹介することができた。

●全国緑の少年団活動発表大会

今年度「横田中学校緑の少年団」の「みどりの奨励賞（国土緑化推進機構理事長賞）」受賞が決定し、11月に大分県で開催された全国緑の少年団活動発表大会・全国育樹祭へ参加した。

その後、島根県知事・島根県教育長へ受賞報告を行い、県民への緑の少年団活動のPRにつながった。

3. 参加者の声

●指導者講習会

- ・「森林の働きについて」という内容は、5年生社会科に関わる内容で参考になった。
- ・林業機械の映像が大変勉強になった。
- ・「林業で働く先輩の声」が良かったので、今林業に携わっておられる方や農林高校などこれから林業をしようという方の、実体験や思いなどを聞けるとよいかもと思った。

●島根県活動発表大会

【審査員の感想】

- ・最優秀賞を受賞した「吉田中学校緑の少年団」は、森林学習、植樹活動、地域の未来を考える活動に明確な目的を持って取り組んでおり、ふるさと吉田町を誇りに思い愛着を持つ、このことが活動の中心にあるということが強く伝わりました。地域において、取り組みをさらに広げていただきたい。

【発表少年団の感想】

- ・発表を準備するにあたって、自然や人のかかわりを見つめ直す良いきっかけとなった。
- ・審査の結果を受けて、子どもたちはとても悔しがっていた。そこまで一生懸命話合い、準備をしてきたので、大変良い経験となった。
- ・事前に録画した発表を再生しての発表大会だったので、無駄な動きが少なくて良かった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	総会 6月29日 講習会 R5.1月18日～25日	7月29日	備考
事業量	島根県緑の少年団連盟 総会・指導者講習会	島根県緑の少年団 活動発表大会	(通年) 冊子・募金箱等配布 指導者研修教材配付
参加者数	県内少年団124団	審査員4名、発表6団	県内少年団124団
実施場所	島根県林業会館	島根県林業会館	

第21回森林を考える岡山県民のつどい（A-90）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

環境の世紀にふさわしい森林の保全や美しい森づくりを推進するとともに、林業の振興と地域材の需要拡大を図るため、基調講演、県民参加の森づくりの推進等のPR活動、木工教室、木工製品・地域特産品等の展示販売を行い、広く県民に森林の保全や美しい森づくりの推進と森林・緑・水に対する認識を深めてもらう場を提供する。

2. 活動の成果

基調講演では、島根大学名誉教授 山下晃功氏を招き、「カーボンニュートラル時代、木育の新時代を拓く」と題した講話を実施した。森林機能の重要性を通して、カーボンニュートラル社会の実現、脱炭素社会の実現に向けた取り組みについて学ぶことができた。また、聴講した県民にとっては森林・林業の大切さを考える良い機会となった。

さらに、木工教室や苗木の無料配布などによって、多くの県民が木に親しみ、木の魅力を知ることができた。

今後も、多くの参加者に地域産材の利用を紹介・推進し、県産材の利用向上につながるよう、取り組みを進めていきたい。

3. 参加者の声

- ・基調講演はとても分かりやすく、ためになった。
- ・木の大切さや森林機能の重要性がよく分かった。
- ・県南からグループで来ました。木工教室が良かったです。
- ・毎年楽しみにしていて、県南から参加しています。
- ・3年ぶりの開催とのことで参加しましたが、天気も良く、とても盛況で良かったです。

実績報告とりまとめ表

実施時期	10月22日	計	備考
事業量	1日		
参加者数	約1,500人	人	
実施場所	岡山県津山市大田920番地グリーンヒルズ津山		

岡山県木材組合連合会

県産木材フェア開催事業（A-91）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

岡山県産木材等の利用の一層の推進及び販路の拡大を図るほか、子供たちに木材や木製品とのふれあいを通じて木材への親しみや木の文化への理解を深めてもらうため、2会場で木工教室を開催した。

また、木材利用促進に繋げる取り組みとして、優れた木造建築のポスターを購入配布した。

2. 活動の成果

- ・大工や工務店・建築士等の指導により美作スギ・ヒノキを使用した本棚やイス作りを体験してもらった。
- ・指導者も経験を重ねることで参加者とのコミュニケーションがとれるようになった。
- ・学校を通じて参加者を募っているが、今後は、市内へ配布される広報誌を活用することや各種イベントに合わせて開催することも検討している。

3. 参加者の声

- ・親子でふれあいながら本格的な書棚・イスを完成することができた。(家族で参加)
- ・初めて参加したが、感動的な体験ができた。(女性)
- ・釘打ちは、最初は失敗することが多かったが、最後には上手にできるようになった。(小学生)
- ・とても良い思い出となった。(夫婦で参加)

実績報告とりまとめ表

実施時期	7月9日（土）	10月10日（祝・月）	備考
事業量	1日	2時間	
参加者数	親子等16組	親子等14組	
実施場所	真庭市勝山文化センター	真庭市落合総合センター	

第38回くらしき都市緑化フェア（A-92）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

地球温暖化による環境の破壊を止めるためには、今ある森林を保全し、美しい森づくりを推進する必要がある。そのためには、都市に住む人々にも、森林の機能や緑の重要性について、知ってもらう必要があり、森づくりの推進等のPR活動、各種木工教室、身近な木を使った小物づくり等を行い、広く人々に森林の保全や緑の重要性に対する認識を深めてもらう場を提供した。

2. 活動の成果

昨年に引き続き、好評であった樹木医による樹木観察会を実施したところ、幅広い世代に参加していただき、樹木についての関心や知識を深めることができた。

また、森づくりと緑の募金の紹介ブースでは、（一社）にいみ木のおもちゃの会による岡山県産材のおもちゃで遊ぶコーナーを設けていただき、小さなお子様に塗料を施さない無垢の木材の手触りの良さや匂いを体感していただいた。

さらに、庭木の剪定教室では、庭師からマツの剪定指導を受けることができることから、難しいとされているマツの剪定方法を熱心に学んでいた。

今後も、参加者に身近な緑の重要性を説明し、県産木材を身近に感じてもらえるような取組みを行っていきたく考えている。

3. 参加者の声

- ・コロナ禍でイベント中止が続く中、秋晴れのもと、樹木に触れ合うことができ、緑の持つやすらぎの効果のようなものを感じることができた。
- ・ちびっこ木工教室で触れた無垢の木の感触は、プラスチックや合板と違い、気持ちが落ち着くように感じました。今度、玩具を買う時は、無垢の積み木を選び、大切に使用していきたいと考えています。
- ・競り市では、お店で買う値段よりかなりお安く購入することができました。花や樹木は好きですが、購入して家で育てる程まででは無かったので、これを機会にお家の緑を増やしたいと思います。

実績報告とりまとめ表

実施時期	10月23日	計	備考
事業量	1日		
参加者数	2,379人	2,379人	
実施場所	岡山県倉敷市寿町12-1 倉敷みらい公園		

岡山県緑化推進協会

緑化普及推進事業（C-40）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

「みどりの少年隊交流集会」は、自然の中で共同生活と学習活動を通じて、緑の持つ重要性や必要性を学んでもらうとともに少年隊相互の交流を図ることを目的に、県内各地のみどりの少年隊が、岡山市北区建部町のU.A.ゼンセン中央研修センターに集い、自然探検（ネイチャーゲーム）や木工クラフト（スギ、ヒノキの小物入れ）づくりに挑戦した。

今年度は、3年ぶりに開催したが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、日帰りで実施した。

また、「みどりの少年隊指導者研修会」は、指導力の向上を目的に毎年、開催しているが、今年度は、県内の先進地である真庭市の脱炭素社会の実現に向けた取組み概要を市職員から説明を受けるとともに、CLTで建設された製材事業者の事務所、地域の間伐材・製材所からの端材等のバイオマス集積基地やバイオマス発電所を見学した。

その他、巨樹老樹名木の樹木診断調査は、令和2年に刊行した書籍「新岡山の巨樹老樹名木」の掲載樹木を大切に次世代へ引き継ぐために、昨年度から保存事業の参考にするために実施している。

春のみどりの月間を中心に、来年春期に開催される全国植樹祭の開催機運を盛り上げるため、PRグッズを作成・配布した。

2. 活動の成果

交流集会は、毎年、夏休み時期に1泊2日で開催していたが、新型コロナウイルス感染症の拡大により、2年間中止となったが、今年度は、感染症拡大防止対策を図り、また、日帰りで開催することが出来た。

来年度も状況を見ながら1泊2日の開催に向けて準備したい。

指導者研修会は、例年、交流集会開催に向けての研修施設の確認や子供たちへのプログラムの事前研修等を行っており、これまで、森林・林業の現場を体験することがなかなか出来なかったことから、森林・林業・環境対策への先進地である県北の真庭市で開催されている真庭バイオマスツアーに参加した研修会を開催した。今後も森林・林業の現状を知ってもらうための研修会を取り入れたい。

巨樹老樹名木の樹木診断調査は、1年間に数本しか実施できないため、樹木の状態や地元地域の要望など、調査の優先順位を勘案し、効果的に実施したい。

3. 参加者の声

- ・交流集会では、学校行事が中止される中、みんなと屋外で楽しく活動が出来てよかった。みんなとバーベキューが出来てよかったとの声が多かった。
- ・指導者研修会では、これまでと違った研修で、市町村や企業でのカーボンニュートラルやSDGsの取組みを直接聞けて大変勉強や参考になったとの意見をいただいている。
- ・巨樹老樹名木の診断調査では、市町村から専門家の診断調査と今後の保存に向けての事業の参考になると喜ばれている。

実績報告とりまとめ表

実施時期	8月20日	6月9日	8月～5月	備考
事業量	みどりの少年隊交流集会の開催	みどりの少年隊指導者研修会の開催	岡山の巨樹老樹名木樹木診断調査	
参加者数	53人	21人	9人	
実施場所	岡山市北区建部町	真庭市久世 ほか	県内3ヶ所	

令和4年度「緑と水の森林ファンド」事業（A-93）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

自然に親しむとともに、その恩恵に感謝し、豊かな心を育むという主旨を踏まえ、身近な緑とのふれあいや郷土の自然を学ぶことを通じて、みどりを「つくり」「守り」「育てる」意識の醸成を図るため、みどりの効用を体験するイベントを開催した。

体験ブースにおいては、①寄植教室、②粘土で遊ぼう、③自由工作塾、④たね団子を作ろう、⑤親子木工教室、⑦空から森林を見よう、⑧森の安全作業を学ぼう等を開催し多くの家族連れで賑わった。

また、販売ブースにおいては、①地元加工品、②草花販売等を開催し、好評を博した。

展示コーナーにおいては、広島県、広島県みどり推進機構、「森林づくり活動・森林の働き」に係るパネル展示及び当該展示に係る質問並びに各種相談会が催された。

感染防止対策として、各ブースに消毒液を設置。

2. 活動の成果

森林ボランティア団体・林業関係団体・広島県緑化センター等が、一体となって「みどりの集い」を実施した結果、多くの一般県民の参加があり、森林・緑に対する県民の関心と理解を深めることができた。

好天に恵まれ、新緑も重なり、約2000人の県民の方々に参加していただいた。本年度第26回の開催となり、多くの県民が家族連れで楽しむイベントとなっている。

3. 参加者の声

粘土細工等の体験ブースについては、大人・子供を問わず一生懸命取り組まれていた。作品が家庭に持ち帰り、使えることがメリットであると喜ばれた。

寄植教室については、直ぐに定員オーバーになるなど、根強い人気を感じられた。

体験ブースでは、テント内で多くの家族連れが作品づくりに熱心に取り組み、今後も継続を求める声が多かった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	4月30日	計	備考
事業量	10:00 開会式 各種行事を実施 15:00 閉会式		
参加者数	2000人	2000人	
実施場所	広島県広島市東区福田町 ひろしま遊学の森「広島県緑化センター」		

広島県木材組合連合会

ひろもくデザインアワード開催事業（A-94）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

広島工業大学の「建築分野における木材利用研究センター」と協働し、産学連携の下で地域材の需要拡大や人材育成のための効果的な手法の実証を目的に「ひろもくデザインアワード」を開催。木製ベンチのデザイン募集やベンチの試作、優秀作品の表彰、ベンチの試作、公共施設等への展示活用、デザイン集の発行を通じて、地域材利用に関する人材育成や、県民への木材利用促進キャンペーンを総合的に展開した。

2. 活動の成果

デザイン募集では、小学生の部に81点、一般の部に11点の応募があり、安全性や機能性などに配慮した作品も多く、試作ベンチ13点については、展示活用した施設から感謝の声や感想が多く寄せられるなど、木材利用の機運醸成や県産材に目を向けて利用拡大に取り組む人材の育成と繋がった。

今後の取組としては、イメージが固定化されつつある「木製ベンチ」の募集の仕方を更に見直すなど、新たなデザイン発想の下で、木の良さに対する理解を一層深め、木材利用の促進、人材育成とともに、「国民参加の森林づくり」運動の展開に取り組む。

3. 参加者の声

《デザイン応募者》

- 自分が賞を取ったことにもびっくりしたけど、応募した絵と同じデザインのベンチが学校に届いたときはもっとびっくりしました。木でこんなにそっくりなものができるとは思いませんでした。(小学生)
- 木材でベンチを設計して実際に作る体験をしたことで、木材の加工のしやすさや、やわらかいイメージを実感することができました。これからも木材を使うことを考えながら勉強をしていきたいです。(大学生)

《展示活用施設関係者》

- ベンチを寄贈していただき、ありがとうございます。設置したとたんに子どもたちがたくさん集まってきて、交代で座っていました。先生方も木でできていると優しいイメージがあるねなどと話していました。(小学校教頭先生)
- このたびは素晴らしいベンチをいただき、ありがとうございます。木のぬくもりや製作された学生さんの暖かな気持ちが強く感じられ、改めて木の良さに気づかされました。(施設管理者)

実績報告とりまとめ表

実施時期	7月1日～9月30日	10月30日	4年3月～	備考
事業量	木製ベンチデザイン募集	審査委員会	ベンチ展示活用13点	
参加者数	200人	11人	約1,000人	
実施場所	デザイン募集範囲県内23市町			

緑の少年団交流集会開催事業（C-41）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

新型コロナウイルス感染防止のため、Webによる活動発表会を開催した。

また、緑の少年団の活動を支援するため、活動の参考となる図書を配布して、少年団員各自が自主的な活動を行うことの助けとする。

この取組みを通じて、少年団員の自律・友愛・協同・奉仕の心を養う。

2. 活動の成果

他の少年団の活動内容をまじかに聞いて、これからの活動に活かすことができた。

活動を通じて、自然を愛し、仲間を愛するなど、心豊かな人間を培うことに寄与する。

3. 参加者の声

新型コロナウイルス感染症の影響により、活動が制約されている中、活動の助けとなるとの感謝の声を頂いている。

実績報告とりまとめ表

実施時期	8月	10月	計	備考
事業量	Webによる活動発表会	図書の配布		みどりのおもしろ発見ノート（4年生） みどりの手帳（5年生）
参加者数	20人	1,161人	1,181人	
実施場所	広島県内			

都市と山村ふれあい交流促進事業（C-42）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

林業研究グループ会員が都市住民を対象に森林をフィールドとした自然体験等の交流活動を実施することにより、都市住民に対する森林の重要性や森林整備の重要性の理解促進を図る。

2. 活動の成果

森林林業体験、木工体験、椎茸駒打ち体験、学習会等を通じて、都市と山村の住民が交流を図り、森林の持つ役割や林業の重要性について理解が図られた。今後も事業の継続を望む。

3. 参加者の声

- ・身近な場所で貴重な体験ができ楽しかった。また参加したいので、今後も続けて欲しい。
- ・地域の皆さんと一緒に交流ができ、森林や林業についても理解が深まった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	9月23日～3月4日		計	備考
作業内容	6林業研究グループが6箇所 で森林林業体験等を実施			
参加者数	県内	482人	482人	
	県外	人	人	
	計	482人	482人	
実施場所	山口県岩国市、下松市、山口市、美祢市、長門市			

森林体験学習支援事業（A-95）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

山口県が山口県林業研究グループ連絡協議会と連携して実施する森林体験学習に参加した県内小中学校の児童生徒及び指導者に学習教材を配付し、森林環境教育・森林E S Dの促進を図る。

2. 活動の成果

山口県が山口県林業研究グループ連絡協議会と連携して実施する森林体験学習会に参加した県内小中学校40校の児童生徒及び指導者等926人に「みどりの手帳」等を配付し森林体験学習会を行った。

自然環境の保全や緑化推進の重要性について理解が深まり森林環境教育・森林E S Dの促進を図ることができた。

3. 参加者の声

- ・児童達はみどりの手帳を手にして熱心に体験学習に取り組んでいた。
- ・森林や自然に関する新しい発見もあり、興味深く学習する児童生徒の姿が見られた。

実績報告とりまとめ表

実施時期	5月10日～2月28日		計	備考
作業内容	40小中学校で森林体験学習を実施 学習教材を配付			
参加者数	県内	926人	926人	
	県外	人	人	
	計	926人	926人	
実施場所	山口県 岩国市、柳井市、周防大島町、下松市、光市、周南市、山口市、美祢市、宇部市、山陽小野田市、下関市、長門市、萩市			

記念の森造成事業（C-43）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

植樹、保育等の森林整備、地域住民や児童生徒を含めた植樹祭等、記念の森の緑化活動を通じて、緑化思想の高揚と緑化運動の推進を図る。

2. 活動の成果

県内の5箇所において、子どもを含めた地域住民519名が参加し、記念植樹や植樹イベント等を開催し、緑化思想の高揚に成果があった。この事業は地域住民のコミュニケーション、連携を深める機会ともなっている。事業要望も多く継続していきたい。

3. 参加者の声

- ・貴重な体験ができた。今後も続けて欲しい。
- ・夏の草刈り作業が大変ですが、記念植栽した苗木の生長が楽しみです。
- ・自分が植樹した森が、将来どのようなようになるか楽しみです。

実績報告とりまとめ表

実施時期	9月1日～3月17日		計	備考
作業内容	県内5箇所では記念の森を造成、植樹、森林整備等実施			
参加者数	県内	519人	519人	
	県外	人	人	
	計	519人	519人	
実施場所	山口県周防大島町、山口市、萩市			

企業の森づくり普及啓発イベント（C-44）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

豊かな森林を次世代へ引き継ぐため、企業・団体から「緑の募金（使途限定募金）」をご寄付いただき、森林整備を実施している。支援いただいた企業・団体に対し植栽や間伐、木育や森林教室などの体験イベントを開催し、森林の機能や役割など重要性を認識いただくことを目的とし実施している。植栽活動では、今までと違った獣害防除のチューブラーの設置を行い、指導者から設置方法・以前使用していたシェルターとの違いや利点などの説明を受け実施した。また、地元林研グループによる、木工クラフトや炭アレンジメント、クロモジでの楊枝作りなど、コロナ以降縮小していた地域住民との交流を行った。別のイベントでは、自らが育てたどんぐり苗の生育状況の確認や、成長した植栽木の間隔を確認し、印付けや植替えを行った。その他、低木や広葉樹の植栽・除伐などを実施し、除伐した枝を使って、ネックレスやキーホルダーなどを作った。

2. 活動の成果

参加者がどんぐりを拾ってから3年が経過し、成長した苗木と記念撮影を行うなど苗木の成長を家族で見守っている。今後も成長に必要な下刈りなど成長過程に必要な作業を体験し学んでいただきたい。

今年度は子供の参加者も増え、家族で協力して取組み、学び、この活動が緑の募金を活用し行っている森林整備であることをPRし、森林を未来へと繋ぐ活動として、多くの参加者に根付き理解を得られている。

また、活動地域では、日常ではあまり経験できない森づくりに参加することで、森づくりの大切さや難しさを体験、企業側は、植樹活動を通じて地域活性化に貢献でき、お互いに意義のある活動となっているため、今後も継続して取り組んでいきたい。

3. 参加者の声

○初めて植栽をした。1本1本にシェルターを被せるのは大変だが、動物の被害にあわないためには必要な作業なんですね。来年も参加して成長を見たいです。(男性30代)

○どんぐり苗が去年植えた時より太く・大きくなってうれしかった。(小学生)

○天候も景色も良く、普段味わえない環境の中で植樹活動ができ、森を作る難しさ・大切さを感じられた。(女性40代)

実績報告とりまとめ表

実施時期	6月4日	11月19日	計	備考
事業量	植栽・チューブラーの設置 1,050本	植栽 350本 植替え・除伐	植栽 1,400本 植替え・除伐	
参加者数	110人	86人	196人	
実施場所	徳島県三好市・美馬市			

緑化普及活動事業（A-96）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

(目的)

森林・緑・水に対する県民の認識を深めるための普及啓発活動を行うとともに、森林ボランティアや緑の少年団の活動を支援した。

(内容)

- ① どんぐり銀行活動を通して県民の森づくりへの関心を深めるために、「どんぐり預金」を実施し、預金高に応じて苗木やグッズ等を預金者に払い戻した。
- ② 県が10月に開催した「森とみどりの祭典」において、緑の少年団の活動発表やパネル展示を行うなど、緑の少年団の活動を支援した。

2. 活動の成果

今年度もまだコロナ禍の中、熱心な県民（小学生・保護者等）に「どんぐり銀行」や「森とみどりの祭典」に参加していただき、森づくりへの理解と関心を深めてもらうことができた。

今後とも、県民参加の森づくりを推進するため、森（里山）に親しむ体験の場を提供して行きたい。

3. 参加者の声

①（どんぐり銀行）

「森林の大切さを認識したので、苗木が早く大きくなるように大切に育てたい。」

「どんぐり銀行は、森林・里山へいざなういい機会になった。」

②（森とみどりの祭典）

「緑の少年団の発表やパネル展示を通して、少年団の活動や環境、森林の大切さがよく分かった。」

実績報告とりまとめ表

実施時期	年間	10月9日	備考
事業量 (内容)	どんぐり銀行活動	「森とみどりの祭典」	
参加者数	2,308人	60人	
実施場所	香川県内一円		

木工作品製作キット配布事業（A-97）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

【目的】

木材の利活用を促進するため、次代を担う小中学生を対象に、県産材を使用した木工作品製作キットを提供し、実際に木に触れ加工することで木の良さを知ってもらい、県産木材の利用拡大を図る。

【内容】

県内の木材加工業者が県産スギ材で作製した本立てのキットを、総合的学習の時間やクラブ活動、図工の時間等で、製作希望のある県内小中学校へ配布した。

2. 活動の成果

木材加工の製品づくりの前段階として、県産材の木製品を活用し、下穴開け、組み立て、やすり掛け、仕上げ作業（ニス塗や焼き板等）を行ったことで、木材になるまでの過程や林業に携わっている人の思いや苦労を想像し、実感してもらうことができた。森林を受け継ぎ、後世に残すことができるように、今、自分たちができることをしていきたいという気持ちを高めることができた。

今後も、子供の頃から木に触れ合うことによって森林や林業に興味を持ち、関わりを持ってもらえるよう、継続して事業を実施していきたい。

3. 参加者の声

- ・木が割れないように、釘を真っすぐ打つことを頑張った。
- ・木を差し込んだりボンドで接着してから釘を打ったので、上手にできたと思う。
- ・紙やすりで角を丸めると、肌ざわりが良くなった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	7月～10月配布 7月～製作	計	備考
事業量	4,546セット	4,546セット	
参加者数	4,546人	4,546人	
実施場所	愛媛県内の小中学校		

愛媛の森林友の会育成及び現地研修会開催事業（A-98）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

【目的】

県民に森林・林業についての知識を向上させ、理解を深める。

【内容】

- ・えひめ森林公園森林散策の実施（令和4年11月5日）
愛媛森林管理署の協力を得るとともに、「えひめ山の日の集い」併催行事と併せての森林散策を行った。

2. 活動の成果

「えひめ山の日」の周知に寄与するとともに、森林を散策することで、森林が生み出す綺麗な空気、川、水を体感し、森林の良さを身体全体で実感してもらうことができた。そして、この森林を保全することの必要性を理解してもらうことができた。

今後も、森林と触れあう活動を通して、森林保全、森林資源の活用について、広く一般県民に普及啓発していきたい。

3. 参加者の声

- ・ガイド付きの森林散策で、美しい紅葉や景色を楽しむことができた。
- ・樹木の解説などをしていただいて、知識を深めることができた。

実績報告とりまとめ表

実施時期	11月5日	計	備考
事業量	1回	1回	
参加者数	10人	10人	
実施場所	伊予市上三谷		

土佐の名所の樹木活性化事業（A-99）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

憩いの場や桜の名所等の再生を図り、地域の活性化と樹木の保護・育成の普及啓発のため、高知県内3カ所で樹木の手入れ等を行った。

- ①三原村星ヶ丘公園にて、アジサイの剪定講習および整備作業
- ②四万十町十和にて、衰弱したクスノキの大木の処置および樹勢回復のための作業
- ③中土佐町大坂地区の桜並木の手入れ

2. 活動の成果

今回の活動により、多くの人に愛される場所で樹木の手入れを行うことができ、樹木の保護・育成や景観整備に寄与できた。四万十町では、衰弱したクスノキが危険な状態だったが、手入れにより近隣住民が安全に生活できる環境を整えることができた。参加者の中には他の地域で自主的に桜の手入れ等を行っている人もおり、県内で樹木の保護・育成活動が広がっている。地域住民と協力して活動できたことで、今後も継続して手入れができる体制を整えることができた。

3. 参加者の声

- ・広い公園の整備は大変だろうと思っていたので、作業に参加してお手伝いできて良かった。
- ・作業を終え、明るくなった公園を眺めて嬉しくなった。今まで以上に散歩に行きたいと思う。
- ・台風で折れたクスノキの枝が近隣の住宅の屋根に落ちる被害があり、電線切断の危険もあったので、今回の作業で安全を確保することができて良かった。
- ・大坂地区の桜の手入れに10年ほど前にも参加しましたが、久しぶりに桜を見て、すべての樹が手入れが必要な現状に驚いた。県下でも有数の桜の名所なので、是非再生に協力したいと思った。

実績報告とりまとめ表

実施時期	7月23日	11月23日	1月22日	計
事業量	三原村星ヶ丘公園アジサイの剪定講習および整備作業	四万十町十和クスノキの手入れ	中土佐町大坂地区の桜の手入れ	
参加者数	29人	10人	77人	116人
実施場所	三原村、四万十町、中土佐町			

森のようちえん推進事業（A-100）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

県内で森のようちえん等の自然体験活動が広まり、子どもたちが質の高い自然体験の機会を得られるために、高知市「アジロ自然の森」でイベント型の森のようちえんを開催した。実施に当たっては、自然の中で子どもが伸び伸びと遊ぶことで豊かな感性や好奇心が芽生えるように、過保護にならない見守りをボランティアが行った。また、子どもたちの自然体験のみならず親への普及啓発や指導者育成を視野に入れて行った。定期的なフィールド整備を行い、安心して遊べる環境整備を行った。

2. 活動の成果

自然に囲まれた高知県でも安心して遊べる森は少なく、自然を活かす少手を加えることで安心して遊べるフィールドを確保し、継続的な自然体験活動を行うことができています。気軽に遊べる「森」にはイベントがない時でも地元の子どもたちや少人数の家族連れなどが遊びに来ており、気軽に自然体験できる場を提供することができた。今年度は雪による倒木を利用して親子を対象に原木しいたけの駒うちを行い、森林資源の活用についても伝えることができた。

3. 参加者の声

- ・ゴミをなくす活動には根気がいると感じた。きれいになった広場で流しそうめんの体験ができて良かった。
- ・いつ参加してもきれいに森が整備されていて、安全でありがたいです。
- ・体験を通して、自然の中で遊び、安全、危険への加減を学んだと思う。
- ・山桜の新芽を初めて食べた。山菜も少し苦みがあったが子どもがおいしく食べていた。

実績報告とりまとめ表

実施時期	7月～3月	7月17日	10月2日	3月20日	5月8日
事業量	アジロ自然の森のフィールド整備・遊具の修繕	アジロ山を綺麗にして森で遊ぼう	ノコギリ体験で明るい森作りを	春の息吹を探そう	森のようちえん新緑を楽しもう
参加者数	のべ80人	32人	33人	65人	16人
実施時期	6月4日				計
事業量	森のようちえん竹とんぼで遊ぼう				
参加者数	58人				のべ284人
実施場所	高知市				

高知県森林インストラクター養成講座（A-102）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

森林に関する幅広い知識や技術を持った森林インストラクターの養成を図ることで、体験活動や自然観察、森林づくり等を通して、森林・林業に関する正しい知識を一般県民等に広く普及啓発する人材を育成する。

今年度も県内で活動する団体「高知県森林インストラクター会」が実施主体となり、森林に対する幅広い知識、技術を習得するため、「森林」「林業」「森林内の活動」「安全及び教育」の4分野の講習及び実習を全7回で実施した。講座内容は、全国森林レクリエーション協会の実施する「森林インストラクター」の受験に対応できるものとし、講座修了者には養成講座修了証を発行した。修了証書（写）提出により、森林インストラクター資格試験の二次試験「実技」が免除される。

2. 活動の成果

過去の受講生がスタッフとして参加し、知識と技術の向上を図っている。これまでの受講生のうち5人が令和4年度の森林インストラクター資格試験に合格した。森林・林業分野における指導者の育成となっており、今後の普及啓発の広がりが期待できる。

3. 参加者の声

- ・植物図鑑の検索方法など、ちょっとしたコツを学ぶことができたところが非常に役に立った。
- ・講座を通して森への視野が広がり、興味の幅が広がった。
- ・森林・林業の奥深さを実感することができた。
- ・多くの知識と経験が役に立つことを身をもって感じる事ができた。

実績報告とりまとめ表

実施時期	7月～2月
事業量	森林インストラクター養成講座 (全7回)
参加者数	12人
実施場所	高知県高知市、香美市

地域の森林整備事業（C-45）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

県内のボランティア団体や地域住民により、緑の募金等で植樹が行われた場所の草刈り等を行い、憩いの場の維持管理や景観整備を行った。

2. 活動の成果

緑の募金で植樹した場所は公園など近隣住民の憩いの場となっており、維持管理をすることで地域の活性化に貢献できた。また、アジロ自然の森は定期的に森のようちえんフィールドとして活用されており、樹木が順調に成長している様子を子どもやその保護者に実際に見てもらい、手入れの大切さを伝えることができる。

3. 参加者の声

- ・季節ごとに花や紅葉を楽しみながら散策できてうれしい。
- ・下草や樹木の勢いで桜が負けてしまいそうだが、毎年草刈りをしているので植樹した桜が根付き、元気が出てきた。あと少しで開花できそうです。

実績報告とりまとめ表

実施時期	8月6日、10日	8月2日、9月30日	計
事業量	約0.4haの草刈り作業	約0.3haの草刈り作業	
	アジロ自然の森	清水農村公園および周辺緑地	
参加者数	のべ5人	のべ5人	のべ10人
実施場所	高知県高知市、吾川郡いの町		

森林ふれあい交流（A-103）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

- 四王寺山森林浴ウォーキング 森林とふれあいながら歴史のロマンを感じ、特別史跡「大野城跡」や森林の大切さへの理解を深めるとともに、森林浴による心身の健康促進を図る。
- 親子木工教室 木工製品を組み立てることで、木材の良さ、自然の大切さを感じてもらおうとともに、共同作業を通じて親子の絆を深める。
- 写真展 福岡の自然と四王寺山にかかわるものと題して、一般の方々から募集することで、写真を通じてその対象物への認識や愛着を深めてもらうとともに、これらの作品を展示公開することで、見学される方々にも同様な意識を広げていく。
- 里山生活体験 野外研修場で枯枝や落葉を集め火起こしなどの野外活動を行い、昔の里山の生活が無駄なく資源を利用していたこと学ぶ。
- 森の恵みで作るクリスマスリース 園内の針葉樹や常緑樹の葉を使ってリースを作り、森の恵みの大切さ、森林の循環環境を感じてもらおう。
- 冬の生きもの観察 冬の野山の樹木（冬芽）、草花、鳥などを観察して、その生態を学ぶ。

2. 活動の成果

- 四王寺山森林浴ウォーキング 歴史や自然を同時に学び、人の営みと自然を考える端緒になった。
- 親子木工教室 多くの親子と一緒に笑顔で作業を楽しみ、自然も木材の香りや温もりに触れながら、森林の大切さも感じてもらえた。
- 写真展 展示を見て、四王寺山の生きものや歴史を身近に感じてもらう。
- 里山生活体験 枯枝や落葉を集め火起こしをして、資源の再利用を通し地球温暖化防止などを学んだ。
- 森の恵みで作るクリスマスリース 針葉樹や常緑樹を使ってリースを作り、森林の二酸化炭素吸収を学びました。
- 冬の生きもの観察 野鳥やカエルの卵のほか、樹木が冬には葉を落とした後、春に命を躍動させるため準備をしている様子を学んだ。

3. 参加者の声

- 森林浴ウォーキング 森林浴により心身の安らぎを感じるとともに、歴史ロマンを満喫した。
- 親子木工教室 木工キットを組み立てるのが楽しく、木の香りや木材の心地よさを感じました。
- 写真展 四王寺山の野鳥や歴史、沿線の移り変わりや福岡の花々など、とても楽しめました。
- 里山生活体験 親子で焚き火台を使って火おこし体験などはしたことがなかったので、枯れ葉や薪の煙の匂いを初めて感じました。昔の里山の生活を少し体験できました。
- 森の恵みで作るクリスマスリース 針葉樹や木の実など自然の豊かさを感じながらとても素敵なリースができました。
- 冬の生きもの観察 鳥の鳴き声や植物を見つけて、冬の森を歩くこともとても楽しいものだと思います。

実績報告とりまとめ表

実施時期	10月22日	11月3日	11月13日～ 12月11日	11月19日	12月10日	1月21日	計	備考
事業量	四王寺山森林浴 ウォーキング	親子木工 教室	写真展	里山生活 体験	森の恵みで作る クリスマスリース	冬の生きもの 観察		
参加者数	116人	83人	1,000人	29人	37人	30人	1,295人	
実施場所	福岡県 宇美町							

グリーンフェスティバル2023 (A-104)

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

多くの県民が直に緑に接し、緑環境・利用を体感する事や森林の機能を学習することによって、緑・森林の役割・利用および保全の重要性について認識を深め、気候変動対策や緑と水の豊かな郷土作りを通してSDGs「陸の豊かさを守ろう」の普及啓発を推進することを目的として、令和5年(2023年)5月21日(第3日曜日)に、「グリーンフェスティバル2023」を開催した。

緑や木材および植木に身近に触れる機会を増やすため、緑化センター内で新たにロープアスレチックを実施し、従来の軽トラ植木市、寄せ植え作り、ハンギングバスケット作り、香りのワークショップ、樹木探偵団、木工体験などとともに取組んだ。

2. 活動の成果

晴天に恵まれ、朝から大勢の参加者が来場し、様々な緑の関するイベントを体験することで、緑への関心や大切にすることを醸成することができた。

子どもや親子を対象とした間伐材を利用した親子丸太切り競争では、親子で直接丸太に触れて、木材の堅さ手触りを体感できるだけでなく、樹木を利用したロープアスレチック、ツリークライミングでは参加希望者も多く大変好評で樹木と親しむ場を提供できた。また、木工体験、竹工作では用意したキットがほぼ無くなるなど非常に盛況で、参加者は木材や竹の利用について体感できた。ハンギングバスケット展示では華やかで多くの鑑賞者が見られた。ハンギングバスケット作りや寄せ植え作りは参加希望者も多く、用意したセットが完売し、緑を手にとって体感する場を提供できた。

参加者に緑への関与を自覚してもらうため、昨年に引き続き花苗配布を募金方式としたが、用意した花苗・花木は全て配布でき緑への関心を高めることができた。さらに、今年新たに実施した大声大会では、緑に包まれた環境の中で子ども・大人ともにのびのびと声を出し、日頃のストレス発散ができたこと好評であった。

軽トラ植木市では、生産者と購入者が木の特徴や植栽・管理方法について、樹木医も交えて直接対話する機会となり、生産者、購入者ともに好評であった。また、香りのワークショップでも、新たな緑の効用を体感し、さらなる緑への関心をアピールできた。

これまでも増して、多くの参加者に森林・緑・水の大切さを伝え、体感してもらい理解してもらえることが出来る好適な催しであるため、今後も、活動目的に沿って続けていく必要がある。

3. 参加者の声

- ・子どもが楽しみにしていて朝早く起きたいました。よかったです。(大人女性参加者)
- ・花苗のプレゼントがあってよかった。(緑の募金者)
- ・子どもイベントがあって楽しみです。(大人女性参加者)
- ・子どもたちも樹木探偵団やスケッチの参加を楽しんでいました。(大人女性参加者)
- ・大声大会を楽しみに来ました。(小学生低学年参加者)

実績報告とりまとめ表

実施時期	令和5年5月21日(日)	備考
事業量	100%	
参加者数	5,500人	
実施場所	久留米市田主丸町益生田(福岡県緑化センター)	

第31回世界子ども愛樹祭コンクール (A-105)

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

緑豊かな森の恩恵を受け清き水のふるさとである杣の里矢部村は、人間のふるさとといえる環境を保っている。矢部村、日本国内、海外においても、地球温暖化による異常気象、それに伴い森林の荒廃など様々な異常が各地で発生し、地球破壊にもなりかねない様子で対応が必要になっている。

愛樹祭では、森との共生により培われる豊かな人間性を育みつつ自然環境を守ることを題材とした詩・作文・絵画・木はがきの作品を募集する事で、子ども達が地球環境に対する関心を持つことを目的とする。

今回で32回目を迎える「世界子ども愛樹祭コンクール」事業を通して未来へと続く自然や郷土愛を育むことができた。

これまでに世界24ヶ国・国内46都道府県より絵画54,571点、詩・作文19,447点、木はがき9,501点、作品累計83,519点、32回までの受賞者記念植樹は400本を越えた。

4年ぶりの授賞式・記念植樹の開催で、今回、遠くは徳島・愛媛からの参加もあり、盛会裏に終える事が出来た。

2. 活動の成果

- ・4年ぶりに開催される式典への受賞者として遠路より参加出来たことが嬉しい。
- ・記念植樹のシャクナゲを見にきたい。
- ・授賞式で、地元の学生の方による歓迎の唄が印象に残った。

実績報告とりまとめ表

実施時期	12月11日	1月17日	3月26日	3月26日	計
事業内容	一次選考会	最終選考会	授賞式	記念植樹	
参加者数	25名	7名	270人	46名	348名
実施場所	福岡県八女市	東京都	福岡県八女市	福岡県八女市	

第10回もりもり広がる森林づくり (A-106)

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

糸島市民・環境ボランティア団体の協力を得て、真名子水源地の跡の工事後のガレ場で小さなマダケ等も生え下層が藪となった場所を水源涵養機能を多く有する広葉樹林として育て、一般市民が森林浴や自然観察会等が開催できる場としたい。

敷地約600㎡ 約600本以上 集客予定人数150名を目指す植樹会を実施する計画であったが、国・県・市の新型コロナ対策の外出自主規制、度重なる緊急事態宣言・蔓延防止重点処置等のより、一般参加集客を急遽中止し、内容を一部変更して実施した。

また、当初計画地はマダケの切り株が多く、参加者のケガの心配がされたため、近隣のスギ伐採跡地700㎡ 本数650本の規模に変更した。

加えて、日程の2月18日は雨天予報となったため順延とし、2月23日に会員、協力団体及び関係者の方々と植栽を終えた。

2. 活動の成果

スギの伐採跡地が生物多様性に富む森となるよう期待して、落葉広葉樹を中心にクヌギやクリなどを植栽した。

将来子供たちが入山しやすいカブトムシの森として、また、野外活動の一環として椎茸原木づくりの活用も期待できる。

近隣のキャンプ場を中心に地域の森林環境教育の拠点として、また、地域の森林ボランティア団体等の交流の場としての活用が期待できる。

3. 参加者の声

森林ボランティア団体と林業専門団体である森林組合との合同の作業は、相互理解を深めるとともに技術の習得ができ、今後の活動の参考になった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	2月14・17・18日	2月23日	計	備考
事業量	14・17日イベント準備作業 (資機材搬入・搬入・配置) 18日雨天資機材撤去	第10回もりもり広がる 森林づくり本番	650本の植樹	
参加者数	19人	19人 (内4名協力団体)	38人	
実施場所	福岡県 糸島市二丈福井木の香ランドキャンプ場周辺部			

花立山の里山保全事業 (A-107)

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

花立山(標高130.5m)は小郡市内で唯一の里山であり、この山が持つ自然、歴史、景観などの魅力を市民全体で共有し、この山を守り育てることで地元及び都市住民の連携が深まり、里山の保全の醸成を育むことを目的としている。内容は、下草刈り作業及び除伐、植栽作業、里山の自然と歴史散策及び木工教室等を実施した。新型コロナの感染拡大に伴い、令和4年は、下草刈り作業、除伐及び里山教室を実施し、令和5年は、下草刈り作業、除伐、植栽作業及び木工教室を実施した。

2. 活動の成果

下草刈り作業、除伐作業及び植栽作業は、山麓を中心に行っていたが、昨年に引き続き、山頂付近の除伐が行われた地区でヤマサクラの植栽作業、除草、除伐を実施した。この作業について、地元干潟区の住民の方に参加していただいた。今後は山頂付近の保全作業にも力を入れ、下草刈り作業を含めた保全作業を進めていきたい。

3. 参加者の声

- 初めて参加された方からは、植栽作業は足元が悪い箇所でもヤマサクラの植栽ができたことは、これからは、サクラが大きくなり花が咲くまで登山の楽しみが増えた。
- 実施団体の方が暑い中作業を行っていることは知っていたが、参加したことで大変さを理解できました。
- 久しぶりにみんなで歩こう花立山で山中を散策し、自然、歴史に親しむことができました。
- 初めて、花立山を散策しました。山の中は杉の木の管理が悪い箇所がたくさんあり、保全作業をしてほしいです。

実績報告とりまとめ表

実施時期	実施時期		計	備考
事業量 又は 事業内容	里山保全 作業	令和4年7月16日 令和4年11月3日 令和5年2月23日 令和5年4月22日	計4回	7人 6人 13人 10人
	里山教室	令和4年10月17日 令和4年12月11日	計2回	10人 20人
	木工教室	令和5年5月3日	計1回	45人
参加者数	県内 県外 計			111人 0人 111人
実施場所	福岡県小郡市干潟(通称:花立山)			

里まちサイクルプロジェクト（A-108）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

未来の子ども達に豊かな自然環境を引き継ぐために、森林資源の整備を行った。また、青少年が森林を身近なものに感じるためには、参加して楽しく学習できる体験型の環境教育を行い、次世代のリーダー育成のための普及啓発事業を行った。多くの方々に森林の現状を理解し森林資源の整備等の必要性を理解してもらうためにも活動を行なっている。

「内容」

- ①里山の保全活動を行う ・ ・ 竹林の整備により発生した竹林の有効利用（循環・再生）を行った。
- ②竹を活用した環境教育を通して、守り育てる学習 ・ ・ 竹細工・竹でパンを焼く、竹筒ご飯・筍掘体験。クスギの椎茸菌打ち体験等の自然体験学習。迷惑物のカズラと木の実を取って、クリスマスリース作り 等
- ③竹の再利用と活用 ・ ・ 「ミニ門松作り」
- ④竹の再利用と松の木や南天等を使って「ミニ門松づくり体験」
- ⑤クスギの間伐材で椎茸の菌打ち体験を小学生から高齢者と行った。
- ⑥竹林の整備した場所での「筍掘体験」

2. 活動の成果

○里山の保全活動を通して、自然環境学習の開催を行い、多くの方々に里山の現状を見てもらい、森林の役割と大切さをご理解いただけた。自然環境教育を待ち望んでいる人々が多く、体験を通して子供達に森林の果たす役割の大きさと、守り育てていくことの大切さを理解してもらえた。また、竹の再利用では、「ミニ門松作り」等は、日本文化の良さを青少年から高齢者まで体験でき、大変好評をいただいた。クスギの原木に椎茸菌を打つ体験では、今年度は特に小学生から高齢者まで多くの方々が参加していただき、街の方が生まれて初めて体験したと、森林の良さを体験していただくことができました。今後も、森林の良さ、大切さを多くの方々に知らしめていきたいと思えます。

3. 参加者の声

- 森林や自然環境について考える機会があまりなかったのですが、参加して、身近に感じ、もっと自然環境に関心を持ちたいと思いました。
- 日頃体験できないことばかりで、いい体験になりました。
- 機会があればまた、参加したいです。
- 自然の物ばかりでリースをつくる体験ができて最高でした、また、知らない木の実を初めてみました。
- クスギの原木に椎茸菌を打つ体験を初めてできて、すごく楽しみになりました。早く「椎茸」が出てくるといいな〜と家族で話ができます。
- 椎茸の菌打ち体験では、自然の中で簡単に椎茸が出てくると思っていましたが、一年半近くかかると聞いてびっくりしました。大事に育てたいです。
- 初めて筍掘りに参加しました。初めての参加でしたが、楽しいやら掘るのが大変やら、竹林の状況を見ることができて、良かったです。

実績報告とりまとめ表

実施時期	2022年7月14日～2023年2月2日	2022年10月22日～2023年4月8日	計	備考
事業量	緑化維持活動	自然環境教育・竹の再利用	19回	
参加者数	38人	374人	計412名	
実施場所	福岡県福岡市・糸島市・早良区・西区			

森を五感で感じよう（森は友だち）（A-109）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

自然を五感で感じながら森林体験活動を行う。森林内で体感する驚きや発見を通じて森林に親しみ、森林の働きや役割について学ぶ。

2. 活動の成果

竹林整備や森林内の遊歩道整備を通じて、整備前と整備後の様子を体感し、少しの整備でも気持ちの良い森づくりができることを体験しました。竹や木の小枝や葉、木の実を使っていろいろなものを作ることで森林の持つ魅力や大切さを学び、多様な材料を利用し製作することで創造力や想像力を養い森林への関心を高めることが出来ました。巣箱かけやバードウォッチング、遊歩道歩きでは森林に棲むいろいろな生き物を知り、人と生きもの、森林との関係やSDGsの意義について学びました。森林内での活動は普段の生活では味わえない自然があります。その素晴らしさや楽しさを五感で体感し、驚きや発見を感動することで森林の働きや大切さを学びあい、健全で豊かな森林を次世代へ引き継いでいく未来につながる森林活動を行っていきます。

3. 参加者の声

- ・ノコギリを使うのは難しかったが竹を伐るところから体験出来るとても有意義な活動ができた。森の小道の整備はみんなで協力して行くと楽しくできて、きれいになった森をみて達成感があった。
- ・スギやヒノキの葉を利用して作るクリスマスツリー作りは難しかったが自然のものを利用したやさしい雰囲気のツリーが出来上がった。
- ・巣箱作りは難しかったがどんな鳥が巣箱を利用するのかとても楽しみです。
- ・たくさん鳥の声や冬芽の観察など初めて知ることが多く、冬の森を歩くのが楽しくなりました。
- ・森の小道にはしっかり見るといろいろな発見があり森歩きがますます楽しくなりました。

実績報告とりまとめ表

実施時期	10月1日	11月5日	12月3日	1月7日	2月4日	3月4日	備考
事業量 又は 事業内容	6回 竹林整備と 竹細工	遊歩道整備 と森の学習	クリスマス ツリー作り	巣箱作りと 巣箱かけ	バードウォッ チングと木 の学習	早春の野山 をミニトレッ キング	
参加者数	県内 0人 県外 0人 計 30人	20人 0人 20人	28人 0人 28人	23人 0人 23人	17人 0人 17人	16人 0人 16人	合計134名
実施場所	福岡県糟屋郡宇美町						

よかウッドフェスタ (A-110)

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

森林・緑を県民みんなの財産として社会全体で守り育て、次の世代に引き継いでいくという意識の醸成を図るため、国土緑化運動・育樹運動標語等の表彰、木工工作コンクール及び高校生建築設計競技の表彰並びに作品の展示を行うとともに、ふれあい広場において併催イベントや木材関係団体等のPRコーナーを設けて緑化や木材普及の推進を図った。

〔事業の実施内容〕

- ①イベント：イベント開催に先立ち、9時30分から和太鼓・葉隠による和太鼓演奏を開始
- ②式典：国土緑化運動・育樹運動標語及びポスターコンクールの知事表彰、県内児童・生徒木工工作コンクール、県下工業高校建築設計競技及びさがが優良丸太展示品評会の表彰式を行うとともに、木工工作コンクールと建築設計競技入賞者の作品展示を行った。
- ③併催イベント：木工工作、木の実工作、かんなくず工作などの体験イベント及びさがの樹プレゼント、県産木材PR・林業就業相談コーナー、住宅・耐震相談コーナー、棟上実演・もち配布、親子で学ぶゲーム、もりかわうみまん作り、チェンソーアートやケイタクトーク&ミニライブなど多彩な催しを行った。

2. 活動の成果

緑化や木材に関する表彰を実施することにより緑化の大切さを認識してもらうとともに、木や木の実を使った工作などにより木のぬくもり、すばらしさ、楽しさを実感してもらった。

3. 参加者の声

アンケートの結果では、「森林を大切にしたい」、「木の良さが分かった」、「チェンソーアートが良かった」、「いろいろなイベントがあって良かった」などたくさんの感想を頂きました。

実績報告とりまとめ表

実施時期	11月20日(日)	備考
事業量	・標語、ポスターコンクール、木工工作コンクール等の表彰 ・木工工作体験など各種イベント実施	
参加者数	約2,440人	
実施場所	佐賀市天神どん ³ の森広場	

緑の探検学習会 (C-47)

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

県内の緑の少年団員と指導者を対象に、野外の体験学習を通じて自然や緑の大切さを実感してもらい、少年団活動発表会や団員の交流会を盛り込むなどして、緑化活動や環境美化に積極的に参加する心を育てることを目的として、探検学習会を開催した。

〔活動の実施内容〕

午前

- ①森川海人っ体験クイズラリー

会場の公園に森、川、海、人の4つのチェックポイントを設け、各地点でのクイズに答え環境を守る意識を高める。

午後

- ①4団による活動発表
- ②活動発表大会の表彰式及び閉会式

2. 活動の成果

地区代表による活動発表を通じて、緑の少年団の活動の活性化が図られた。

また、森、川、海、人がどのように環境保全に関与しているかをクイズを通じて学習するとともに、体験を行うことにより環境保全の重要性を感じる事が出来た。また、活動を通じ少年団相互の交流が図られた。

3. 参加者の声

コロナ対策を十分に取った上での開催であったため、一部制約があったが、子供たちは、大変元気よく、最後まで熱心に学習会に取り組んだ。「体験等を通じて、多くのことを学べた。」「友達と協力して楽しむことができた。」などの前向きな感想が多かった。

また、大人からは、感染症対策への感謝や少年団活動への理解が深まったことなどの声があった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	11月20日	備考
事業量	・森川海人っ体験クイズラリー ・4団による少年団活動発表大会	
参加者数	103人(少年団員55人、指導者22人、スタッフ26人)	
実施場所	佐賀市どんどんの森及びアバンセ	

森林のつどい事業（A-111）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

- ・県民が森林とふれあい、森林を守り育てていくことの大切さを広く理解してもらうため、長崎県民の森で「ふるさとの森フェスタ」を実施した。
新型コロナウイルス感染症防止対策として体験コーナーは県民の森のテントサイトを活用して一定の距離を確保のうえ、高性能林業機械体験、木工工作、木の実を使った工作、ネイチャーゲーム等を実施した。また、県民の森の林内を散策する「森林ウォーキング」や「自然観察ウォーキング」を実施した。
- ・小学校4年生～6年生を対象に募集し、木育キャンプ（森のつどい）を3か所で開催し、ヒノキの伐倒作業見学、間伐体験、森林ウォークラリー、端材を使った木工クラフト等を体験してもらった。

2. 活動の成果

- ・「ふるさとの森フェスタ」では、家族での参加も多く、森林とふれあう機会が少ない中で森林を再認識する機会ができた。今回、森林ウォーキングの参加者はコロナ禍で参加人員を縮小したため、次回は参加人数を増やすことを検討したい。
- ・木育キャンプ（森のつどい）では、次代を担う子供たちが森林の働き学び、間伐や竹林整備等の貴重な体験ができた。児童・生徒の森林に対する関心を高めるためにも、今後も継続して実施していきたい。

3. 参加者の声

- ・「ふるさとの森フェスタ」の参加者：家族で色々な体験ができて楽しかった。
- ・自然観察ウォーキング：ゆっくり植物観察ができ、新しい発見あり楽しめた。
- ・木育キャンプ（森のつどい）：森に対する気持ちが変わった。森と人との関わりがわかった。森林はとても重要であり、色々なものが作られていることがわかった。木のこともっと知りたいと思った。

実績報告とりまとめ表

実施時期	令和4年 10月15～16日	令和4年 11月3日	令和4年 11月5～6日	令和5年 1月21～22日	計
事業量	木育キャンプ ～森のつどい～	ふるさとの 森フェスタ	木育キャンプ ～森林を学び、木から創り、 木と遊ぶ～	木育キャンプ ～めざせ森林マイスター～	
参加者数	29人	約400人	12人	21人	約460人
実施場所	長崎市	長崎市	西海市	諫早市	

緑の少年団活動活性化事業（C-48）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

- ・緑や自然と接することにより、緑を守り・育てる心、協調性豊かな心等を養成するとともに、「緑の少年団」活動の一層の活性化を図るために、6月の環境月間及び秋期における地域の公共施設等への花苗植栽活動を実施した。
- ・また、緑の少年団全県交流集会在中止となったため、学校や家庭でできる木製工作キット（本立て）を配付した。

2. 活動の成果

- ・地域での花苗の植栽活動を集団で体験することにより、自然の大切さや地域の環境を守ることの大切さを学んでもらった。
- ・新型コロナウイルス感染症の流行で、緑の少年団活動が従来どおりできない中で、学校や家庭で木製の本立て作成を体験してもらうことにより、木材の大切さや木材の利用についての再認識が図られた。

3. 参加者の声

- ・花苗の植栽活動では、花壇等に植栽する際、花の配置や植え方について勉強になった。
- ・みんなで花苗を楽しくきれいに植えることで、緑の少年団としてのつながりが強くなった。
- ・木製の本立てなど作ったことがなかったが、初めてなのによく作れて楽しかった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	令和4年 11月26日	令和4年 10月～11月	令和5年 2月下旬～3月下旬	令和5年 6月1日～6月30日	計
事業量	地域交流集会 指導者 9名 団員 13名	秋期花苗植栽活動 3,402本	木製工作キット （本立て）の配布 106セット	6月環境月間 花苗植栽 6,858本	
参加者数	2団 22人	12団 372人	17団 106人	18団 490人	990人
実施場所	佐世保市	県下一円	県下一円	県下一円	

森のめぐみいきいき活用促進事業（C-49）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

- ・林業に関する地域の中核的担い手である林業研究グループが、林産物の展示・販売や木工体験を実施し、都市の人々との交流を図ることで、山村の現状や森林資源の有効活用について理解を深めてもらうとともに、木材の多様な利用やその他の林産物の活用を促進するため、「森林のめぐみ展示会」を開催した。

2. 活動の成果

- ・間伐材を利用した花台やストラップ等の木工製品及びシイタケやハラン等の林産物の展示・販売並びに木工製品の製作を通じて、間伐材の有効利用、木製品の良さ、森林の恵みの豊かさを都市住民へアピールすることができた。

3. 参加者の声

- ・木工製品や林産物の展示・販売では多くの市民が立ち寄っていた。
- ・間伐材の木工品や椿の木工品では、製品の説明に興味深く聞く姿が見られ、多くの方に購入してもらった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	3月13日	計	備考
事業量	林研グループ7団体及び諫早農業高校他2団体		
参加者数	41人	41人	
実施場所	長崎市		

くまもと森づくり普及・啓発事業（A-112）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

事業実施主体：(公社) 熊本県緑化推進委員会

共催：(株) 熊本放送

目的：くまもとの豊かな緑を守り育てる「緑の財産づくり」を推進するため企業とともに緑化推進キャンペーンを展開している。募金期間に森林とのふれあいイベントを開催し、県民参加の森づくりの一層の推進を図る。

内容：公募による参加者（家族等）が熊本市立立田山の自然とふれあう「立田山グリーンウォーク」を開催し、熊本県インストラクター協会会員の指導のもと、秋になりつつある森林の様子を観察したり、森林の話聞きながら森を散策した。また、散策後竹トンボ協会の協力で竹クラフト教室を開催し、家族で楽しく木竹とふれあう時間を過ごした。（当日の状況は別添写真のとおり）

2. 活動の成果

森林にふれあうことで森林の大切さに対する理解者が増え、県民参加による「緑の財産づくり」の推進が図れた。

3. 参加者の声

自然観察会では森林インストラクターの方々から秋の時期に特徴的な木や草花の話が聞けて勉強になった。

また、竹トンボ協会の方々の指導により作った竹トンボが非常に良く飛んで楽しかった。

今年もコロナ禍での開催となったが、感染防止対策を徹底しつつ、家族が楽しめてとても良かった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	10月8日	計	備考
事業量			
参加数	84人	84人	
実施場所	熊本市黒髪立田山いこいの森（多目的広場）		

緑の少年団活動育成事業（C-50）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

自然の中で緑を愛し守り育てる活動をはじめ、地域社会での奉仕活動や交流等の野外活動を通して心豊かな人に育つことを目的とした緑の少年団の交流集会を支援する。

2. 活動の成果

7月29日に高森町で開催予定だったが、コロナ感染が急激に拡大しやむなく中止とした。

また、くまモンTシャツは希望の少年団に配付した。

3. 参加者の声

受け入れ先が受け入れが難しいということでは残念だが仕方がないがとても残念である。

シンボル森林の活用促進事業 (C-51)

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

目的：県指定の「熊本ふるさとの森林」森林や市町村が設定したふれあいの森林等地域を代表する森林の利用促進を図るため、森林の内容や散策路等施設の情報を書いた総合案内板の設置や補修を行う。

内容：案内板の表示内容の改訂・補修

熊本県宇城市誉ヶ丘公園は、森林地帯と県下最大級の鐘ヶ池を始めとする3つの溜池からなる面積50haの地域で、水と緑豊かな自然環境に恵まれ、優れた景観資源を有している。戦後に開設され、住民の憩いの場となっている。また鐘ヶ池の周辺には栈橋が架けられており、散歩もでき、一帯は春は桜の花見、秋は紅葉が楽しめる。

今般、案内板が劣化していたため、より多くの方に散策が楽しめるよう改修した。

- ・森林総合案内板 1基
- ・表示板 W=2,500mm H=1,600mm

2. 活動の成果

森林にふれあうことで、森林の大切さに対する理解者が増え、県民参加による「緑の財産づくり」の推進が図られる。

3. 参加者の声

熊本県宇城市地域振興局林務課の職員によると、今回の案内板の改修により地元住民の憩いの場としてだけでなく、県内外からの集客の上からも利便性が向上した。また、当該公園は熊本県立豊野少年自然の家とも隣接しており、青少年の健全育成や県民の生涯学習の推進の面においても連携がさらに強化されるとのことであった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	10月～1月	計	備考
事業量	案内板1基補修	案内板1基	
参加者数	人	人	
実施場所	熊本県宇城市豊野町山崎		

施工前



施工後



ふれあい森林教室（A-113）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

自然とふれあい、森林の持つ多様な機能を学ぶと共に、家族や友達の絆を深めることを目的とし、キャンプ・自然観察会等を行うもの。

23日（土）森林教室（竹水鉄砲作り・木の枝を使ったスプーン・フォーク作り）、野外での食事、キャンプファイヤー、レクリエーション
24日（日）森林ネイチャーゲーム（カモフラージュ）、森の自然観察会、竹馬遊び体験

2. 活動の成果

森林教室では、マダケを使った水鉄砲作りと木の枝を使ったスプーン・フォーク作りを行った。親子や友達同士で協力しながら、使い慣れない刃物を使った作業を行った。今回は、製作した水鉄砲で的当て競争を行い、各自の出来栄を確認して貰った。水の飛び具合がそれぞれに違う事を確認し、手直しをする者や何度も的当てに挑戦する者など、次の目的を持つ事で作成だけで満足せず、次のステップに進む姿を見ることが出来た。キャンプファイヤーでは、参加者の中から火の神・火の子を選出し点火の儀式を来ない、火の大切さを感じてもらった。レクリエーションでは、指導者のもとグループ間の距離を確保しながら出来るレクリエーションを行い、参加者同士で楽しさを共有することが出来た。森林ネイチャーゲームでは、現在人気の「カモフラージュ」を体験。自然とはミスマッチな物の数を1人1人に答えを聞く事で、個人個人の注意力を養った。自然観察会では、人と森の関わりを交えながら、自然の中で生きる生物や、植物の特性についての学習を行った。最後には森林教室の講師が作成した竹馬を使い、大人も子供も一緒に竹馬乗りに挑戦して貰った。昔の遊びを通じ、親子や友達同士がお互いに補助し協力し合う、楽しいふれあいの場を提供することが出来た。全体を通して、自然と人との関わりを理解し、自然に対する親しみや関心が深まった事を感じる事が出来た。今後も自然とふれあえるキャンプを継続すると共に、新たな活動を取り入れながら実施して行きたい。

3. 参加者の声

- ・水鉄砲作りでは、皆同じように作ったのに、水の飛ぶ方向や勢いがそれぞれに違ったので不思議だった。的に当たるように手直ししたり工夫する事が楽しかった。
- ・初めてのキャンプファイヤーが体験できてとても楽しかった。火の神・火の子を子供が体験できてとても良い思い出が出来た。
- ・自然観察会では、虫を探して観察する事ができて良かった。自然の中でのカモフラージュゲームが楽しかった。竹馬に乗ったりゲームをしたり親子で楽しむ事ができた。
- ・とっても楽しい会でした。これからも活動を楽しみにしています。

実績報告とりまとめ表

実施時期	7月23日	7月24日	計	備考
事業量	・森林教室 ・野外炊飯 ・キャンプファイヤー・レクリエーション	・森林ネイチャーゲーム ・森の自然観察会・竹馬遊び体験		
参加者数	32人	32人	32人	
実施場所	大分県大分市大字高原平成森林公園キャンプ場			

大分県農林水産祭林業部門（木と暮らしのフェア）（A-114）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

森林は、木材・竹材・椎茸など林産物の生産を通じて、水源のかん養や災害の防止、大気の浄化など、健康で快適な生活環境を形成するうえで大きな役割を果たしている。これら森林の持つ多面的な機能の発揮には、森林林業・木材産業が健全で活力ある状態であることが必要であり、そのためには木材利用の推進が不可欠である。

上記のことから、木材とのふれあいの場を広く県民に提供し、木材に対する理解を深め、さらに、県産材を中心とした需要を喚起し、県内の森林・林業・木材産業の活力を高めていくため、令和3年度農林水産祭林業部門を開催する。

2. 活動の成果

木とのふれあい、体験・学習・PRコーナーや、木製品・林産物等の販売コーナーを通じて森林・林業・木材に対する理解を深めてもらうことにより、木材の利用や森林の大切さについて普及啓発を図ることができた。

これからもイベント・出店内容、駐車場を含めたアクセス、雨天対策、休憩場所等への要望をできるだけ反映し、秋の大分県の大きなイベントとして定着している当フェアをさらに充実させていきたい。

3. 参加者の声

- 林業や農産物の大分県の特徴がよく分かった。
- 毎年楽しみにしています。
- 子どもの工作が多くあり楽しかったです。

実績報告とりまとめ表

実施時期	10月22日	10月23日	計	備考
事業量	木製品・林産物・緑化木等の販売・ジビエ「森のレストラン」・うまみだけPRコーナーの設置・木工教室の開催・木のおもちゃづくり・レガシー材を活用した製作品の展・木造ユニットハウスの展示・林業体験・学習コーナー・2万枚の積み木広・VR映像による災害体験			
参加者数	一人	一人	700,000人	
実施場所	大分県別府市（別府公園）			

名木保全事業（B-3）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

目的：県内の名木について現地調査を行ったデータに基づき、診断結果が不良な樹木について、保育・保全を行いさらに文化的な活用を図るものとする。

- 内容①実施主体 公益財団法人森林ネットおおいた
 ②実施時期 令和5年2月～令和5年3月
 ③実施場所 大分県全域（今回は大分市、竹田市、臼杵市）
 ④事業内容 樹勢等の健康度などを基に治療を行った。

2. 活動の成果

調査・治療木

- ①コジイ（大分市上戸次字鶴賀城4313）
 古木で巨木のコジイであり枯れ枝がある。コジイ周辺にクリやヤマザクラがありコジイを被圧しているため、生育状況が悪くなっている。コジイを被圧しているクリ、ヤマザクラの除去と枯れ枝除去等の保全治療を行った。
- ②スギ（竹田市大字米納1048番地1）
 樹齢が推定300年の巨木であるが、2022年9月18日に接近した台風14号の強風により、大枝が折れ幹が約15m程裂けた。その為折れた付近は腐朽が進み空洞化していた。損傷箇所の腐朽部分の治療と大枝除去等の保全治療を行った。
- ③スギ（臼杵市野津町溜水）
 溜水地区に鎮座する熊野神社の巨木で御神木となっている。東側の幹に裂傷があり、木材部が空洞化していた。枯損している大枝が強風により落下する可能性がある為、大枝除去等の保全治療を行った。

3. 考察

- ①コジイ
 手入れ不足であったため、樹木の生育状況は悪くなっていたが、今回の被圧木の除去、枯れ枝除去により、樹勢が回復していくことが期待される。
- ②スギ
 台風により大きく損傷したため、腐朽が進み空洞化していた。腐朽部分の治療と腐朽防止、大枝除去の保全治療を行ったため、樹勢の回復、空洞箇所の巻き込みが期待される。
- ③スギ
 木材部分が空洞化しており、枯損した大枝があった。大枝除去の保全治療を行ったため、落下による建物や人への危険は防止された。

森林ボランティアリーダー養成研修（C-52）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

大学の森林ボランティアサークルを対象とした森林整備の研修を行い高度な知識、技能を有する森林ボランティアリーダーを養成する。

山林所有者と協定を交わしたフィールドを使い現況調査から森林整備の事業計画を作成し、実際に施業しながら、林業従事者の専門知識を活用し研修を行う。

2. 活動の成果

昨年度に引き続き山林所有者と協定を交わしたフィールドを使い、今年度は森林内歩道整備、竹等の除伐、広葉樹・針葉樹の立木調査、ナタ等の道具整備を行った。森林内の整備では主に除伐した竹などを集積し歩道の補強をした。立木調査では林尺などを使用し調査を行った。ナタ等の整備では、砥石を使い刃物の手入れを行った。

3. 考察

- ・年々整備していくことで、きれいになっていくのがわかり、森林に対する意識がより高くなった。
- ・講義で学んだ事を実践することが出来、とても勉強になった。
- ・砥石を初めて使ってみて、見た目より難しく奥が深いと感じた。

実績報告とりまとめ表

実施時期	11月17日	12月15日	1月19日	2月9日	3月9日	計	備考
事業量	森林内歩道整備	立木調査	除竹、除伐	除竹、除伐集積	道具整備		
参加者数	10名	8名	8名	8名	7名	41名	
実施場所	大分市久土（NBUの森）						

緑と花のふれあい推進事業（A-116）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

県民に身近な緑とふれあう機会を提供し、緑の大切さを認識させるとともに、緑を愛する心を育むため、県民から公募した受講生を対象に、専門講師の指導の下、年間スケジュールに基づく「緑と花のふれあい教室」を開催し、土づくり・播種・挿し木・取り木・接ぎ木・病虫害防除等の技術・知識を習得させるとともに、受講生が実習で生産した緑化木等を広く県民に配布して、県民緑化運動推進の一助に資する。

2. 活動の成果

- ①受講者は、緑化用苗木や花の養成技術の習得を通じて、緑への関心や理解をさらに深めることができた。
- ②生産された緑化木を街頭やイベント等で配布することによって、緑に関する普及啓発活動や県民緑化運動の推進に寄与することができた。
- ③「緑と花のふれあい教室」を継続的に開催することで「緑の募金」の推進につながっている。

3. 参加者の声

参加の動機は、樹木や草花への興味、緑化木養成技術の習得、ボランティア活動への興味等が主である。参加者からは、①緑化木の種類を覚えるとともに苗木づくりの知識や技術が深まり、最新情報の交換ができる。②多くの方々と交流ができて楽しい。③家庭において緑化木を管理する上で、講義の中での質疑応答等、実践的な内容であり役立っている。④自分たちの育てた緑化木がいろいろな場所の緑化に役立っていることが嬉しい。⑤月々のボランティア活動が生き甲斐になっている等、多くの意見が寄せられている。

実績報告とりまとめ表

実施時期	令和4年4月～令和5年3月	計	備考
事業量	月1回のペースで当初の計画どおり実施	12回	
参加者数	受講生81名	延べ 745名	
実施場所	宮崎県小林市野尻町（宮崎県緑化木養成圃場）		

森林浴癒しの集い事業（A-117）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

広く県民から参加者を募集し、日南市北郷町猪八重溪谷森林セラピー基地において、森林セラピーに関する学習や散策を行うことにより、森林の持つ癒し効果と森林や緑への理解と認識を深めさせ、県民参加による森林・緑づくりを推進する「森林浴癒しの集い」を開催した。

2. 活動の成果

宮崎県内にある森林セラピー基地を散策することにより、参加者が自然に親しみ、森林の持つ「癒しの効果」を五感で満喫することによって、自然の大切さや環境、森林づくりなどの理解を深めることができた。この集いは、参加者からの評判も良く、また、日常生活では味わうことの少ない自然体験を通じて、森林の素晴らしさを広く県民に再認識していただくことのできる重要な活動であると考えられる。

3. 参加者の声

- ・猪八重溪谷に一度も来たことがなかったので、講師の丁寧な話を聞くことができ楽しかった。
- ・森の中で横になってリラックスした時間やコケテラリウムが良かった。
- ・猪八重の森、コケをルーベで見たとときの驚き、ゴロンと横になって鳥の声を聞いたこと、川のせせらぎに癒やされました。
- ・コケテラリウムで一気に参加者とコミュニケーションが取れて楽しかった。
- ・学習の森、非日常を味わった。
- ・宮崎の自然の豊かさを改めて知ることができた。コケに興味が出てきました。

実績報告とりまとめ表

実施時期	11月22日（火）	計	備考
事業量	森林セラピーの講義 遊歩道の散策 樹木や苔等の植物観察 コケテラリウムの作成		
参加者数	30名 (参加者23名+講師4名+スタッフ3名)	30名	
実施場所	宮崎県日南市北郷町 (森林セラピー基地猪八重溪谷ほか)		

かごしまの緑・元気な森林体験事業（A-118）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

- 令和4年度も、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、秋期のイベント（九州森林の日植樹祭・かごしま木材まつり）は、規模を縮小しての開催となり、春期イベント（みどりの感謝祭）についても、大雨の影響も重なり縮小開催となった。
- また、県内の地区植樹祭や木材まつりにおいても、中止または、一部式典等が縮小となるなど影響があった。数年ぶりに開催できたイベントにおいては、森林の重要性や森林を守り育てる大切さの普及に努めることができた。

2. 活動の成果

- 昨年度に続き今年度も、新型コロナウイルス感染拡大の影響から、県や各市町村、森林管理署、林業関係団体、森林ボランティア団体との連携があまり出来ず、普及啓発イベントも規模縮小や中止となるものが多かった。次年度こそは、各方面との連携を強化し、積極的な普及啓発や情報発信に努めることとしたい。

3. 参加者の声

- 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、多くのイベントが中止となるなかで、一部の地域で木材まつりや植樹祭が開催され、久しぶりの催事に、明るい気持ちになるとともに、このような機会がこれからもどんどん復活してほしいと願った。
- あいにくの雨天の中で、木を植える活動は、寒さもあり、作業がなかなか進まなかったが、苦勞した分、達成感もあった。植えたこの木がすくすく育っていくよう願っている。今回参加した緑の少年団の子供たちと一緒に、数年後苗木がどれだけ生長したかを確認するために、再度この地を訪れたいと思う。

実績報告とりまとめ表

実施時期	R4.10月～R5.2月	R5.4月	計	備考
事業量	・かごしま木材まつり木製品展（6000人） ・九州森林の日植樹祭（273人） ・支部植樹祭（4地区）（一部式典等中止）	みどりの感謝祭		
参加者数	6,273人	1,000人	7,273人	
実施場所	鹿児島市,霧島市他	始良市（県民の森）		

かごしまの名木古木樹勢診断事業（B-4）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

- 県や市町村、教育委員会を通じて事業要望を募ったところ、4市町から、11ヶ所16本の樹勢診断要望があった。（内訳：学校9ヶ所、その他2ヶ所）
- 日本樹木医会鹿児島県支部に調査業務を委託し診断を行い、全ての調査が終了したあと、その診断結果については各申請者に通知した。
- 今後の診断向上のため、同樹木医会と共催で、被害状況の把握及び保全処置の手法等について研修を4月に計画していたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、やむなく中止とした。

2. 活動の成果

- 保全作業については、現場担当の樹木医と地元関係者が調整を図りながら、円滑に進めることができた。

【鹿児島市】・スダジイ：3本

【南さつま市】・クロガネモチ、イチョウ：各1本

・センダン、ケヤキ：各2本

・ソメイヨシノ：3本

【伊佐市】・カヤ：1本

【和泊町】・ガジュマル：3本

- 当初5本程度の申請があるものと想定していたが、11ヶ所(16本)の要望があった。今後も更なるPRに努め、事業の掘り起こしに努めたい。

3. 参加者の声

- 昔からある学校のシンボルツリーが元気がなく、枯れていく一方なので、最悪の場合、このまま切るしかないのだろうか心配していたが、今回、樹木医の方々にしっかりと診ていただくことができ、原因もわかってほっとした。しっかりと処置もしていただいたので、これからも末永く大切に見守っていきたい。
- 保育園のなかにあるサクラの木が元気がないので、心配していましたが、今回樹木医の方に相談することができました。園児とともに、またサクラの季節を楽しめるのが嬉しいです。

実績報告とりまとめ表

実施時期	R4年11月～12月	R5年4月	計	備考
事業量	・樹勢診断 11ヶ所16本 ・樹勢診断書作成 16件	・樹勢診断にかかる現地研修会（新型コロナのため中止）		
参加者数	1団体 （日本樹木医会鹿児島県支部）	-	1団体	
実施場所	樹勢診断:鹿児島市,南さつま市,伊佐市,和泊町／研修会:中止			

活力のある緑の少年団活動促進事業（C-53）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

- 緑を守り育てる活動を通じて、豊かな心を育成するため、県内で45団の緑の少年団が育成会や森林ボランティアの方々の指導のもと活動している。
- その活動のより一層の活性化を図るため、例年緑の少年団活動発表大会を開催していたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、発表会は中止（動画審査）となった。
- また各地域単位で開催されていた交流集也会も、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けて、1地区だけの開催となった。なお、4月に縮小開催した全体の交流集會には、11の少年団の参加があった。

2. 活動の成果

- 例年開催している活動発表大会や緑化イベントを通じて、団相互の親睦が図られるとともに、情報が共有され、活動内容も岐にわたってきていたが、新型コロナウイルス感染拡大により諸活動が制限され、影響が出ている。
- 近年は、児童数の減少により小・中学校の統廃合が進み、緑の少年団数も減少傾向であるが、緑化活動を通じた情操教育は、郷土や自然を慈しむ心を育てるとともに自然界における人間の役割を理解させる大切な環境教育である。
- 新型コロナウイルスの感染状況が収束するまでは、何かと制限も多くあるが、関係団体と連携を図りながら、側面から支援を継続していきたい。

3. 参加者の声

- 夏休み期間中に開催される地域の交流集會では、様々な森林体験や木工体験などがあり、楽しみながら多くのことを学べた。
- 他の少年団とも交流して新しく友達も出て夏休みの良い思い出になった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	R4.11月	R4.11月	R5.4月	計	備考
事業量	九州森林の日 植樹体験	地区交流集會 (1地区)	全県交流集會		
参加者数	51人	26人	136人	213人	
実施場所	霧島市 (国有林)	南大隅町	始良市 (県民の森)		

森林ボランティア活動促進事業（C-54）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

- 一般公募による森林ボランティア養成講座（かごしま森林の学校）を開催し、新規育成に努めたほか、森林ボランティア活動の定着を図るため、実践活動や研修会を実施し、相互交流とスキルアップを図った。
- また、県森林ボランティア連絡会加盟団体22団体の自主活動を促進するため、年間活動費を助成し、組織の活性化を支援するなど、県民総参加による森林づくりの気運を醸成した。

2. 活動の成果

- 森林ボランティア養成講座（かごしま森林の学校）は、地元鹿児島大学等から外部講師を招き、計7回の講座を実施、16人に修了証を交付した。
- 森林ボランティア団体のリーダーを対象とした研修会（リスクアセスメント研修・森づくり現地研修）への参加も定着してきており、四半期毎に開催する森林ボランティア連絡会議と相まって（※今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、年3回実施）、情報共有および相互交流が促進され、資質の向上が図られた。
- また、団体運営の年間活動費の助成により、森林ボランティア団体の自主活動が促進され、公募事業などに積極的に取り組む団体も増加した。

3. 参加者の声

- これまで自分が知り得なかったことを教わったり体験できて、大変勉強になった。友人にも受講を勧めたい。
- 室内の講話だけでなく、現場での実践もたくさんあり、良い経験だった。
- 実践してみて、森林・林業に、興味が湧いてきた。
- 山づくりの基本の講話とその実践で、森林を造っていくことの苦勞を知った。
- 日々の努力の積み重ねが、豊かな森林を守り育てることにつながっているのだと思った。今後私も森林ボランティアとして、ささやかながらお手伝いできればと思う。

実績報告とりまとめ表

実施時期	R4年10月～R5年5月	R4.11.19日	R5.1.13日	計	備考
事業量	森林インストラクター 養成講座 7回 修了者 16人	森林整備活動安全指導研修会 (リスクアセスメント研修)	森林ボランティアリー ダースキルアップ研修会 (高性能林業機械を使用 した列状間伐施行地)		
参加者数	99人	40人	27人	166人	
実施場所	県内各地	霧島市	霧島市		

令和4年度 緑の育樹祭開催事業（A-119）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

事業実施日 令和5年1月21日（土）
 主 催 公益社団法人沖縄県緑化推進委員会、宜野座村
 大会テーマ 「宜野座発!! 水と緑のハーモニー」

森林が地球温暖化防止に重要な役割を果たしている事について、理解を深め県民参加の森づくりを進めるため育樹祭を開催した。式典において、主催者、来賓のあいさつ、緑化コンクールの表彰、緑の少年団による大会決議を行い、式典終了後、参加者全員による施肥作業、補植作業を実施。

2. 活動の成果

潤いと安らぎのある緑豊かな美ら島に育てるには多くの人手と時間が必要であることに理解を深め、保育の重要性を認識し実践した。

道の駅ぎのざは、目の前には太平洋、隣には漢那福地川が流れ、裏山には漢那ダムがある自然豊かな景観にある道の駅で、水と緑と太陽の里宜野座村の観光拠点施設となる場所である。本育樹祭により、ますます自然豊かな場所となり県民の憩いの場として活用されることを期待します。

今後、適切な保育管理を実施することにより観光立県を目指す本県において、緑の美ら島沖縄を目指し今後も緑化活動を取り組んでいく気運を高めた。

3. 参加者の声

今後、適切に保育作業をすることによりさらに緑豊かな憩いの場となるようにしていきたい。

実績報告とりまとめ表

実施時期	令和5年1月21日	計	備考
事業量	緑の育樹祭の開催		
参加者数	100人	100人	
実施場所	沖縄県宜野座村		

令和 3 年度 ・
事業期間延長分

宮城県みどりの少年団大会開催事業（C-21）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

少年団共通の認識と連携を深め、少年団活動の一層の発展と健全な育成を図るため、第46回（令和3年）宮城県みどりの少年団大会を開催した。

令和2年の大会でクロマツやアオダモを植栽した海岸防災林において、森林ボランティア団体の指導を受けながら、下草の抜き取りやツル切りなどの保育活動を行ったほか、震災後の自然環境の回復状況や外来植物の侵入状況等の自然観察、ネイチャークラフトなどのレクリエーションに興じた。また、式典では新たに設立した少年団に団旗とスカーフの贈呈が行われた。

2. 活動の成果

コロナ禍で様々な制約を受けながらの学校生活が続いている中、大会の実施は有意義であった。大会でも施設の利用や活動時間に制限があったものの、参加した少年団員のみならず、育成会の親御さんや教師も含めて、海岸防災林の役割、成林に向けた保育活動の意義、失われた自然の大切さなど体験を通して学習することが出来た。また、年に一度の大会では交流を通して普段会えぬ団員相互の親睦を図ることが出来たほか、新たに設立した少年団に対して、皆で祝福を分かち合うことが出来た。

3. 参加者の声

- 「防災教育の観点からよかった。」
- 「海岸防災林の説明、活動の指導が良かった。」
- 「作業体験が出来て良かった。」
- 「午前中のみ開催でコンパクトで良かった。」
- 「もっと保育活動をしたかった。」
- 「楽しかったのもっと時間があれば良かった。」

実績報告とりまとめ表

実施時期	9月26日	備考
事業量	海岸防災林保育活動 下刈作業等約0.2ha 自然観察 ネイチャークラフト 式典	
参加者数	228人	
実施場所	宮城県東松島市矢本板取地内（大曲浜海岸）	

令和4年度 緑と水の森林ファンド都道府県事業一覧

(単位：円)

都道府県	区分	番号	事業名	助成額	実施額	備考
北海道	普	A1	「美遊の森」体験学習事業	100,000	78,870	
	普	A2	青少年育成事業	200,000	200,000	
	普	A3	家族さのこ観察会&&親子さのこウッチング&野生さのこ展示	108,000	108,000	
	普	A4	森林ボランティア活動推進事業	400,000	400,000	
	普	A5	札幌市定山溪自然の村 定山溪遊々の森を活用したプログラム	300,000	300,000	
	普	A6	お魚を増やす植樹運動促進事業	300,000	300,000	
	普	A7	野幌自然休養林再生事業を中心とした普及啓発事業	115,000	115,000	
	普	A8	北海道指導林家社会貢献緑化推進事業	100,000	100,000	
	普	A9	次世代に引き継ぐ森林づくり事業	200,000	200,000	
	普	A10	野幌森林公園観察会	160,000	160,000	
	普	A11	旭山希少種調査・保護 生物多様性保全事業	200,000	200,000	
	普	A12	「林間学校」(緑と水の森林ファンド事業)	200,000	200,000	
	普	A14	木になるフェスティバル	170,000	170,000	
	普	A15	普及啓発事業「森林の市」	350,000	350,000	
	普	A16	森と人をつなぐ事業	200,000	200,000	
	普	A17	美深公園「望の森」を育てる会 森林浴の集い	100,000	100,000	
	普	A18	枝幸町民植樹祭	200,000	200,000	
	普	A19	森林及び木製遊具体験事業	150,000	150,000	
	普	A20	生物多様性の保全を目指したオホーツクの森づくり事業	200,000	200,000	
	普	A21	緑の少年団なかしべつ冒険クラブ事業	50,000	50,000	
	普	A22	小学校の森林体験学習(総合学習)支援事業	440,000	440,000	
	普	A23	木育ひろば in チ・カ・ホ	500,000	500,000	
	普	A24	北海道木育フェスタ推進事業	1,125,000	1,841,876	当初助成額の変更
	青森	基	C1	馬追自然の森整備事業	50,000	50,000
基		C2	温暖化防止等森林の役割を引き出す保全事業	100,000	100,000	
基		C4	野幌の森再生事業と親子による植樹祭	200,000	200,000	
基		C5	恵庭かわまちづくり植栽事業	300,000	300,000	
基		C6	令和4年度里見緑地内植樹・環境整備事業	100,000	100,000	
基		C8	未来に向かって日高の森林づくり事業	62,000	26,254	当初助成額の変更
基		C9	新ひだか町営林友の会森林づくり事業	60,000	60,000	
基		C10	五稜郭保安林清掃事業	100,000	100,000	
基		C11	「おさかなの森づくり運動」事業	200,000	200,000	
基		C13	ユネスコの森づくり	50,000	50,000	
基		C14	☆地球にやさしいちいさな森	300,000	300,000	
基		C15	赤岩青巖峡環境整備事業	200,000	200,000	
基		C16	「帯広の森」づくり事業	100,000	100,000	
基	C17	☆野付湾の流域河川の河畔林づくり事業	300,000	300,000		
青森	普	A25	青森県森林づくり推進体験活動事業	1,000,000	975,375	
	普	A26	木と人のふれあい事業	960,000	960,000	
岩手	普	A27	令和5年度遠野市緑化祭	200,000	200,000	
	普	A28	一関地方育樹祭	200,000	200,000	
	普	A29	緑の少年団育成事業	200,000	200,000	
	普	A30	ふるさとの巨樹・名木観察会	200,000	200,000	
	普	A31	県民の森ボランティア活動	100,000	100,000	
	普	A32	第53回岩手県緑の少年団大会	1,750,000	1,750,000	
宮城	基	C18	宮城県みどりの少年団大会開催事業	2,040,000	2,040,000	
秋田	普	A33	緑と水のキャンペーン事業	1,250,000	1,250,000	
	普	A34	市民グループ森林づくり活動事業	700,000	700,000	
	基	C19	緑の少年団育成事業	450,000	450,000	
	基	C20	森林活動指導者支援事業	250,000	250,000	
山形	普	A35	山形県緑の少年団交流研修支援事業	980,000	1,180,000	当初助成額の変更
	普	A36	山形県林業まつり開催事業	600,000	400,000	当初助成額の変更
	普	A37	庄内森とみどりのフェスティバル開催事業	200,000	200,000	
	普	A38	☆森を育む子ども達育成事業	180,000	180,000	
福島	普	A39	緑の提言・作文コンクール	900,000	900,000	
	普	A40	福島林業祭	700,000	300,000	
	普	A41	ファミリー緑の教室	300,000	300,000	
	普	A42	緑の醸成	300,000	300,000	
	基	C21	ふくしま緑の百景歩公開こう会	900,000	900,000	実施期間の変更
	茨城	普	A43	青少年に対する林業普及啓発資材の配布事業	150,000	150,000
普		A44	緑の体験教室開催事業	350,000	350,000	
普		A45	グリーンフェスティバル開催事業	600,000	600,000	
基		C22	森林ボランティア育成事業	300,000	300,000	
基		C23	山村地域づくり活動助成事業	550,000	550,000	
基		C24	緑化樹木等苗木無償配布事業	410,000	410,000	
栃木	普	A46	森林・緑・水に対する国民の認識を深めるための普及啓発事業	1,840,000	1,840,000	
	基	C25	青少年の教育の場としての森林の活用促進事業	200,000	200,000	
群馬	普	A48	「木育」活動促進事業	500,000	500,000	
	普	A49	巨樹・古木巡りツアー事業	700,000	700,000	
	普	A50	緑の少年団活動活性化事業	480,000	480,000	

(単位：円)

埼玉	普	A51	さいたま森林フォトコンテスト事業	1,550,000	1,550,000	
	普	A53	緑化普及啓発事業	690,000	860,000	当初助成額の変更
千葉	普	A54	「森林分野×SDGs」パートナーシップの構築普及啓発事業	1,548,000	1,548,000	当初助成額の変更
	普	A54-1	一宮町東浪見・海岸保安林再生植樹事業	212,000	212,000	当初助成額の変更
東京	調	B1	ふるさとの杜活力調査事業	2,250,000	2,249,280	
新潟	普	A55	卒寿の森づくり事業	673,000	673,000	
	普	A56	にいがた緑の百年物語普及啓発事業（秋期）	1,946,000	1,907,862	
	普	A57	にいがた緑の百年物語普及啓発事業（春期）	1,118,000	1,118,000	
	普	A58	☆スガ池周辺整備設計・植生調査委託事業	423,000	423,000	
富山	普	A59	森林・木材等普及啓発事業	1,380,000	1,380,000	
	普	A59-1	花とみどりの少年団活動支援事業	350,000	350,000	
石川	普	A60	緑化思想の普及啓発事業	120,000	120,000	
	基	C27	県内産緑化苗木無償配布事業	190,000	190,000	
	基	C28	森づくりボランティア・キャンペーン事業	1,450,000	1,450,000	
福井	普	A61	もりとふれあい推進事業	1,370,000	1,370,000	
	基	C29	ふくい森林づくり推進事業	500,000	500,000	
山梨	普	A62	教職員森林・林業研修事業	150,000	150,000	
	普	A63	緑の少年隊活動発表会大会開催事業	180,000	180,000	
	普	A64	緑化ポスターコンクール等開催事業	400,000	400,000	
	普	A65	子ども樹木博士認定事業	400,000	400,000	
	普	A66	親子緑の集い開催事業	500,000	500,000	
	普	A67	親子森林・林業体験教室開催事業	400,000	400,000	
	普	A68	☆森林環境教育・木育支援事業	300,000	300,000	
長野	普	A69	緑・森林の感謝祭等開催事業及び児童啓発事業	4,160,000	4,160,000	
岐阜	普	A70	緑化推進キャンペーンと資材供給事業	1,650,000	2,380,000	当初助成額の変更
	基	C30	恵みの森づくり事業	1,530,000	800,000	当初助成額の変更
静岡	普	A71	森づくり県民大作戦支援事業	840,000	840,000	
	基	C31	森林ESD推進事業	2,500,000	2,500,000	
愛知	普	A72	みどりに親しむ集い事業	1,050,000	750,000	当初助成額の変更
	普	A73	みどりフェスティバル22秋・23春事業	500,000	650,000	当初助成額の変更
	普	A74	苗木の育成と配布事業	440,000	590,000	当初助成額の変更
	調	B2	ふるさと樹木診断事業	1,070,000	1,070,000	
	基	C32	森林ボランティア養成事業	770,000	770,000	
三重	普	A75	緑の少年隊活動推進	570,000	300,000	当初助成額の変更
	普	A76	森林教室開催	340,000	352,000	当初助成額の変更
	普	A77	森林ボランティア活動促進	810,000	431,000	当初助成額の変更
	普	A78	県民参加の植樹祭開催事業	280,000	515,000	当初助成額の変更
	普	A79	海・山連携植樹事業	410,000	500,000	当初助成額の変更
	普	A79.1	森林ウォーキング	312,000	312,000	当初助成額の変更
滋賀	基	C33	緑の少年団育成事業	2,250,000	2,250,000	
大阪	普	A81	自然環境保全団体ネットワーク事業	200,000	200,000	
	普	A82	府民参加の森林づくり	2,650,000	2,650,000	
兵庫	普	A83	兵庫県立ふるさとの森公園活動支援事業（国見の森）	200,000	200,000	
	普	A84	兵庫県木材利用促進協議会（ひょうご木材フェア）	200,000	200,000	
	基	C34	森林整備・緑化活動支援事業	2,540,000	2,540,000	
奈良	普	A85	森の文化活動事業	1,510,000	1,510,000	
	基	C35	ボランティア活動推進事業	200,000	200,000	
和歌山	普	A86	普及啓発事業	1,690,000	1,690,000	
	基	C36	活動基盤の整備	640,000	640,000	
鳥取	普	A87	樹名板設置事業	100,000	191,000	当初助成額の変更
	普	A88	木工工作キット配布事業	1,340,000	1,423,000	当初助成額の変更
	基	C37	青少年・民間活動グループの育成支援事業	200,000	100,000	当初助成額の変更
	基	C38	森林空間活用推進事業	200,000	126,000	当初助成額の変更
鳥根	普	A89	「森の誕生日」2023事業	400,000	400,000	
	基	C39	緑の少年団育成強化事業	1,400,000	1,400,000	
岡山	普	A90	森林を考える岡山県民のつどい	300,000	300,000	
	普	A91	県産木材フェア開催事業	400,000	400,000	
	普	A92	くらしき都市緑化フェア	550,000	1,820,000	
	基	C40	緑化普及推進事業	1,240,000	500,000	
広島	普	A93	「みどりの集い」開催事業	1,520,000	1,820,000	当初助成額の変更
	普	A94	「ひろもくデザインアワード」開催事業	500,000	500,000	
	基	C41	「緑の少年団交流集会」開催事業	1,000,000	700,000	当初助成額の変更
	普	A95	森林体験学習支援事業	640,000	640,000	
山口	基	C42	都市と山村ふれあい交流促進事業	360,000	360,000	
	基	C43	記念の森造成事業	1,000,000	1,000,000	
徳島	基	C44	企業の森づくり普及啓発イベント事業	1,960,000	1,960,000	
香川	普	A96	緑化普及活動事業	1,410,000	1,410,000	
愛媛	普	A97	木工作品製作キット配布事業	1,880,000	2,028,000	当初助成額の変更
	普	A98	愛媛の森林友の会の育成及び研修活動	200,000	52,000	当初助成額の変更

(単位：円)

高知	普	A99	土佐の名所の樹木活性化事業	600,000	600,000	
	普	A100	森のようちえん推進事業	450,000	530,000	当初助成額の変更
	普	A102	高知県森林インストラクター養成講座	400,000	400,000	
	基	C45	地域の森林整備事業	60,000	60,000	
福岡	普	A103	森林ふれあい交流	510,000	510,000	
	普	A104	グリーンフェスティバル 2023	570,000	570,000	
	普	A105	第32回世界子ども愛樹祭コンクール	300,000	300,000	
	普	A106	第10回もりもり広がる森林づくり	350,000	350,000	
	普	A107	花立山の里山保全作業	350,000	350,000	
	普	A108	里まちサイクルプロジェクト	400,000	400,000	
	普	A109	☆森を五感で感じよう(森林体験活動)	210,000	210,000	
佐賀	普	A110	「よかウッドフェスタ」開催事業	1,400,000	1,220,000	当初助成額の変更
	基	C47	緑の探検学習会開催事業	390,000	484,155	当初助成額の変更
長崎	普	A111	森林のつどい事業	1,220,000	1,220,000	
	基	C48	緑の少年団活動活性化事業	1,050,000	1,050,000	
	基	C49	森のめぐみいきいき活用促進事業	500,000	500,000	
熊本	普	A112	くまもと森づくり普及啓発事業	1,000,000	1,000,000	
	基	C50	緑の少年団活動育成事業	1,090,000	1,090,000	実施期間の変更
	基	C51	シンボル森林の活用促進事業	600,000	600,000	
大分	普	A113	ふれあい森林教室	650,000	550,000	当初助成額の変更
	普	A114	木と暮らしのフェア	80,000	80,000	
	調	B3	名木保全事業	910,000	1,260,000	当初助成額の変更
	基	C52	森林ボランティアリーダー養成研修	150,000	150,000	
宮崎	普	A116	緑と花のふれあい推進事業	2,370,000	2,370,000	
	普	A117	森林浴癒しの集い事業	280,000	280,000	
鹿児島	普	A118	かごしまの緑・元気な森林体験事業	2,130,000	2,130,000	
	調	B4	かごしまの名木古木樹勢診断事業	200,000	200,000	
	基	C53	活力ある緑の少年団活動促進事業	500,000	500,000	
	基	C54	森林ボランティア活動促進事業	800,000	800,000	
沖縄	普	A119	令和4年度 緑の育樹祭開催事業	1,470,000	1,470,000	
			合 計	118,732,000	114,260,672	

令和3年度 緑と水の森林ファンド都道府県事業一覧

(単位：円)

都道府県	区分	番号	事業名	助成額	実施額	備考
宮城	基	C21	宮城県みどりの少年団大会開催事業	2,040,000	2,040,000	
			合 計	116,500,000	117,946,230	

国 緑 4 第 1 号
令和4年 2月1日

都道府県緑化推進委員会 様

公益社団法人 国土緑化推進機構
理事長 濱 田 純 一

令和4年度「緑と水の森林ファンド」都道府県事業の助成申請について

令和4年度「緑と水の森林ファンド」都道府県事業の要望につきましては、別添「令和4年度緑と水の森林ファンド都道府県事業実施要領」（以下、「要領」という。）を踏まえ、〔様式1〕により令和4年4月8日（金）までに提出してください。

なお、最近の厳しい経済情勢から森林ファンド運用収入が減少傾向で推移しております。事業の助成申請に当たっては、必要性・効率性等に十分留意されますようお願いいたします。

また、具体的事業内容につきましては、地域の実態・特性を十分考慮するとともに重点課題（別添「要領」のⅡ）の趣旨を踏まえて申請するよう併せてお願いいたします。

（提出に当たっては、メール（データ、PDF）、印略にても受け付けます。）

担当：基金業務 井上
03（3262）8457
E-mail: inoue@green.or.jp

令和4年度「緑と水の森林ファンド」都道府県事業実施要領

I 基本方針

社会環境の変化に伴い、国民の森林・みどりに対する関心はますます高まっており、具体的な「国民参加の森林づくり運動」を一層推進することが課題となっています。

平成24年12月「国際森林デー」の制定、平成25年11月「国連持続可能な開発のための教育10年（ESD）」世界会議等の意義、平成27年9月の国連サミットで採択された17の国際目標（SDGs：持続可能な開発目標）、人生100年時代におけるライフステージに応じた健康・教育・観光等への森林利用の促進を念頭に、森林の重要性に対する理解の推進を図るとともに、森のようちえんなど新たな森林の利用や森林環境教育の推進を具体的に図っていくことが重要となっています。さらに、東日本大震災では海岸林が多大な被害を受け、森林復興への支援が引き続き求められています。

このような中、公益社団法人国土緑化推進機構では、「緑と水の森林ファンド」の基本課題である森林資源の整備及びこれらを通じた水資源のかん養や森林の利用等に関する総合的な調査研究、普及啓発、基盤整備等の推進を図るため、民間団体の主体的・多様な参加による「国民参加の森林づくり」運動を展開することとし、以下により「緑と水の森林ファンド」都道府県事業を実施します。

II 重点課題の設定

令和4年度においては、以下の重点課題を設け、これらのテーマに沿った事業を重点的に実施することとします。

- ① 「森林環境教育（森のようちえんを含む）」、「震災復興支援」、「地域材の利用」、「地球温暖化防止と森林」、「森林と水」、「森林の利用」等の課題にポイントを置いた総合的・効率的な普及・啓発
- ② 地域材の利用推進、森林空間の教育的利用等山村資源の有効活用等による山村地域の活性化
- ③ リーダーの養成等の森林ボランティア活動支援
- ④ 学校林活動や緑の少年団活動の推進など森林環境教育（森のようちえんを含む）等による次世代の育成
- ⑤ 森林の公益的機能、木質バイオマス、森林環境教育等に関する調査研究

Ⅲ 具体的な事業の展開

普及啓発、調査研究、活動基盤の整備、国際交流の四分野において、以下の事業を重点的に実施する。

1 普及啓発事業

- (1) 森林・緑・水に対する国民の認識を深めるための普及啓発活動
- (2) 青少年を対象とする森林 ESD の推進（森のようちえんを含む）など森林環境教育の促進
- (3) 森林づくり活動や森林の総合的利用を通じた山村地域の活性化・地域づくり運動の推進
- (4) 地域材の利用・木材需要の拡大、古紙利用等の推進

2 調査研究

- (1) 森林の保全・公益的機能の増進等に関する調査研究
- (2) 青少年を対象とする森林 ESD の推進（森のようちえんを含む）など森林環境教育に関する調査研究
- (3) 学校林や学校周辺林の教育的活用のための調査研究
- (4) 山村資源の有効活用・地場産業の振興等山村地域活性化に関する調査研究

3 活動基盤の整備

- (1) 森林 ESD の推進（森のようちえんを含む）や緑の少年団活動など森林ボランティアリーダーの養成・ネットワーク構築等の活動支援
- (2) 森林づくり活動を通じた農山村と都市住民等との交流促進
- (3) 青少年の教育の場としての森林の活用促進
- (4) 地域のシンボリック森林の利用促進

4 国際交流

- (1) 国内で開催される森林・環境に関する国際会議への支援
- (2) 森林・林業に関する海外との情報交換

Ⅳ 事業の適切な実施

令和4年度も厳しい予算事情にあることから、事業の必要性、緊急性、効率性、独自性や地域の特性等を十分考慮し、適切な実施に努めるものとする。

緑と水の森林ファンド都道府県事業 報告集 Vol. 12

令和 6 年 3 月発行

発行 公益社団法人 国土緑化推進機構

〒102-0093 東京都千代田区平河町2-7-4 砂防会館別館

TEL.03-6362-8457 FAX.03-3264-3974

電子メールアドレス : info@green.or.jp

URL : <https://www.green.or.jp>



緑と水の森林ファンド



緑化苗木頒布会（長野県木島平）
（緑・森林の感謝祭等開催事業及び児童啓発事業（長野県））